佐賀県文化財調査報告書第 176 集

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２－

西畑瀬遺跡 1

平成 20（2008）年 3 月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第 176 集

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２－

西畑瀬遺跡 1

平成 20（2008）年３月

佐賀県教育委員会

序

本書は、国土交通省九州地方整備局による嘉瀬川ダム建設事業に伴い、佐賀県教育委員会が実施している埋蔵文化財発掘調査の記録をまとめたものです。

今回の報告は、西畑瀬遺跡上層に関するもので、弥生時代から古墳時代の集落跡、古代から近世の集落跡等を調査しました。いずれも地域の歴史を物語る貴重な資料であり、先人の生活や文化を偲ばせるものです。

本書が学術文化の向上に幾分なりとも寄与し、併せて地域の歴史を学ぶ資料のひとつとして生涯教育や学校教育の場で活用されるものになれば幸いに存じます。

発刊にあたり、埋蔵文化財の保護に深い御理解と多大な御協力を賜った国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所並びに関係各位に対し衷心より厚くお礼申し上げ、御挨拶といたします。

平成20年3月

佐賀県教育委員会
教育長　川﨑俊広

例　言

1　本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴い佐賀県教育委員会が平成 12 ～ 17 年度に実施した佐賀市富士町所在の西畑瀬遺跡２～７区上層の発掘調査報告書で、嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第２冊である。

2　発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所の委託を受けて実施した。

3　発掘調査にあたっては、国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所、佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課）、富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）、富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）、並びに地元各位の協力を得た。

4　本書の表紙と写真図版の一部に用いた平成４年撮影の航空写真は、嘉瀬川ダム工事事務所から提供を受けた。

5　西畑瀬遺跡では弥生時代から近世の遺構・遺物と縄文時代の遺構・遺物が重層的に検出されている。本書では上層の弥生時代から近世の遺構・遺物について報告し、下層の縄文時代の遺構・遺物については次年度以降に報告する。なお、西畑瀬遺跡１区については平成９年度に当時の富士町教育委員会により発掘調査が行われたが、同じ嘉瀬川ダム建設に伴う調査であり、２～７区上層と一連の内容であるため、嘉瀬川ダム工事事務所・佐賀市教育委員会と協議のうえ併せて記載することとした。

5　西畑瀬遺跡２～７区上層の現地調査から報告書作成までの作業に従事したものは下記のとおりである。

発掘作業：	姉川妙子	内田英子	嬉野サツキ	江口フトセ	岡本和子
	岡本君子	小副川千代恵	小田村絹代	貝野啓子	嘉村久美子
	嘉村健一	嘉村末入	嘉村ヒトミ	嘉村ユミ	杵島和代
	久池井朝子	坂口久美子	坂口伸己	坂口久江	佐保マリ子
	篠原テツ子	下津浦理恵	庄島信子	園田公子	立石スミエ
	立石次良	堤　綺代美	時松紗喜子	中島鶴美	中田政信
	中原春己	西　定慶	西　里枝	納富弘子	八段ヒフミ
	東川福代	藤瀬サツ子	藤田一雄	豆田正秀	丸山民江
	水田タケコ	無津呂明子	森　ミカノ	吉原英輔	吉原文代
	吉原松美	吉原幹夫	吉原美智子	糸山禎一	今泉好幸
	岩熊素子	内川さつき	嬉野みつ代	遠藤啓輔	川原トシ子
	北島裕司	小柳正義	坂井和子	坂井義人	實松政秀
	澤田健吉	重松敏行	高木俊治	高島義隆	千綿一夫
	千綿伸義	成富　實	野田恵美子	真﨑政嗣	松浦　勝
	丸内隆康	丸内由美子	三角憲一郎	光武宣子	藤井千枝子
	古川　勲	杠　義臣	横尾和夫	龍頭　實	
遺構実測：	江島賢一	加藤吾郎	徳永貞紹	秦　広之	前田耕輔
	嬉野みつ代	時松紗喜子	野田美恵子	藤井千枝子	吉原文代
	（株）埋蔵文化財サポートシステム				
遺構写真撮影：	江島賢一	大坪芳典	加藤吾郎	徳永貞紹	秦　広之
	深澤幸江	前田耕輔			
遺跡空中写真撮影：（有）空中写真企画			九州航空（株）		

遺物整理：	古賀美江	坂本明子	佐保敦子	重田正子	柴村悦子
	谷澤裕美	徳永美穂子	堀田香澄	松尾三枝子	山口カズヨ
遺物実測：	大坪芳典	江島賢一	江副朋子	大串早苗	桑原廣子
	指山美江子	上瀧光子	竹内奈央	辻　静子	鶴田啓子
	兵動美紀	村里育子	（株）埋蔵文化財サポートシステム		
整図（デジタルトレース）：		馬場里美	江副朋子	皆越弘子	村里育子
		（株）埋蔵文化財サポートシステム			（株）とっぺん
遺物写真撮影：	小森義尚	濱田美紀	（株）とっぺん		
写真整理・編集：	濱田美紀	馬場里美	奈良佳子	奥　知恵子	

調査記録整理：　弥生時代～古墳時代の遺構・遺物：濱田美紀
古代～中世の遺構：濱田美紀・徳永貞紹
古代～中世の遺物：徳永貞紹・前田耕輔
近世の遺物：徳永貞紹・前田耕輔

6　本書の編集は濱田美紀・馬場里美・奈良佳子の協力を得て徳永貞紹が行った。執筆分担は下記のとおりである。
第１章、第２章、第３章１・３・４・５（２）：徳永貞紹
第３章２・５（１）：濱田美紀

7　西畑瀬遺跡上層の整理・報告にあたって、下記の方々から御教示・御協力をいただいた。

赤司善彦	岩崎仁志	大橋康二	片山まび	小松　譲	重久淳一
柴垣勇夫	渋谷　格	中島恒次郎	中村和美	抜水茂樹	船井向洋
古庄秀樹	前田耕輔	美濃口紀子	美濃口雅朗	森田孝志	森本朝子
山本信夫	渡部芳久	（五十音順）			

本書の記載方法

1　嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の対象遺跡には英大文字３文字の略号を与え、実測図・写真等の記録類や出土遺物の注記等に使用している。本書で報告する西畑瀬遺跡はＮＨＴの略号で示される。

2　個々の遺構名は、遺構の種別を表す英大文字２文字の分類記号（下記参照）と４桁の遺構番号の組み合わせで示す。遺構番号の千の位には、各遺跡ごとに地区名を示す数字を付けている。

なお、小穴・柱穴は遺物の出土したものに限り、Ｐの略号を用いて他の遺構とは別個の遺構番号を与えている。このうち掘立柱建物や柵列などの遺構を構成するものについては英大文字を用いてＰＡ、ＰＢ、…の要領で示し、それ以外の柱穴・小穴については算用数字４桁の一連番号を付け、千の位で地区名を示す。

ＳＡ：柵列・塀・土塁・石塁	ＳＢ：掘立柱建物・礎石建物	ＳＣ：石棺墓・石蓋土坑墓
ＳＤ：堀・溝・流路	ＳＥ：井戸　　ＳＦ：道路	ＳＧ：園池・庭園
ＳＨ：竪穴住居・竪穴建物	ＳＪ：甕棺墓・土器棺墓	ＳＫ：土坑
ＳＰ：土坑墓・木棺墓	ＳＴ：古墳・その他の墳墓	ＳＸ：その他・不明遺構

3　出土遺物の○○形土器は、○○とのみ表現する。例）甕形土器→甕

4　実測した出土遺物には８桁の遺物登録番号を１点ずつ付し、挿図には本書中での通し番号を付した。

5　表で示した出土遺物の計測値は、復元値に *、残存値に + を付けて表現する。

6　平成 14 年４月に改正測量法が施行されたが、調査時の記録類は全て日本測地系による旧国土座標であることから、混乱を回避するため、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査では今のところ世界測地系による座標を使用していない。

本書で示す方位は旧国土座標第Ⅱ系の座標北で、磁北はこれより西偏約６°30′である。

7　出土遺物に関して、本文・表中で記述の煩雑さを避けるため下記の分類・編年を使用・参照した。

・古代～中世前期の中国陶磁：

太宰府市教育委員会（2000）『大宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集

・中世の土器鍋：

徳永貞紹（1990）「肥前における中世後期の在地土器」『中近世土器の基礎研究Ⅵ』 日本中世土器研究会

目次

本文目次

第１章　調査の経過 …… 1

1　調査の経緯 …… 1
2　調査組織 …… 1
3　発掘調査の経過 …… 2

第２章　位置と環境 …… 5

1　地理的環境 …… 5
2　歴史的環境 …… 5

第３章　西畑瀬遺跡１～７区上層 …… 11

1　西畑瀬遺跡１～７区上層の概要 …… 12
2　弥生～古墳時代の遺構と遺物 …… 17
　１）　弥生時代の遺構と遺物 …… 17
　２）　古墳時代の遺構と遺物 …… 18
3　古代～中世の遺構と遺物 …… 22
　１）　南地区古代～中世の遺構と遺物 …… 22
　２）　北地区古代～中世の遺構と遺物 …… 43
4　近世の遺物 …… 123
5　まとめ …… 126
　１）　弥生時代から古墳時代における西畑瀬遺跡 …… 126
　２）　古代から中世における西畑瀬遺跡 …… 127

挿図目次

図 1　嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区（1/25,000）…… 4
図 2　西畑瀬遺跡の位置（1/600,000）…… 7
図 3　嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡（1/100,000）…… 8
図 4　西畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）…… 13
図 5　西畑瀬遺跡調査区の位置（1/2,000）…… 14
図 6　西畑瀬遺跡 1 ～ 7 区上層の遺構分布（1/2,000）…… 15
図 7　弥生～古墳時代の遺構・遺物分布（1/1,000）…… 16
図 8　弥生～古墳時代の遺構（1/20）…… 17
図 9　弥生～古墳時代の遺物 1（1/3）…… 19
図 10　弥生～古墳時代の遺物 2（1/3）…… 20
図 11　南地区古代～中世の遺構分布（1/800）…… 24
図 12　南地区古代～中世の遺構分布詳細 1（1/400）…… 25
図 13　南地区古代～中世の遺構分布詳細 2（1/400）…… 26
図 14　南地区古代～中世の遺構分布詳細 3（1/400）…… 27
図 15　南地区古代～中世の土坑（1/40）・その他の遺構（1/120）…… 28
図 16　南地区古代～中世の溝（1/80）・小溝群（1/40）…… 29
図 17　南地区古代～中世の遺物 1（1/3、45 は 1/2）…… 31
図 18　南地区古代～中世の遺物 2（1/3）…… 32
図 19　北地区古代～中世の遺構分布（1/1,500）…… 36
図 20　北地区古代～中世の遺構分布詳細 1（1/800）…… 37
図 21　北地区古代～中世の遺構分布詳細 2（1/800）…… 38
図 22　北地区古代～中世の遺構分布詳細 3（1/800）…… 39
図 23　北地区古代～中世の遺構集中部 1（1/400）…… 40
図 24　北地区古代～中世の遺構集中部 2（1/400）…… 41
図 25　北地区古代～中世の遺構集中部 3（1/400）…… 42
図 26　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部 1（1/250）…… 44
図 27　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部 2（1/250）…… 45
図 28　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部 3（1/250）…… 46
図 29　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部 4（1/250）…… 47
図 30　北地区古代～中世の掘立柱建物 1（1/80）…… 48
図 31　北地区古代～中世の掘立柱建物 2（1/80）…… 49
図 32　北地区古代～中世の掘立柱建物 3（1/80）…… 50
図 33　北地区古代～中世の掘立柱建物 4（1/80）…… 51
図 34　北地区古代～中世の掘立柱建物 5（1/80）…… 52
図 35　北地区古代～中世の掘立柱建物 6（1/80）…… 53
図 36　北地区古代～中世の掘立柱建物 7（1/80）…… 55
図 37　北地区古代～中世の掘立柱建物 8（1/80）…… 56

図 38　北地区古代～中世の掘立柱建物 9（1/80）…… 57
図 39　北地区古代～中世の掘立柱建物 10（1/80）…… 59
図 40　北地区古代～中世の掘立柱建物 11（1/80）…… 61
図 41　北地区古代～中世の掘立柱建物 12・柵列 1（1/80）…… 62
図 42　北地区古代～中世の柵列 2（1/80）…… 63
図 43　北地区古代～中世の掘立柱建物・柵列出土遺物（1/3）…… 65
図 44　SD5017（1/600）…… 66
図 45　SD5017 土層（1/80）…… 67
図 46　SD5017 出土遺物 1（1/3）…… 69
図 47　SD5017 出土遺物 2（1/3）…… 70
図 48　SD5017 出土遺物 3（1/3）…… 71
図 49　SD5017 出土遺物 4（1/3）…… 72
図 50　SD5017 出土遺物 5（1/3）…… 73
図 51　SD5017 出土遺物 6（1/3）…… 74
図 52　SD5017 出土遺物 7（1/3）…… 75
図 53　SD5017 出土遺物 8（1/3）…… 76
図 54　SD5017 出土遺物 9（1/3）…… 77
図 55　SD5017 出土遺物 10（383 ～ 390 は 1/2、391 ～ 395 は 1/3）…… 78
図 56　SD5017 出土遺物 11（396 ～ 399 は 1/3、400 ～ 409 は 1/2）…… 80
図 57　SD6001（1/200）、土層（1/50）…… 82
図 58　SD6001 出土遺物（1/3）…… 83
図 59　北地区古代～中世の溝（1/80、1/200、1/320）…… 85
図 60　北地区古代～中世の土坑 1（1/40）…… 86
図 61　北地区古代～中世の土坑 2（1/40）…… 87
図 62　北地区古代～中世の土坑 3（1/40）…… 88
図 63　北地区古代～中世の土坑 4（1/40、1/60）…… 89
図 64　北地区古代～中世の溝・土坑出土遺物 1（1/3、465 は 1/2）…… 90
図 65　北地区古代～中世の土坑出土遺物 2（1/3）…… 91
図 66　北地区古代～中世の土坑出土遺物 3（1/3）…… 92
図 67　北地区古代～中世の鍛冶関連遺構（1/20）…… 98
図 68　北地区古代～中世のその他の遺構（1/20、1/40、1/60）……100
図 69　北地区古代～中世のその他の遺構出土遺物（1/3、537 は 1/2）……101
図 70　北地区古代～中世の小穴出土遺物 1（1/3）……103
図 71　北地区古代～中世の小穴出土遺物 2（1/3、605 は 1/2）……104
図 72　北地区古代～中世の遺構外出土遺物（1/3）……105
図 73　近世の出土遺物（1/3、657・658 は 1/2）……124

表目次

表1　嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 …… 2
表2　弥生～古墳時代の出土遺物 …… 21
表3　南地区古代～中世の出土遺物 …… 34
表4　北地区古代～中世の出土遺物 …… 107
表5　近世の出土遺物 …… 125

写真図版目次

写真図版1　嘉瀬川ダム予定地中心部（南東から） …… 133
写真図版2　西畑瀬遺跡遠景（南東から） …… 134
写真図版3　西畑瀬遺跡遠景（南から） …… 135
写真図版4 …… 136
SX2001（南西から）　SX2002（北から）　SJ6005 廃棄出土状況（西から）

写真図版5 …… 137
SX1006（南から）　SX1006（北から）　SX7004 土師器廃出土状況

写真図版6 …… 138
1区全景（北東から）　2区全景（南西から）　5S区全景（上が南西）

写真図版7 …… 139
7区全景（上が南西）　SK1004（南西から）　SX5002（西から）

写真図版8 …… 140
4区北側遠景（南東から）　4区北側遠景（南東から）

写真図版9 …… 141
4区北側北半（上が北西）　4区北側南半（上が西）

写真図版10 …… 142
4区北側拡大（上が西）　4区北側拡大（上が西）

写真図版11 …… 143
4区南側遠景（北から）　4区南側遠景（南西から）

写真図版 12 …… 144

4 区南側全景（上が南）　4 区南側拡大（上が南）

写真図版 13 …… 145

5 N・5 S 区遠景（北から）　5 N 区全景（上が南西）

写真図版 14 …… 146

5 N 区拡大（上が南西）　5 N 区拡大（上が南西）

写真図版 15 …… 147

6 区遠景（南から）　6 区遠景（西から）

写真図版 16 …… 148

6 区北側（上が北）　6 区中央（上が北東）

写真図版 17 …… 149

SB4092（上が東）　SB4113（東から）　SB5074（北から）
SB5075（東から）　SB5076（西から）　SB5077（東から）
SB5078（東から）　SB5079（北から）

写真図版 18 …… 150

5N 区 SD5017（西から）　5N 区 SD5017（東から）　5N 区 SD5017 A 土層（東から）
5N 区 D5017 B 土層（東から）　6 区 SD5017（上が南西）　6 区 SD5017 J 土層（南東から）
SD6001（上が北東）　SD6001 土層（東から）

写真図版 19 …… 151

SK4061（東から）　SK4079（東から）　SK4080（東から）
SK4089（西から）　SK4090・4091（西から）　SK4097（南から）
SK4098（南から）　SK4103（南から）

写真図版 20 …… 152

SK4104（南から）　SK5021（東から）　SK5028（南から）
SK5032 遺物出土状況（西から）　SK5033（南から）　SK5034（西から）
SK5035（北から）　SK5047 遺物出土状況（東から）

写真図版 21 …… 153

SX4126（北から）　SX5041 半截状況（南から）　SX5045 検出状況（西から）
SX5045 半截状況（東から）　SX5072 検出状況（東から）　SX5072 半截状況（南から）
SX5026 検出状況（西から）　SX5026 半截状況（西から）

写真図版 22 …… 154

SX4108 平面状況（東から）　SX4108（東から）　SX4109 平面状況（南から）
SX4109（南から）　SX4115 平面状況（東から）　SX4115（東から）
SX5042 平面状況（南から）　SX5042（西から）

写真図版 23 …… 155

SX5044 検出状況（東から）　SX5044 平面状況（東から）　SX5044 遺物出土状況（東から）
SX5044（西から）　SX5066 検出状況（北から）　SX5066（西から）
SX5073 平面状況（東から）　SX5073（東から）

写真図版 24 …… 156

SX5082 平面状況（東から）　SX5083 平面状況（南から）　SX5084 平面状況（東から）
SX5022（東から）　SX5027（南から）　SX5029（西から）
SX6003（西から）　SX6003 遺物出土状況

写真図版 25　弥生～古墳時代の遺物 …… 157
写真図版 26　南地区古代～中世の遺物 1 …… 158
写真図版 27　南地区古代～中世の遺物 2、北地区古代～中世の遺物 1 …… 159
写真図版 28　北地区古代～中世の遺物 2 …… 160
写真図版 29　北地区古代～中世の遺物 3 …… 161
写真図版 30　北地区古代～中世の遺物 4 …… 162
写真図版 31　北地区古代～中世の遺物 5 …… 163
写真図版 32　北地区古代～中世の遺物 6 …… 164
写真図版 33　北地区古代～中世の遺物 7 …… 165
写真図版 34　北地区古代～中世の遺物 8 …… 166
写真図版 35　北地区古代～中世の遺物 9 …… 167
写真図版 36　北地区古代～中世の遺物 10 …… 168
写真図版 37　北地区古代～中世の遺物 11 …… 169
写真図版 38　北地区古代～中世の遺物 12、近世の遺物 …… 170

第１章　調査の経過

１　調査の経緯

嘉瀬川ダムは、嘉瀬川水系嘉瀬川の総合開発の一環として佐賀県佐賀市富士町（平成 17 年 10 月１日に佐賀市、佐賀郡富士町、同郡大和町、同郡諸富町、神埼郡三瀬村が対等合併した）で建設が進められており、洪水調節をはじめ、流水の正常な機能の維持、灌漑用水及び都市用水の補給、及び水力発電に供される多目的ダムである。

嘉瀬川ダム建設事業とこれに伴う文化財調査の詳しい経緯については既刊の『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』に記しているので参照されたい。平成 19 年度は、大野遺跡５区、入道遺跡１区、九郎遺跡１Ｃ区、地蔵平遺跡１Ａ・１Ｂ・２Ａ区、東畑瀬遺跡６Ｔ区、西畑瀬遺跡８・９Ａ区の発掘調査を実施し、本書の作成を行った。

本書は、嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第２冊目となるもので、西畑瀬遺跡１～７区のうち上層の弥生時代～近世の遺構・遺物を収録した。下層の縄文時代の遺構・遺物については、次年度以降に報告する予定である。

２　調査組織

調査主体　　佐賀県教育委員会

調査協力　　国土交通省九州地方整備局嘉瀬川ダム工事事務所
　　富士町教育委員会（現・佐賀市教育委員会）
　　佐賀県土木部ダム対策課・河川砂防課ダム対策室（現・佐賀県県土づくり本部水資源対策課）
　　富士町ダム対策課（現・佐賀市富士支所嘉瀬川ダム対策課）
　　地元各位

調査組織（平成 19 年度）

総括	佐賀県教育委員会　教育長	吉野健二（平成 19 年５月まで）
	佐賀県教育委員会　教育長	川﨑俊広（平成 19 年５月から）
	佐賀県教育委員会　副教育長	古谷　宏
	佐賀県教育庁文化課長	松永光生
	佐賀県教育庁文化課　参事	東中川忠美
	佐賀県教育庁文化課　副課長	松本誠一
調査総括	佐賀県教育庁文化課　主幹	森田孝志
調査員	佐賀県教育庁文化課　主査	徳永貞紹
	佐賀県教育庁文化課　指導主事	井上倫生
	佐賀県教育庁文化課　主査	白木原　宣
	佐賀県教育庁文化課　嘱託	市田佳奈子
	佐賀県教育庁文化課　嘱託	内田真一郎
	佐賀県教育庁文化課　嘱託	森　幸一郎
	佐賀県教育庁文化課　嘱託	竹内奈央
	佐賀県教育庁文化課　嘱託	濱田美紀

事務局	佐賀県教育庁文化課	副課長	中村　信
	佐賀県教育庁文化課	主幹	佐伯勇次
	佐賀県教育庁文化課	主査	平尾和子
	佐賀県教育庁文化課	主査	黒木文好
	佐賀県教育庁文化課	主事	吉田顕徳

調査指導・助言　文化庁記念物課　　佐賀県文化財保護審議会　　山本信夫

3　発掘調査の経過

嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、関連工事に伴って富士町教育委員会（当時）により平成７～９年度に断続的に行われたが、平成 11 ～ 12 年度の水没地区内確認調査の結果を踏まえ、平成 12 年度以降は佐賀県教育委員会が継続して実施している。水没地区内及び付替国道・付替市道など嘉瀬川ダム工事事務所所管工事に伴って発掘調査が必要な遺跡は、現時点で 13 遺跡にのぼり（図１、表１）、平成 19 年度までに東畑瀬遺跡１～８区、畑瀬城跡２区、西畑瀬遺跡１～９Ａ区、九郎遺跡１～３区、大串遺跡１区、大野遺跡１～５区、小ケ倉遺跡、地蔵平遺跡１～２Ａ区、入道遺跡１区を調査し、対象面積の約７割について終了している。

西畑瀬遺跡２～７区上層の調査は平成 12 ～ 17 年度にかけて断続的に実施した。また、西畑瀬遺跡１区の調査は平成９年度に富士町教育委員会（当時）が行っている。

表１　嘉瀬川ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

番号	遺跡名	略号	対象面積（㎡）	遺跡の時代	遺跡の種別
①	東畑瀬遺跡	HHT	121,300	縄文～近世	集落・城郭 神社・墓地
②	畑瀬城跡	HTJ	12,800	中世～近世	城郭・墓地
③	西畑瀬遺跡	NHT	58,800	縄文～近世	集落
④	旧ノ内遺跡	KNU	21,000	弥生～古墳	集落
⑤	九郎遺跡	KRO	17,950	旧石器～近世	集落
⑥	大串遺跡	OOK	3,000	中世	集落
⑦	大野遺跡	OON	35,200	縄文～近世	集落・官衙
⑧	フルタ遺跡	FRT	26,600	中世	集落
⑨	小ケ倉遺跡	KKA	47,000	旧石器～近世	集落
⑩	地蔵平遺跡	JZD	20,000	旧石器～縄文	集落
⑪	平岳遺跡	HBT	13,000	縄文	集落
⑫	音無瀬遺跡	OTN	1,500	近世	生産遺跡
⑬	入道遺跡	NYD	400	旧石器～縄文	集落

西畑瀬遺跡１区

略号：ＮＨＴ１

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田

調査対象面積：400㎡

調査担当：宗像　剛（富士町教育委員会：平成９年度）

西畑瀬遺跡２区

略号：ＮＨＴ２

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字登ノ下

調査対象面積：2,000㎡

調査担当：江島賢一（平成 12 年度）

西畑瀬遺跡３区

略号：ＮＨＴ３

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字中道

調査対象面積：7,500㎡

調査担当：樋口秀信（平成 13 年度）

西畑瀬遺跡４区

略号：ＮＨＴ４

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田・中田

調査対象面積：16,000㎡

調査担当：樋口秀信・大坪芳典・深澤幸江（平成 14 年度）、廣瀬雄一・秦　広之（平成 15 年度）

西畑瀬遺跡５区（５Ｎ区・５Ｓ区）

略号：ＮＨＴ５（ＮＨＴ５Ｎ・ＮＨＴ５Ｓ）

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田

調査対象面積：9,500㎡

調査担当：廣瀬雄一・徳永貞紹・前田耕輔・秦　広之（平成 15 年度）

西畑瀬遺跡６区

略号：ＮＨＴ６

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田

調査対象面積：10,500㎡

調査担当：徳永貞紹・加藤吾郎・前田耕輔・市田佳奈子（平成 17 年度）

西畑瀬遺跡７区

略号：ＮＨＴ７

所在地：佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田

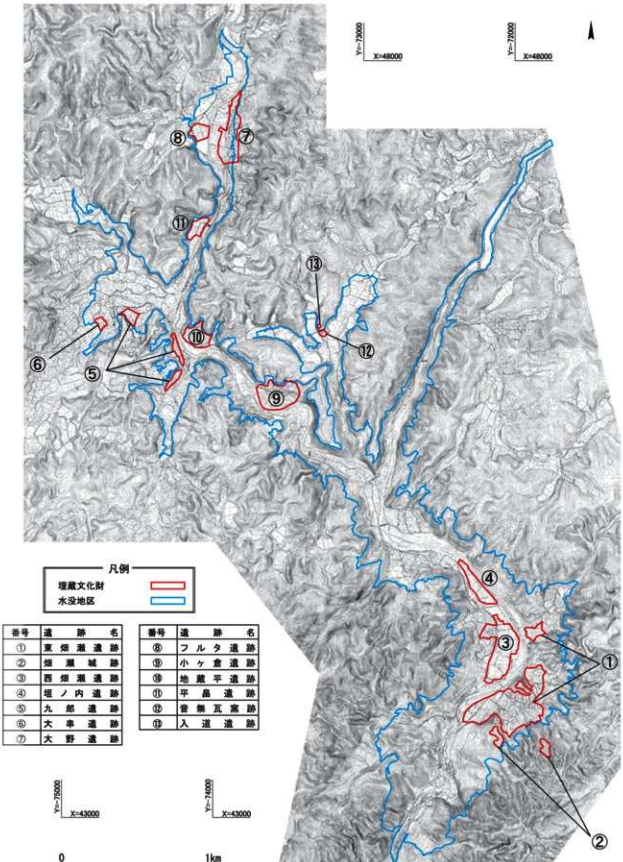
調査対象面積：2,000㎡

調査担当：徳永貞紹・加藤吾郎・前田耕輔・市田佳奈子（平成 17 年度）

調査記録や出土遺物の整理は発掘調査と並行して順次進めたが、本格的な報告書作成作業は平成 16 年度に着手し、平成 19 年度に本書を作成刊行した。

第１章　参考・引用文献

嘉瀬川ダム環境検討委員会・国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所（2003）「嘉瀬川ダム事業における環境保全への取り組み」 国土交通省嘉瀬川ダム工事事務所
嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）「嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書―佐賀県佐賀郡富士町―」 富士町教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）「富士町史」上・下巻　富士町



番号	遺跡名
①	東畑瀬遺跡
②	畑瀬城跡
③	西畑瀬遺跡
④	垣ノ内遺跡
⑤	九郎遺跡
⑥	大幸遺跡
⑦	大野遺跡

番号	遺跡名
⑧	フルタ遺跡
⑨	小ヶ倉遺跡
⑩	地蔵平遺跡
⑪	平畠遺跡
⑫	音無瓦窯跡
⑬	入道遺跡

図1　嘉瀬川ダム水没地区周辺と埋蔵文化財調査地区（1/25,000）

第２章　位置と環境

１　地理的環境

嘉瀬川は、佐賀県と福岡県の分水嶺をなす脊振山地の金山に源を発し、山間部を流下して神水川、天河川、名尾川などの支流を合わせ、肥前国府や肥前国一宮河上神社のあたりで山地を抜け、佐賀平野のほぼ中央を貫流して有明海に注ぐ、幹線流路延長 57km、流域面積 368km²の一級河川である。上流部には灌漑用水を主な目的とする北山ダムが昭和 32（1957）年に完成しているが、すぐ下流にあたる佐賀市富士町の中央部に多目的ダムとして建設中なのが、嘉瀬川ダムである。ダム予定地の下流には古湯温泉と熊の川温泉があり、県内外から多くの人が訪れている。

佐賀市富士町（旧佐賀郡富士町）は、佐賀県の北端部に位置し、北は県境の分水嶺を境に福岡県前原市・福岡市早良区と、東は佐賀市三瀬村（旧神埼郡三瀬村）・佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）と、西は唐津市七山・厳木町（旧東松浦郡七山村・厳木町）と、南は天山山地の尾根筋で小城市小城町・多久市とそれぞれ接している。旧富士町役場、現在の佐賀市役所富士支所の位置で言うと、東経 130° 12′ 03″、北緯 33° 22′ 58″に位置し、東西 10 km、南北 17 km、面積 143.25 km²である。気候は、温暖湿潤な佐賀県内の中でも平均気温が低く、降水量は多い。山間部特有の日照時間の短さともあいまって冬季の寒さが厳しい地域である。

地勢は、福岡県との県境をなす脊振山地の東西脊梁のうち羽金山・雷山・井原山・金山の峰々を北に仰ぎ、南に脊振山地の一部でもある天山山地がそびえ、両山地の間は高原状の丘陵地・山地とその間を流れる河川により開析された谷底平野・河岸段丘などからなる。西側には羽金山から亀莨を経て天山に連なる南北方向の分水界峰があり、これより東側が有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西側が玄界灘に注ぐ玉島川・松浦川水系となっている。佐賀市富士町地域は、東側の佐賀市三瀬村や更に東側の神埼市脊振町（旧神埼郡脊振村）と大小の谷や峠を介して連続しており、このような一体的な地勢の特徴が、「山内」という独自の地域圏を育んできた。

表層地質は中世代白亜紀に生成した花崗岩類を主体とし、雷山や天山周辺に局地的に三郡変成岩の塩基性深成岩類及び蛇紋岩と結晶片岩類が分布する。土壌は、南北の大起伏山地は礫質・粗砂質であるが、中央部の小起伏山地・丘陵地では風化が進んでやや粘土質の土壌に覆われている。山麓部や斜面には礫質・中粗粒の黄色土壌、河川沿いの谷底平野に中粗粒の黄色土壌や礫質・中粗粒・細粒の灰色低地土壌などが分布する。また、嘉瀬川上流域の北山ダム（北山湖）を中心とする一帯には北山層と名付けられた泥炭層を挟む湖成層が分布していて、第四期更新世末期頃に存在した「古北山湖」の湖底に堆積したものと考えられている。

旧富士町域の８割以上が森林で、更にその８割以上がスギ・ヒノキの人工林である。人工林以外の植生は、ほとんど常緑広葉樹林帯に属するが、標高 900 m級の南北山地の山頂部近くには夏緑広葉樹林帯が僅かに認められる。

動物相は、大型哺乳類ではイノシシ、キツネ、ニホンザル、タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、テンなどが生息し、ニホンザルやキツネは減少傾向にあるが、イノシシは近年急増しており、発掘調査中にも遭遇することがある。鳥類では主な留鳥として大小のサギ類、キジ、コジュケイ、キジバト、カワセミ、ヤマセミなどが見られ、国指定天然記念物のカササギ（カチガラス）は古湯地区より上流部には生息しておらず、嘉瀬川ダム地区内では確認されない。

２　歴史的環境

本地域の歴史的環境全般については、『富士町史』などを参照していただくとして、ここでは近年の遺跡調査により急速に充実してきた考古学的な所見を中心に概述する。

旧石器時代の遺跡は、地蔵平遺跡（10）、小ケ倉遺跡（9）、九郎遺跡（5）などでナイフ形石器などの示準石器が出土している。このうち平成18年度から発掘調査を継続している地蔵平遺跡では、旧石器時代～縄文時代草創期の3時期以上に及ぶ石器群が出土しており、姶良丹沢テフラ（ＡＴ）のブロックが遺存する箇所もある等、今後の調査や分析により多くの成果が期待される。

縄文時代の遺跡として知られる箇所は非常に多く、近年の発掘調査で縄文時代各時期の遺物が竪穴住居や炉跡などの遺構と共に検出され、遺跡の内容が明らかになりつつある。早期前葉の資料としては、小ケ倉遺跡で円筒形刺突文・押引文土器や石槍が出土しているほか、入道遺跡で集石炉と刺突文土器を検出している。また、西畑瀬遺跡の尖底条痕文土器も早期前葉の可能性がある。早期中葉では、貝野遺跡、中原遺跡、九郎遺跡などで稲荷山式～田村式期の遺物が出土している。早期後葉では、九郎遺跡や西畑瀬遺跡（3）で塞ノ神Ａ式・Ｂ式・轟Ａ式土器などが出土しており、西畑瀬遺跡では地床炉と思われる焼土遺構と焼礫集積遺構が検出されている。前期では九郎遺跡や西畑瀬遺跡で轟Ｂ式・西唐津式・曽畑式土器があり、西畑瀬遺跡ではＫ－Ａｈテフラを含む層が部分的にではあるが広がっていて、下層から塞ノ神Ｂ式・轟Ａ式期、上層から轟Ｂ式・曽畑式期の遺構・遺物が確認されている。中期～後期前葉の資料はやや少ないが、九郎遺跡で船元式、西畑瀬遺跡で春日式・阿高式系土器、東畑瀬遺跡で阿高式系土器が出土している。後期中葉～後葉では、西畑瀬遺跡で鐘崎式期頃の遺物集中部から石製垂飾が出土し、大野遺跡では三万田式期の集落で竪穴住居などの遺構を検出している。晩期では、東畑瀬遺跡で縄文時代後期末～弥生時代前期まで集落が断続的に営まれているほか、西畑瀬遺跡でも黒川式期の遺物群が出土している。

縄文時代と比べると、当地域における弥生時代から平安時代までの様相を知る手がかりは非常に少ない。標高が高く寒冷地であるこの地域では水稲耕作を基盤とする生活が成り立ちにくかったようで、弥生時代の遺跡数は極端に減少している。それでも、近年の埋蔵文化財調査の進展によって、これまで不明であった山間部の弥生時代～古代の様相が少しずつ知られるようになってきた。

弥生時代では、東畑瀬遺跡で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構が検出されているが、弥生時代特有の大陸系磨製石器は検出されておらず、縄文時代的な生活が続いていたようである。西畑瀬遺跡では中期の土器埋納遺構や後期の小児甕棺墓が検出されており、1点ではあるが石包丁（磨製砥摘具）も見つかっている（本書）。

古墳時代では、古墳はもちろん竪穴住居などを伴う集落の広がりも確認されていないが、同時代の土器は発掘調査や採集資料で散見され、西畑瀬遺跡では完形の土師器甕と土師器高杯の杯部2点を埋納した何らかの祭祀に関わる小穴が発見され（本書）、大野遺跡でも土坑が確認されている。

律令制下の当地域は肥前国佐嘉郡の範囲であったと思われ、嘉瀬川沿いの脊振山間部と佐賀平野部との結節点に肥前国府が置かれていることを考えると、嘉瀬川上流域も律令国家の関心外であったとは思えないが、具体的な様相を知る史料はなく、遺跡にしても内野遺跡で平安時代前期頃の土師器、西畑瀬遺跡で越州窯系青磁碗や須恵器等の平安時代前半期に遡る遺物が数点出土している程度である。

古代末以降においても、富士町域の各所がどの荘園・公領に含まれていたかを示すことが難しいが、少なくとも肥前安富荘領があったことは史料上で確認できる。南北朝初期の暦応2（1339）年4月25日石志定阿譲状案（石志氏家文書）は中世前期の富士町域を知る貴重な史料で、松浦党一族の石志氏が恩賞として配分された所領を子孫に伝えたものであるが、その中に「安冨庄内畑瀬村、同村内火桶」と「安冨庄畑瀬村内上於副河」が記されている。肥前安富荘に関しては宮武（1991）に詳しいが、佐賀郡一帯に散在的に散らばる荘領のうち、富士町畑瀬・上小副川、佐賀市大和町東山田・佐保・久留間、佐賀市久保田町北部で確認される遺称地については嘉瀬川流域に分布している点が注目される。古代末～中世前期の遺跡としては、東畑瀬遺跡、西畑瀬遺跡、九郎遺跡、大野遺跡で屋敷地などの遺構が見つかっていて、特に東畑瀬・西畑瀬遺跡の屋敷地は安富荘畑瀬村との関連で重要である。

安富畑瀬の名は、近世初期まで鍋島直茂所領目録（杠家文書）の「安冨畑瀬山」や東畑瀬宗源院半鐘銘の「佐賀郡安富庄畑瀬山」などで確認できるが、中世後期には畑瀬、栗並、藤瀬、菖蒲、等々の山内の各地を名字とする在

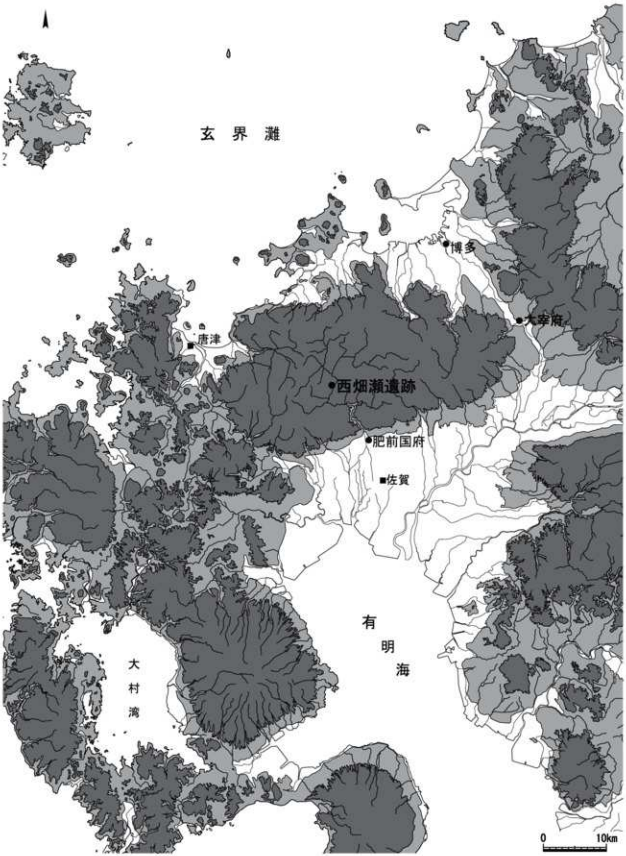


図２　西畑瀬遺跡の位置（1/600,000）

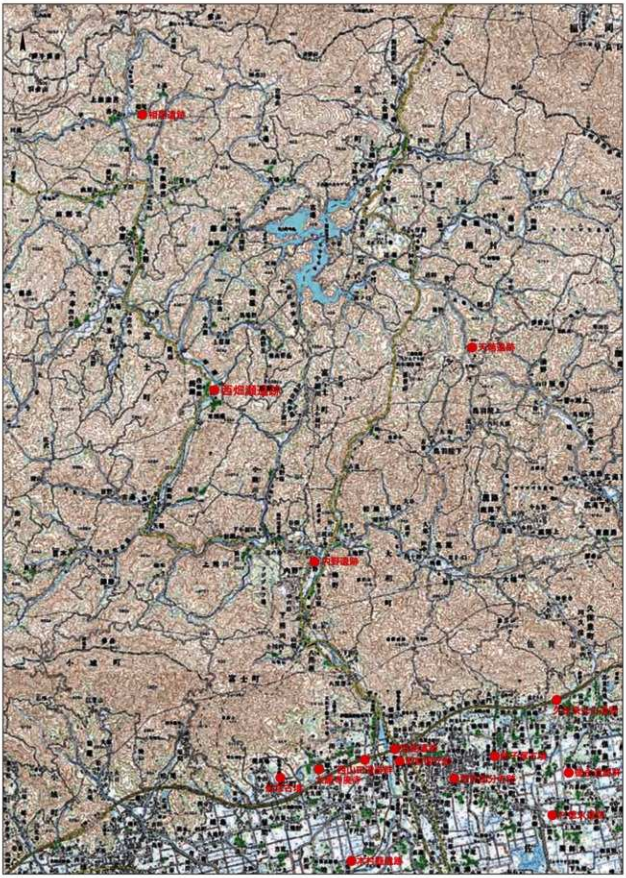


図3　嘉瀬川ダム建設予定地周辺の遺跡（1/100,000）　　国土地理院の数値地図 25000（地図画像）『福岡』・『熊本』を使用

地勢力の台頭によって荘園としては実態の伴わないものへ変化していったものと思われる。大串遺跡（６）では14～15世紀代の在地有力層に関わると思われる遺構群が見つかっており、当時における山内の実情を反映したものと考えられる。

戦国期に至ると、神代勝利が各地に割拠した小領主をまとめあげて山内を統一し、三瀬一帯を拠点として佐賀の龍造寺隆信と覇を競った。富士町域にも畑瀬城、熊の川城、谷田城などを構えたとされるが、その内容は明らかになっていない。このうち勝利が隠居所とした畑瀬城（２）に比定される東畑瀬地区の城郭遺構について山頂部の一部が調査されているが（富士町教委 2005）、恒常的に生活を営んだ痕跡は認められなかった。東畑瀬遺跡における調査所見では、山麓部に戦国期の土塁を伴う居館とその背後に構えられた城郭遺構が見つかっており、「畑瀬城」の実態は居館を核として一帯の城郭遺構まで含めたものの総体であろう。

勝利の嫡子長良は龍造寺氏と和睦し、龍造寺氏の重臣で鍋島藩祖となる鍋島直茂の甥を養子に迎えた。神代氏は小城芦刈、更に佐賀川久保へと転封されたが、川久保邑主として１万石の大身を保持した。山内は鍋島氏の所管となったが、元和３（1617）年の小城鍋島家（小城支藩）創設にあたって嘉瀬川以西の地域が分け与えられた。これ以降、明治維新を迎えるまで、それぞれ佐賀山内、小城山内として郷村支配が続いた。佐賀山内郷では松瀬三反田に、小城山内郷では大野に代官所が設置された。このうち大野地区に現存する大野代官所の遺構は江戸時代後期のものであるが、その設置時期や詳しい経緯についてはよく判っていない。城郭を思わせる本格的な石垣造りの遺構であり、単に一支藩が山間部の経営のために設けた代官所としては破格の規模である。隣藩との国境に近い軍事上の重要地であることが、その背景として想定される。史料では確認できないが、本藩の意向も反映されているのではないだろうか。隣接する大野遺跡では近世初期の役所的施設と見られる建物群が検出されており、これが大野代官所の前身のような施設であった可能性がある。

明治維新の後、伊万里県の設置や長崎県への統合などの紆余曲折を経て、明治16（1883）年に現在の佐賀県が成立した。これに先立つ明治11（1878）年の郡区町村編成法により、富士町域にあたる範囲では、佐賀郡小副川村、関屋村の２ヶ村、小城郡鎌原村、萢木村、市川村、杉山村、大串村、栗並村、大野村、中原村、麻那古村、上無津呂村、下無津呂村、上合瀬村、下合瀬村、古場村、古湯村、藤瀬村、畑瀬村、古湯村、上熊川村、内野村、下熊川村の20ヶ村が行政単位となっていたが、明治22（1989）年の市制町村制により上記の各村は佐賀郡小関村と小城郡北山村・南山村の３村に統合され、旧村名は大字として残ることになった。

昭和31(1956)年には佐賀郡小関村と小城郡北山村･南山村の３村が対等合併して富士村となり、昭和41(1966)年10月１日の町制施行により佐賀郡富士町となった。その39年後にあたる平成17(2005)年10月１日に、佐賀市･佐賀郡大和町・同郡諸富町・神埼郡三瀬村と対等合併して佐賀市富士町となった。

第２章　参考・引用文献

嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会（2000）『嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査報告書』 富士町教育委員会

佐賀県企画室（1979）『土地分類基本調査　彩崎』

佐賀県教育委員会（1997）『佐賀県の地質遺物』佐賀県文化財調査報告書第 134 集

佐賀県教育委員会（1964）『佐賀県の遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 13 集

佐賀県教育委員会（2007）『東畑瀬遺跡１・大野遺跡１』佐賀県文化財調査報告書第 170 集

佐賀県教育庁文化財課（1997）『九郎遺跡１区』『佐賀県文化財年報２』

佐賀県教育庁文化財課（1998）『大野遺跡（１区）』『佐賀県文化財年報３』

佐賀県教育庁文化課（2003）『大串遺跡（１区）』『佐賀県文化財年報８』

佐賀県教育庁文化課（2005a）『西畑瀬遺跡（４区）』『佐賀県文化財年報 10』

佐賀県教育庁文化課（2005b）『西畑瀬遺跡（５区）』『佐賀県文化財年報 10』

佐賀県教育庁文化課（2006a）『東畑瀬遺跡（５・６・７区）』『佐賀県文化財年報 11』

佐賀県教育庁文化課（2006b）『西畑瀬遺跡（５区）』『佐賀県文化財年報 11』

佐賀県教育庁文化課（2007a）『西畑瀬遺跡（６・７区）』『佐賀県文化財年報 12』

佐賀県教育庁文化課（2007b）「東畑瀬遺跡（8区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2007c）「畑瀬城跡（2区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県教育庁文化課（2007d）「大野遺跡（4区）」『佐賀県文化財年報 12』
佐賀県立図書館（1986）『佐賀郷史料集成　古文書編』第 27 巻
佐賀市教育委員会（2007）「大市遺跡」佐賀市埋蔵文化財調査報告書第 16 集
七田忠志（1949）「三瀬村出土の縄文式土器」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第 8 報　佐賀県教育委員会
徳永貞紀（1995）「神埼郡三瀬村田ノ宇曽遺跡の旧石器時代遺物」『佐賀考古』第 2 号　佐賀考古談話会
七山村教育委員会（2001）「馬川谷口遺跡 1 区・2 区」七山村文化財調査報告第 2 集
全国神代ゆかりの会（1980）「神代家伝記」『神代家とその一族』1 号
富士町教育委員会（1999）「岡野遺跡 1 区」富士町文化財調査報告書第 1 集
富士町教育委員会（2003a）「富士町内遺跡発掘調査報告書　平成 7 年度～ 13 年度」富士町文化財調査報告書第 2 集
富士町教育委員会（2003b）「中原遺跡 1 区」富士町文化財調査報告書第 3 集
富士町教育委員会（2005）「畑瀬城跡」富士町文化財調査報告書第 4 集
富士町誌編さん委員会（1968）「富士町誌」　富士町教育委員会
富士町史編さん委員会（2000）「富士町史」上巻・下巻　富士町
三瀬村誌編纂委員会（1977）「三瀬村誌」　三瀬村
宮武正登（1991）「本村遺跡をめぐる中世世界―安富荘内村落としての位置付け―」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集　佐賀県教育委員会

第３章　西畑瀬遺跡１～７区上層

第３章　西畑瀬遺跡１～７区上層

１　西畑瀬遺跡１～７区上層の概要

西畑瀬遺跡は、佐賀県佐賀市富士町大字畑瀬字前田・堂ノ下・中道・中田に所在する（図３）。２区が字堂ノ下、３区が字中道、１・４～７区が字前田・中田である。

西畑瀬地区は、嘉瀬川中流域の右岸に位置し、ダム建設に伴い全戸移転するまで河岸段丘を臨む山麓部一帯に集落が展開していた。嘉瀬川を挟んだ対岸には東畑瀬地区があり、東西の畑瀬地区は、藩政期には西畑瀬が小城鍋島家（小城支藩）領、東畑瀬が佐賀本藩領に属し、昭和31（1956）年に旧富士村として合併するまで小城郡南山村と佐賀郡小関村に分かれていた。

西畑瀬遺跡では、嘉瀬川ダム建設事業に伴いこれまでに１～９Ａ区の発掘調査を実施し、上層からは古代後期～中世前期の集落跡を中心に弥生時代から近世までの遺構・遺物を検出している。

今回報告する１～７区（図４・図５）は、旧西畑瀬集落前面の嘉瀬川に面した河岸段丘上に営まれた水田部一帯（１・２・４～７区）を中心として、一部が旧西畑瀬集落の北半部（３区）にあたる。平成９年度に当時の富士町教育委員会が調査した１区は、７区と２区に挟まれた範囲で遺跡の内容も一連のものであることから、本書で併せて記載する。

弥生～古墳時代の遺構・遺物は、今回報告する地区の南端部に集中している。少数の遺構と若干の遺物出土に留まるが、脊振山間部の様相を知る重要な手がかりである。弥生時代の遺構は、２区で弥生時代中期の土器埋納遺構２基、６区南西端で弥生時代後期の小型甕棺墓１基があり、遺構に伴わない遺物は前期から中期の土器と石包丁１点が出土している。古墳時代の遺構は、１区で古墳時代中期の土師器甕と高杯杯部を小穴に埋納した遺構１基を検出したのみであるが、遺構に伴わない遺物は前期の土器が数個体出土している。

古代後期～中世前期の遺構・遺物は、西畑瀬遺跡上層の主体を成すものである。旧西畑瀬集落内から流れ、畑瀬大明神の北側で嘉瀬川に注ぐ水路が５区の中央を東西に横切っており、この水路を挟んで南側の１区・２区・５Ｓ区・７区と、北側の４区・５Ｎ区・６区とに遺構集中部が二分され、それぞれ主体となる時期に違いが認められることから、水路より南側を南地区、水路より北側を北地区として報告する。なお、北地区から更に北～北東側にかけては西畑瀬遺跡８・９区として調査中であり、別途報告する予定である。上層の遺構検出面で標高 239 ～ 244 ｍであり、西側が高く、嘉瀬川に向かって東側に低くなっている。南地区の主な遺構は、土坑 12 基、溝２条、並走・密集する小溝群１箇所等で、12 世紀前半を主体とする区域である。北地区の主な遺構は、掘立柱建物 21 棟、柵列９条、溝８条、流路２条、土坑 23 基以上、鍛冶関連遺構 12 基、焼土坑等で、これらの遺構から出土する遺物は 13 世紀～ 14 世紀前葉を主体とするが、南地区との間を隔てる流路 SD5017 から出土した多数の遺物には９～ 10 世紀から 14 世紀後半頃までの時期幅のある資料が含まれている。

西畑瀬地区における中世後期の様相は不明瞭で、調査区内からごく少数の遺物が出土しているに留まる。近世後期の村絵図に描かれた状況から、近世のいずれかの時点で旧西畑瀬集落に続く集落が成立したことは間違いないが、旧集落内の北側にあたる３区で近世の遺物が出土したものの、度重なる災害やその復旧に伴う大規模な土地改変により当該期の遺構は残存しておらず、近世集落の成立時期や変遷等については明らかにできなかった。ただ、２区と４区で遺構に伴わず出土した近世の遺物が集落近辺の耕作地等として利用された痕跡と考えられることや、３区も含めた出土遺物の年代が江戸初期と江戸後期～幕末に集中すること等、西畑瀬地区における近世の様相をうかがう多少の手がかりを得ることができた。

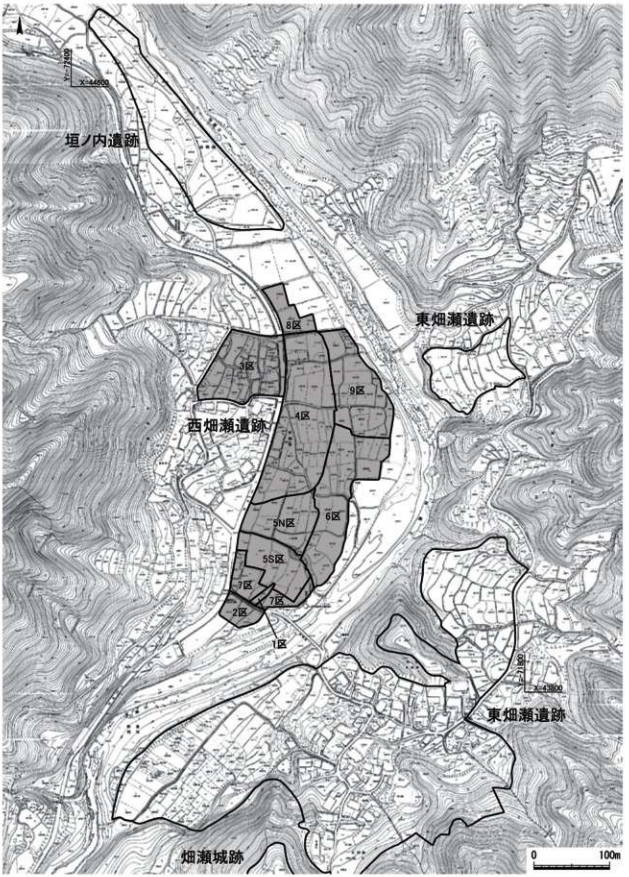


図４　西畑瀬遺跡周辺の地形（1/5,000）

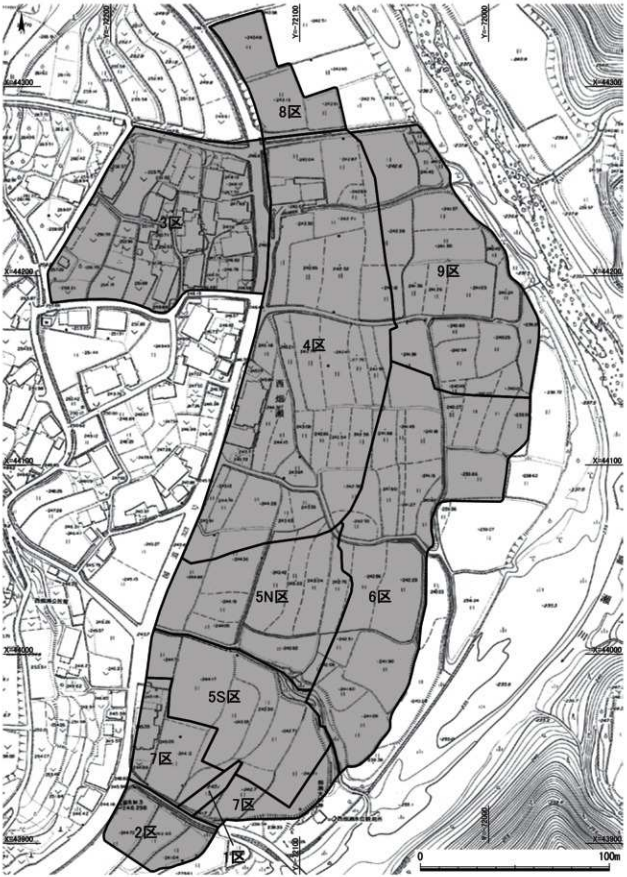


図５　西畑瀬遺跡調査区の位置（1/2,000）

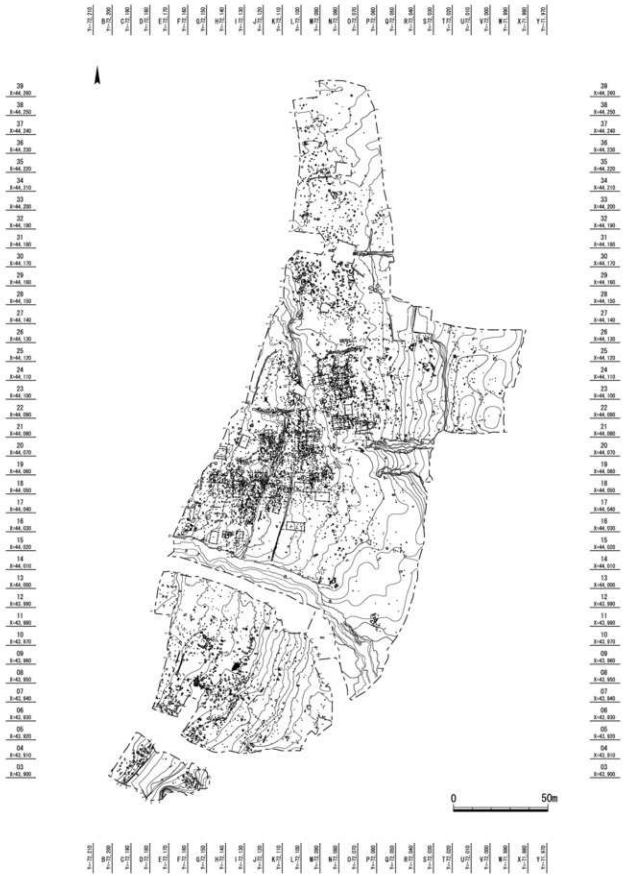


図６　西熊瀬遺跡１～７区上層の遺構分布（1/2,000）

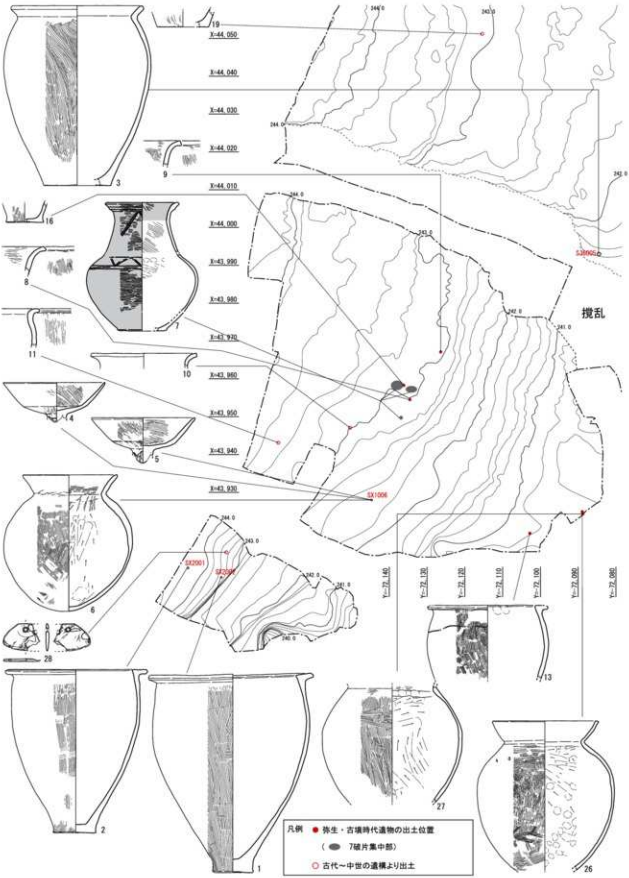


図７　弥生～古墳時代の遺構・遺物分布（1/1,000）

２　弥生～古墳時代の遺構と遺物

１）弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構は、６区で検出した後期の小型甕棺墓１基と２区で検出した中期の土器埋納遺構ないし小型甕棺墓２基である。また、当該期の遺構に伴うものではないが、前期から中期の弥生土器や石包丁が出土した。これらは今回報告する調査区の南半、５区より以南の地区に集中して分布する（図７）。

SJ6005（図８）

６区に単独で位置する弥生時代後期前半の小型甕棺墓で、上部が大きく削平されているため、ほぼ水平に埋置された棺体の半分以上を失っている。墓坑の残存部分は、長軸 1.0 m、短軸 0.9 m、深さ 0.3 mで、平面は方形である。人骨や副葬品はなかった。甕は破片も含めて１個体分のみであり、小型で小児用と思われる単棺である。目張り粘土や蓋の痕跡は確認されておらず、遺存状態を考慮する必要はあるが、無蓋であったとすれば甕棺墓ではない可能性もある。

SJ6005 出土遺物（図９）

３は甕で、くの字状の口縁を持つ。胴部最大径は口径より大きく、底部はしまりがない。底面の状態は不明。調整は外面ハケメのち口縁部横ナデ、内面ナデ。外面に煤が付着する。この時期のものとしては焼成が甘く、胎土も精良でない。

SX2001（図８）

２区に位置する小土坑で、径 0.52 m、深さ 0.28m、平面は不整円形である。弥生時代中期中頃の甕１個体を倒

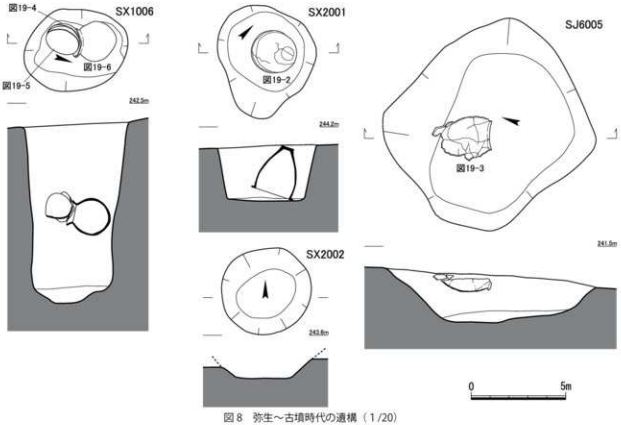


図８　弥生～古墳時代の遺構（1/20）

位で埋置した遺構である。甕は口縁部の片側を遺構の底面に付け、底部がやや東側に傾く程度で伏せられた状態で、他に出土遺物や土層等の特殊所見はない。小型甕棺墓である可能性も考慮したが、状況が特異で甕棺墓とは認定しがたいため、土器埋納遺構として報告する。

SX2001 出土遺物（図９）

２は、やや内側に張り出した平坦な逆Ｌ字状の口縁を持つ甕で、口縁下に突帯を持たない。胴部はあまり張らず、底部はゆるやかにくびれながら平らな底面へ続く。調整は外面ハケメのち口縁部横ナデ、内面ナデ。焼成は良好。

SX2002（図８）

２区に位置する小土坑で、径 0.46 m、平面は円形である。弥生時代中期前葉の甕が１個体出土したが、表土剥ぎ作業中に重機で掘り下げてしまったため、遺構の深さや甕が出土した状況等は不明である。出土した甕は口縁部から底部まで 1/2 程が遺存しており、SX2001 と同様な埋納遺構であった可能性が高い。

SX2002 出土遺物（図９）

１は、やや内傾した逆Ｌ字状の口縁を持つ甕で、口縁下に突帯を持たない。胴部は上位でふくらみ、底部は細くしまりわずかに上げ底を呈する。調整は外面ハケメのち口縁部横ナデ、内面ナデ。外面に煤が付着する。焼成は良好。

遺構に伴わない遺物（図 10）

７は外反する口縁部外面に粘土帯を貼付し肥厚させる壺で、頸部と肩部に沈線による複線山形文を施し、肩部山形文の上下に沈線を廻らせる。調整は内面口縁部から外面にかけて横方向のヘラミガキ、内面頸部はハケメ、胴部はナデ。内面口縁部から外面に赤色顔料を施す。接合しないため図上で復元した。

８～ 15 は甕の口縁部である。８・９は内外面ハケメのち口縁端部横ナデ。外面に煤が付着する。10 は内外面横ナデで、外面に煤が付着する。11 は外面ハケメのち口縁端部横ナデ、内面ナデ。外面に煤が付着する。12 は口縁部に断面三角形の突帯を貼付し端部にごく浅い刻目を施す。13 は口縁下に１条の細い沈線を廻らせる甕で、外面ハケメ内面ナデ。外面に煤が付着する。14 はわずかに外傾した逆Ｌ字状口縁で、外面ハケメのち内面ナデ。15 は内側に張り出しを持つ逆Ｌ字状口縁で、内外面ともにナデ調整。外面に煤が付着する。

16 ～ 19 は甕の底部である。16 ～ 18 はややくびれながら底面へとつながるが、19 はほとんどしまらない。17 のみ上げ底か。調整は、16・17・19 外面ハケメ、内面ナデ。18 は内外面ナデ。

20 は底面端部が丸みを帯びた平底で、壺の底部かと思われる。内外面ナデ調整である。

28 は菫青石ホルンフェルスを素材とする石包丁である。肩が下がり丸みを帯びながら刃部へとつながる。端部を欠いた後、面取りをしたものか。表面の状態は良好で、両面共に研磨痕を残す。孔は敲打を行った後に両側からの回転穿孔によって作り出す。２つの孔は背部に対して平行に並ばず、下位に位置する孔は再加工時に穿孔した可能性がある。

２）古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、１区で検出した中期の土師器埋納遺構１基のみである。また、当該期の遺構に伴わない前期の土師器が数個体出土した。弥生時代と同様に５区以南の地区に集中して分布する（図７）。

SX1006（図８）

１区に位置する小穴状の遺構で、長軸 0.54 m、短軸 0.42 m、深さ 0.94 mで、平面は楕円形である。中位に古

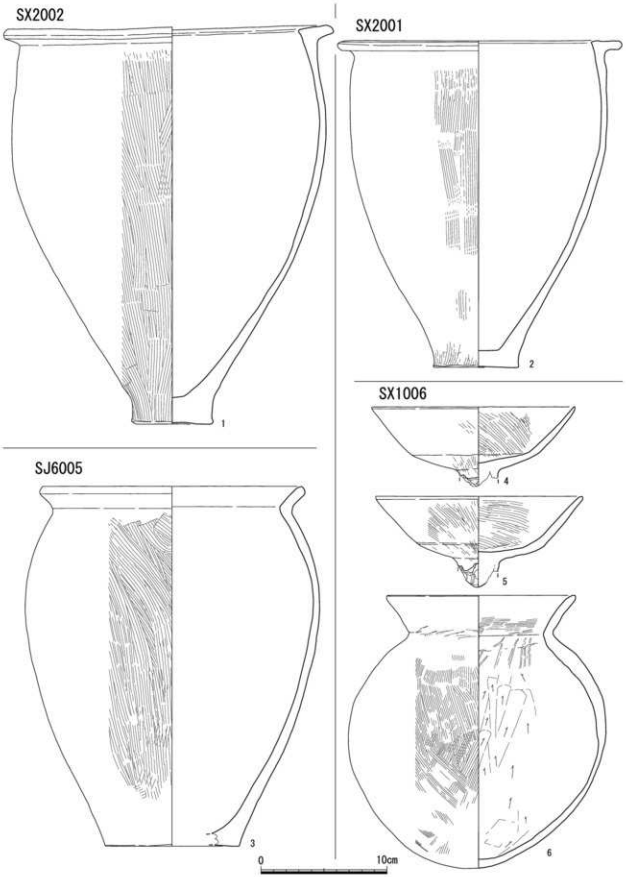


図９　弥生～古墳時代の遺物１（1/3）

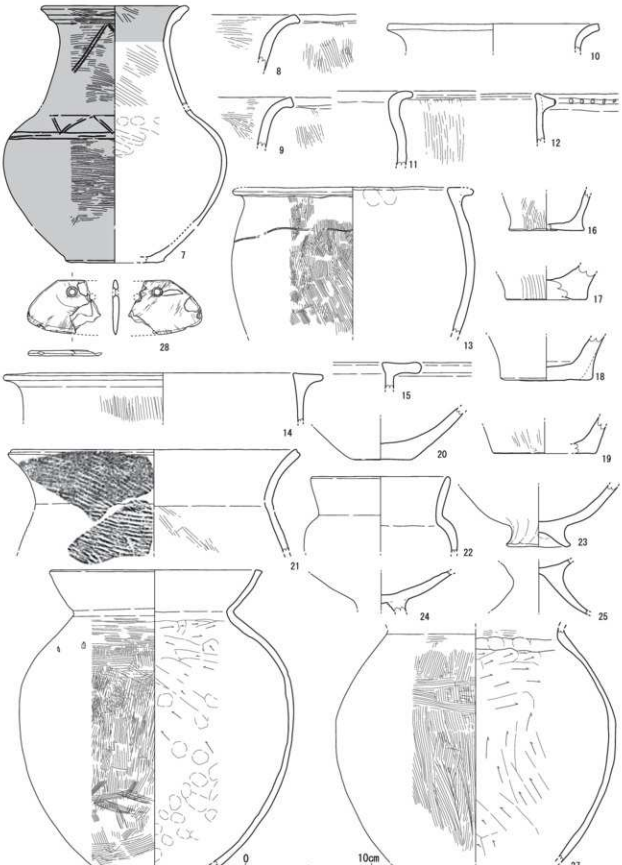


図 10　弥生～古墳時代の遺物２（1/3）

表２　弥生～古墳時代の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径 長	底径 幅	器高 厚	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 9-1 02000397	SX2002	弥生土器 甕	26.1	6.5	31.5	外：橙 内：橙	外面煤付着	図版 25-1 20080659
図 9-2 02000396	SX2001	弥生土器 甕	22.6	6.8	25.9	外：浅黄橙 内：浅黄橙	外面煤付着	図版 25-2 20080660
図 9-3 07003312	SJ6005	弥生土器 甕	21.0*	10.7*	28.5	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	外面煤付着	図版 25-3 20080518
図 9-4 07003843	SX1006	土師器 高杯	16.1	-	-	外：橙 内：橙	-	図版 25-4 20080667
図 9-5 07003842	SX1006	土師器 高杯	16.4	-	-	外：にぶい橙 内：橙	-	図版 25-5 20080668
図 9-6 07003841	SX1006	土師器 甕	15.0*	-	21.7	外：にぶい橙 内：にぶい橙	外面煤付着	図版 25-6 20080662
図 10-7 07003301	5 区 I7･8 区画	弥生土器 壺	11.7*	7.8*	20.4*	外：橙 内：にぶい黄橙	内面口縁部から外面赤色顔料塗布 沈線による複鋸山形文あり	図版 25-7 20080505
図 10-8 07003296	5 区 I8 区画	弥生土器 甕	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：浅黄	外面煤付着	図版 25-8 20080494
図 10-9 07003297	5 区 J9 区画	弥生土器 甕	-	-	-	外：灰黄褐 内：浅黄	外面煤付着	図版 25-9 20080495
図 10-10 07003295	P5004	弥生土器 甕	16.8*	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着	図版 25-10 20080493
図 10-11 07003023	P7053	弥生土器 甕	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	外面煤付着	図版 25-11 20080511
図 10-12 07003305	SD5017 K	弥生土器 甕	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	口縁端部刻目	図版 25-12 20080499
図 10-13 07003313	7 区 L4 区画	弥生土器 甕	19.1*	-	-	外：にぶい黄橙 内：浅黄	外面煤付着 肩部に 1 条沈線あり	図版 25-13 20080507
図 10-14 07003294	SD5017 B 下層	弥生土器 甕	25.3*	-	-	外：にぶい褐 内：にぶい赤褐	-	図版 25-14 20080497
図 10-15 07003304	SD5017 J	弥生土器 甕	-	-	-	外：にぶい赤褐 内：にぶい橙	外面煤付着	図版 25-15 20080498
図 10-16 07003299	5 区 I8 区画	弥生土器 甕	-	6.0*	-	外：橙 内：にぶい黄橙	-	図版 25-16 20080496
図 10-17 07003306	SD5017 K	弥生土器 甕	-	6.4*	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい赤褐	-	図版 25-17 20080702
図 10-18 07003310	SD6001	弥生土器 甕	-	7.3*	-	外：橙 内：橙	-	図版 25-18 20080700
図 10-19 07003302	P5201	弥生土器 甕	-	8.1*	-	外：にぶい黄褐 内：にぶい褐	-	図版 25-19 20080704
図 10-20 07003303	SD5017 I	弥生土器 壺	-	4.7	-	外：にぶい黄橙 内：浅黄	-	図版 25-20 20080696
図 10-21 02000419	2 区上段 検出面	土師器 甕	23.2*	-	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	-	図版 25-21 20080510
図 10-22 07003311	6 区 検出面	土師器 壺	11.1*	-	-	外：にぶい黄橙 内：橙	-	図版 25-22 20080699
図 10-23 07003307	SD5017 K	土師器 鉢	-	5.1*	-	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄褐	-	図版 25-23 20080697
図 10-24 07003309	SD5017 K	土師器 高杯	-	-	-	外：橙 内：橙	-	図版 25-24 20080698
図 10-25 07003308	SD5017 I	土師器 高杯	-	-	-	外：明赤褐 内：橙	-	図版 25-25 20080701
図 10-26 07003032	SX7004	土師器 甕	16.9	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙	外面煤付着 肩部に水滴形の列点文あり	図版 25-26 20080661
図 10-27 07003033	SX7004	土師器 甕	-	-	-	外：橙 内：橙	外面煤付着	図版 25-27 20080506
図 10-28 02000418	SX2101	磨製石器 石包丁	-	4.3	0.5	-	重量 15.6 g 石材は蛍青石ホルンフェルス	図版 25-28 20080512

墳時代中期の土師器甕１個体・高杯２個体が埋納されていた。埋置状態は、完形の甕を口縁部が僅かに上向きになるよう横に据え、甕の口縁部を塞ぐように高杯の杯部を２枚重ねにして並べており、なんらかの祭祀的な意味を持つ遺構と考えられる。

SX1006 出土遺物（図９）

４・５は土師器高杯であるが、どちらも杯部のみで脚部を欠く。４の口縁部は外に向かって開き、杯底部との境に明確な稜を持たない。口縁部と杯底部接合部に粘土のつなぎ目を一部残す。外面ハケメのちナデ。特に口縁部は丁寧にハケメをナデ消す。内面はハケメのち底面のみナデ。５の口縁部も外に向かって直線的に開き、口縁部と底部の境にゆるやかな稜を持つ。口縁部と杯底部接合部に粘土のつなぎ目を残す。外面ハケメのちナデだが、ナデ消しきれていない。６は完形の土師器甕である。底部は丸く、口縁は内湾せず外に向かって開く。内面頸部下に粘土のつなぎ目を残す。内面口縁部から外面頸部下にかけてハケメのちナデ。外面はハケメのち底部のみナデ。内面頸部下は工具状のものでナデ、胴部外面から底部にかけてケズリのちナデ。外面に煤が付着する。

遺構に伴わない出土遺物（図 10）

21 はゆるやかに外反したくの字状口縁の土師器甕で、胴部外面にタタキ目を残す。内面ナデ。

22 は口頸部が短く、外頻しながら立ち上がる土師器直口壺で、肩部がやや張る。外面は磨耗により不詳だが最終調整はナデか。内面は横ナデ。

23 は土師器台付の鉢で、器壁が厚い。内外面ともにナデ調整。

24 と 25 は土師器高杯である。24 は杯部上半部及び脚部を欠損し、内外面ともに器面が磨耗しており調整不詳だが、杯部外底面に工具痕が１条残る。25 は杯部及び脚裾部を欠損する。内外面ともに器面が磨耗しており調整不明瞭だが、最終調整はナデか。杯外底部に工具痕が残る。

26・27 は SX7004 の最下面から出土した土師器甕である。次節で報告するように SX7004 は古代末から中世前期の遺物を含む落ち込みで古墳時代の遺構ではないが、26・27 は個体としてのまとまりをもって出土しており、SX7004 の堆積土に混入したのではなく原位置を保った状態で SX7004 の堆積土に覆われた可能性が高い。26 は底部を欠失し、口縁部がやや内湾しながら外に向かって開き、胴部はやや長く肩が張る。肩部に不揃いな水滴形の列点文を施す。外面の肩部には横方向のハケメ、肩部以下は縦方向のハケメ。内面頸部から外面頸部下にかけて横ナデ。内面頸部以下はケズリのちナデ。下半部に指頭圧痕が多く残る。27 は口縁部と底部を欠失し、胴部は球形に近いが肩がやや張る。外面の肩部には横方向のハケメ、肩部以下は縦方向のハケメ、肩部に縦方向のハケメを部分的に重ね頸部を横ナデ。内面頸部はハケメのちナデ、一部指頭圧痕が残る。内面頸部以下はケズリ。

３　古代～中世の遺構と遺物

１）南地区古代～中世の遺構と遺物

南地区における古代～中世の遺構分布は、中央部からその西側と南側にかけて密であり、北側と東側は小穴等が散在する程度である（図 11）。なお、遺構分布図では中央部に近い北側から西側にかけて径１m前後の円形の遺構が多く並んでいるが、これらほぼとんど植樹痕であった。

土坑（図 15）

古代～中世の土坑として報告するのは以下の 12 基で、南地区中央部から南西部にかけて分布する。

SK1004（図 14・15）

南地区の南半中央部に位置し、長軸 1.90 m、短軸 1.42 m、深さ 0.18 mで、平面は不整な隅丸台形である。土師器杯、瓦器碗、須恵器系陶器捏鉢、滑石製石鍋が被熱痕のある多数の礫と共に出土した。

SK1004 出土遺物（図 17）

29 は東播諸窯と思われる須恵器系陶器捏鉢である。片口を含む口縁部から体部にかけての破片で、口縁端部を断面方形に作る。30 は滑石製石鍋の底部で、内外面に煤が付着する。

SK1005（図 14・15）

南地区の南半中央部に位置し、長軸 1.17 m、短軸 0.64 m、深さ 0.25 mで、平面は不整な長楕円形である。土師器杯、瓦器小皿が出土した。

SK1005 出土遺物（図 17）

31 は平底の瓦器小皿である。底部は不明瞭ながらヘラ切のようで、内外面にヘラミガキを施している。

SK2202（図 14・15）

南地区の南西部に位置し、長軸 0.91 m、短軸 0.40 m、深さ 0.23 mである。平面は不整な長楕円形で、長軸の片側に浅い段がつく。瓦器碗の底部が出土した。

SK2202 出土遺物（図 17）

32 は瓦器碗の底部で、やや細長い逆三角形の高台を貼付ける。

SK2203（図 14・15）

南地区の南西部に位置し、長軸 0.80 m、短軸 0.62 m、深さ 0.78 mで、平面は楕円形である。土師器杯（ヘラ切）、白磁碗が出土した。

SK2203 出土遺物（図 17）

33 は白磁碗Ⅴ類かと思われる口縁部である。僅かに外反気味に直行し、内面には沈線による圏線を廻らせる。

SK2212（図 14・15）

南地区の南西部に位置し、長軸 2.17 m、短軸 1.33 m、深さ 0.13 mで、平面は不整形である。瓦器碗の体部や底部が出土した。

SK2212 出土遺物（図 17）

34 は瓦器碗の底部で、断面台形の低い高台を貼付け、高台内にヘラ切痕を留める。

SK5004（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 1.10 m、短軸 0.81 m、深さ 0.14 mである。平面は卵形で、突出部がつく。底部糸切の土師器杯が出土したが、小片であり図示していない。

SK5005（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 1.22 m、短軸 0.60 m、深さ 0.25 mで、平面は紡錘形である。瓦器碗、白磁碗Ⅳ類が出土した。

SK5005 出土遺物（図 17）

35 は瓦器碗の底部で、断面逆三角形の高台を貼付ける。器面が摩滅しており、調整等は不明である。

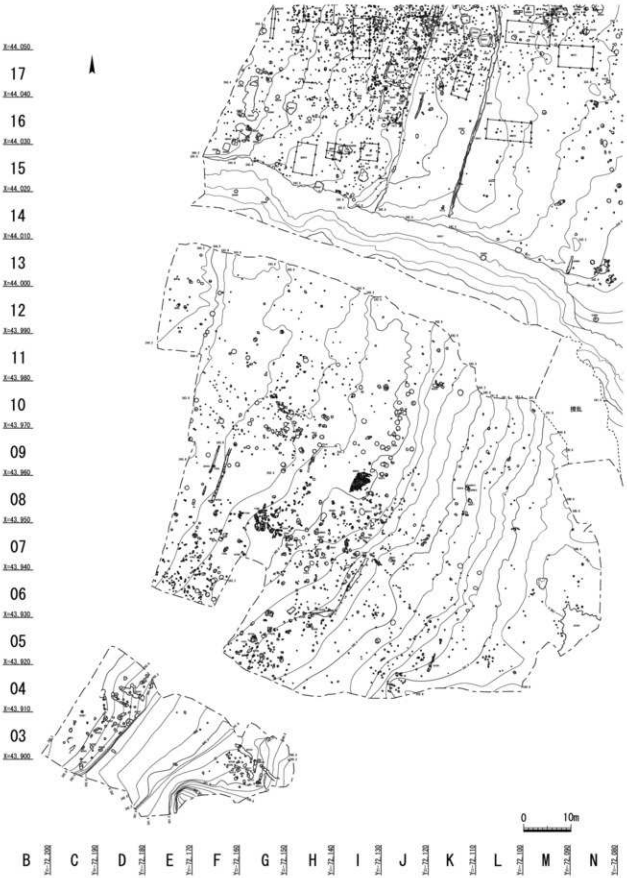


図 11　南地区古代～中世の遺構分布（1/800）

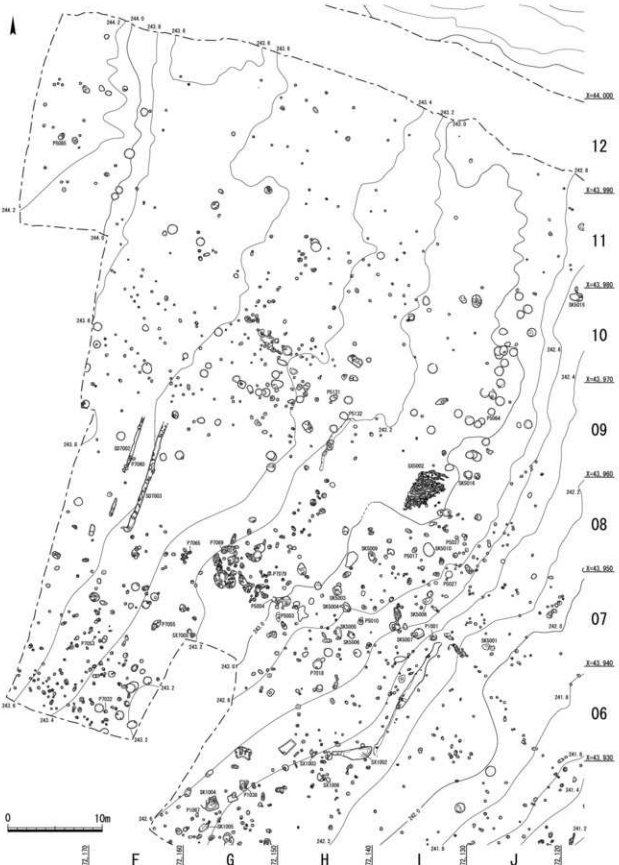


図 12　南地区古代～中世の遺構分布詳細１（1/400）

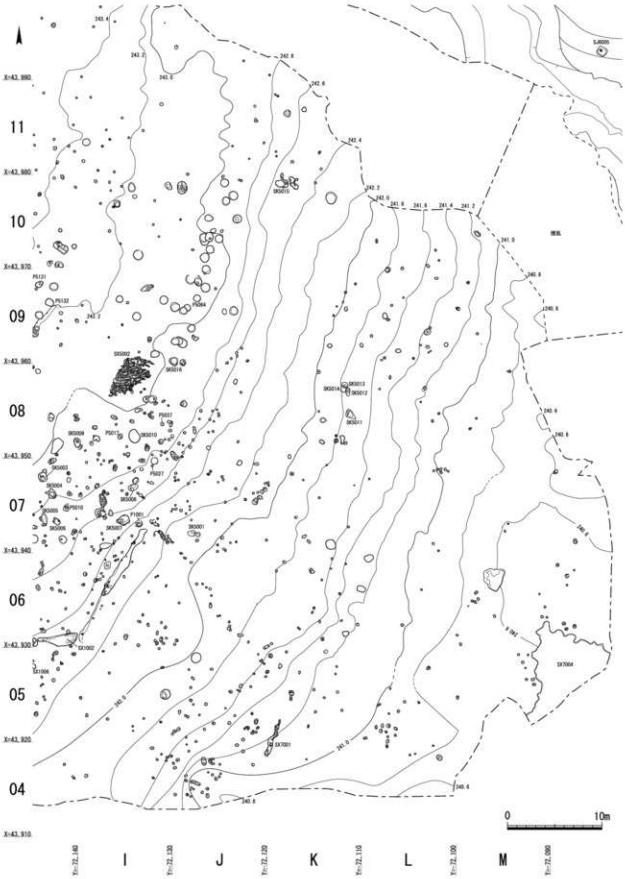


図 13　南地区古代～中世の遺構分布詳細２（1/400）

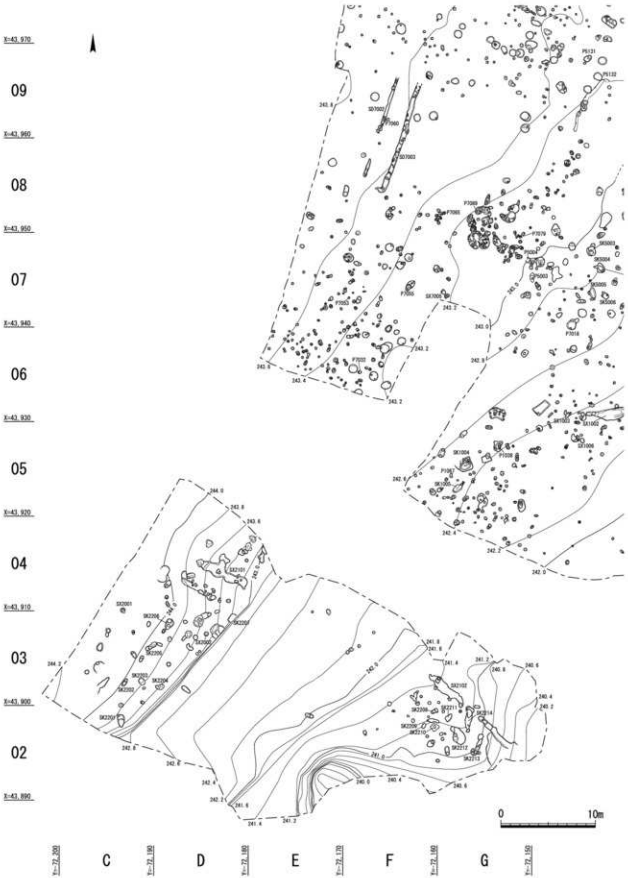


図 14　南地区古代～中世の遺構分布詳細３（1/400）

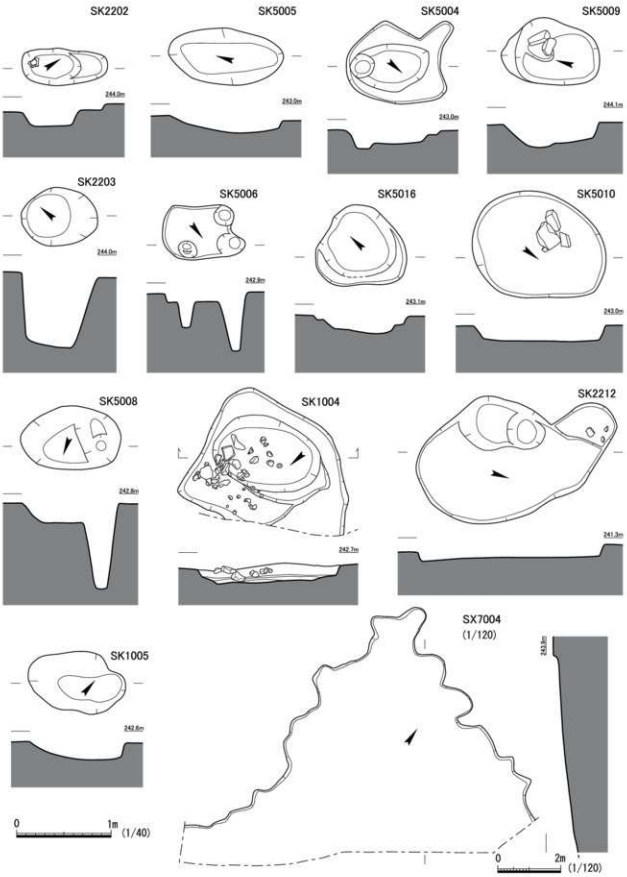


図 15　南地区古代～中世の土坑（1/40）・その他の遺構（1/120）

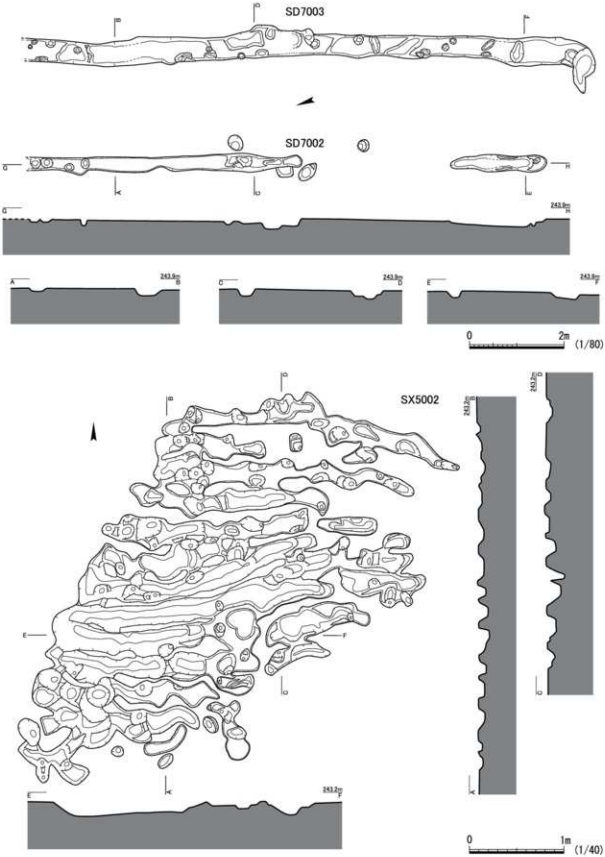


図 16　南地区古代～中世の溝（1/80）・小溝群（1/40）

SK5006（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 0.85 m、短軸 0.57 m、深さ 0.11 mである。平面は不整な隅丸長方形で、底面に３つの小穴がある。瓦器碗、白磁碗Ⅳ類が出土した。

SK5006 出土遺物（図 17）

36 は瓦器碗の底部で、断面逆三角形の低い高台を貼付ける。37 は白磁碗Ⅳ類である。

SK5008（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 1.06 m、短軸 0.67 m、深さ 0.29 mである。平面は不整な長楕円形で、長軸の片側が深い小穴となる。瓦器碗、白磁碗Ⅳ類が出土した。

SK5008 出土遺物（図 17）

38 は瓦器碗の底部で、断面逆三角形の低い高台を貼付け、ヘラ切痕を留める。39・40 は白磁碗Ⅳ類の口縁部である。

SK5009（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 1.04 m、短軸 0.69 m、深さ 0.21 mで、平面は不整な長楕円形である。瓦器ないし黒色土器Ａ類碗と白磁碗Ⅳ類が礫と共に出土したが、小片であり図示していない。

SK5010（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 1.47 m、短軸 1.18 m、深さ 0.17 mで、平面は楕円形である。底面は平坦で、１箇所に礫がまとまっていた。須恵器系陶器甕と褐釉陶器壺が出土した。

SK5010 出土遺物（図 17）

41 は褐釉陶器壺の肩部破片である。42 は須恵器系陶器甕の体部破片で、外面は太めの平行タタキ、内面はナデで仕上げる。

SK5016（図 12・15）

南地区の中央部に位置し、長軸 0.97 m、短軸 0.86 m、深さ 0.20 mで、平面は不整な隅丸三角形である。白磁碗Ⅱ類が出土した。

SK5016 出土遺物（図 17）

43 は白磁碗Ⅱ類で、小さな玉縁の口縁部である。

その他の遺構（図 16）

SD7002・SD7003（図 14・16）

南地区の中央部西側に位置する２条の並走する溝で、Ｎ 18°Ｅの方向に真直ぐ伸びる。いずれも北側が５Ｓ区との調査区境にかかり、これより先の延長部が検出されていないが、浅い溝であるため５Ｓ区の表土除去作業時に削平してしまったものと思われる。SD7002 は幅 0.3 ～ 0.4 m、深さ 0.05 ～ 0.12 mで、5.8 mの長さで延びた後 3.1 mほど途切れ、再び 2.0 mの長さで続いており、途切れた部分を含めると延長 10.9 mの長さである。SD7003 は幅 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.10 ～ 0.15 mで、12.0 mの長さが遺存している。２条の間隔は、真々で 2.4 m、内側で 1.9 ～ 2.1 m、である。集落内の区画や通路としての性格が想定されるが、周囲の遺構との関連は不明である。遺物は土師器杯・小皿、瓦器碗が出土したが、小片であり図示していない。

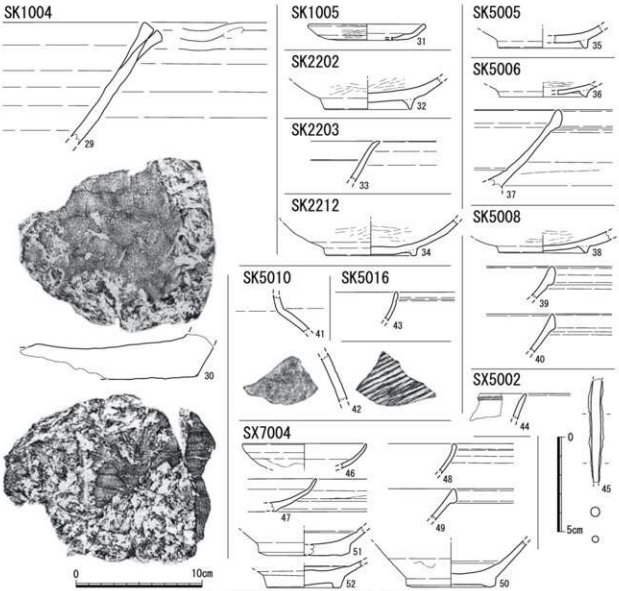


図 17　南地区古代～中世の遺物１（1/3、45 は 1/2）

SX5002（図 12・16）

南地区の中央部に位置する。幅 0.15 ～ 0.2 m、深さ 0.05 ～ 0.15 mの走向をほぼ同じくする小溝が 5 × 4 mの範囲に密集するもので、埋土は黒褐色土に明黄褐色粘質土と灰黄褐色土が混じり、微量の炭化物粒を含む。埋土中から土師器杯・小皿、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗、白磁、褐釉陶器壺の小片と棒状鉄製品が出土した。埋土に混じる明黄褐色粘質土は古代～中世の遺構面下に堆積する層と同じであり、形状と併せて耕作痕である可能性が考えられるが、範囲が非常に狭いことが疑問点として残る。等高線に対しては、やや斜方向である。

SX5002 出土遺物（図 17）

44 は内面に劃花文が施される青磁碗口縁部小片で、竜泉窯系碗Ⅰ 4 類かと思われる。45 は棒状の鉄製品で、錆のため断面形は推定によるが、利器の類ではなく何らかの部材かと思われる。

SX7004（図 13・15）

南地区の東端に位置する長軸 11.5 m以上、短軸 7.7 m以上の不整形な落込みである。埋土は炭化物を含む褐色・

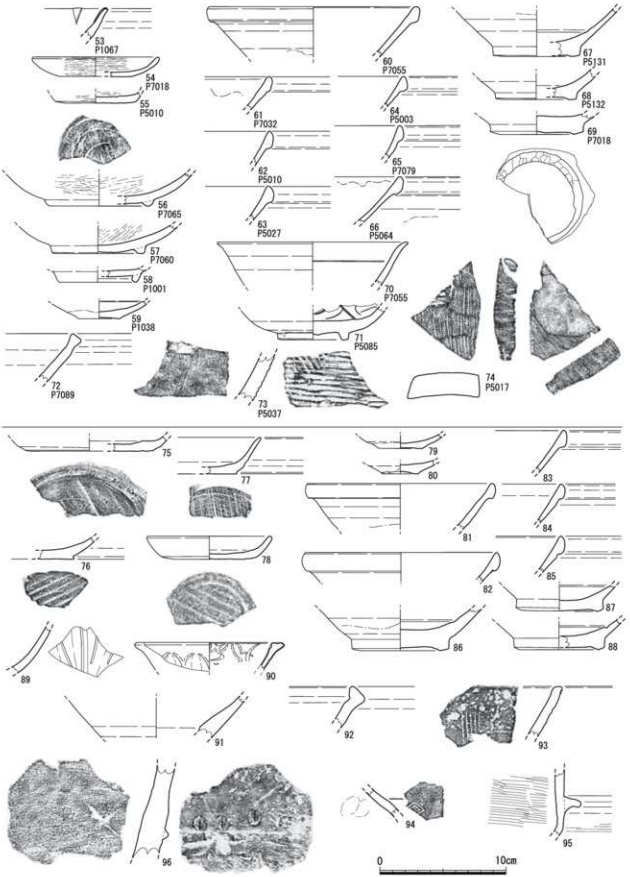


図 18　南地区古代～中世の遺物２（1/3）

にぶい黄褐色シルトで、土師器杯・小皿、瓦器碗・小皿、白磁碗Ⅱ類・碗Ⅳ類・皿Ⅵ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、滑石製石鍋、砥石が出土した。小片で混入の疑いがある竜泉窯系青磁碗を除けば 12 世紀前半代までに収まる。また、最下面で古墳時代前期の土師器甕が２個体出土したが、これについては前節で報告している。集落に近い斜面に堆積した包含層と見るのが妥当であろう。

SX7004 出土遺物（図 17）

図示したものは全て白磁である。46・47 は白磁皿Ⅵ類、48 は小さな玉縁口縁の白磁碗Ⅱ類である。49 ～ 52 は白磁碗Ⅳ類で、49 は玉縁の口縁部、50 ～ 52 は底部で、52 は高台を明瞭に抉り出している。

南地区の小穴出土遺物（図 18）

図 18 の上段に南地区の小穴から出土した古代～中世の主な遺物を図示した。いずれの小穴から出土したかは図中と表に記載している。

53 は土師器杯の口縁部で、端部から内面側に粘土を貼付け、逆三角形に整えている。54・55 は瓦器小皿で、いずれも底部は押し出さない。55 は底部ヘラ切で板状圧痕がある。56 ～ 58 は瓦器碗の底部で、56・57 は高台内に板状圧痕を留める。

59 は白磁皿Ⅵ類の底部である。60 ～ 69 は白磁碗Ⅳ類で、69 は高台を部分的に打ち欠いている。70 は白磁碗Ⅴ類の口縁部かと思われ、内面に沈線による圏線を１条廻らせる。71 は竜泉窯系青磁碗Ⅰ類で、内面に劃花蓮華文を施すⅠ２類かと思われる。

72 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。73 は須恵器系陶器甕の体部破片で、外面は太めの平行タタキ、内面は円形の当具痕をナデ消している。

74 は滑石製石鍋を再加工した石製品であり、３辺の側面のうち２辺に再加工が施されるが、穿孔部がある残りの１辺は破断面のままであり、未製品かもしれない。

南地区の遺構外出土遺物（図 18）

図 18 の下段に南地区の遺構外から出土した古代～中世の主な遺物を図示した。

75 ～ 77 は土師器杯で、75 は底部糸切、77 は底部ヘラ切である。78 は瓦器かと思われる底部ヘラ切の小皿で、ヘラミガキは観察できないが、焼成は還元焔であり瓦器としておく。

79・80 は白磁皿Ⅵ類の底部、81 ～ 88 は白磁碗Ⅳ類で、南地区出土の貿易陶磁はこの２種が大部分を占める。89 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類の体部である。蓮弁文の竜泉窯系青磁碗Ⅱ類と口禿の白磁皿Ⅸ類は、北地区では多数出土しているが南地区では非常に少ない。90 はこれまで示してきた出土遺物に比べて大きく時代の降る竜泉窯系青磁皿である。口縁は外側に短く屈折し、外面に肉厚の蓮弁文、内面に草花文を施す。

91 は高麗青磁の碗かと思われる。内面に目跡らしき付着物があり、内底に段を付ける。遺存部分では象嵌による文様は観察されない。外面は被熱している。

92 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。

93 ～ 95 はいずれも２区から出土した瓦質土器で、93 は擂鉢、94 は茶釜の肩部、95 は茶釜の体下半部、96 は火鉢の体下半部である。中世の遺物としておくが、後節で報告するように２区では 17 世紀前葉の肥前陶器も出土しており、近世前期まで幅をとっておくべきかもしれない。

表３　南地区古代～中世の出土遺物

掘図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 17-29 07001435	SK1004	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系ｎ	図版 26-29 20080508
図 17-30 07001441	SK1004	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	底部破片、煤付着	図版 26-30 20080509
図 17-31 07001438	SK1005	瓦器 小皿	9.4*	4.6*	1.3	外：灰白 内：暗灰	底部ヘラ切ｎ	図版 26-31 20080516
図 17-32 02000398	SK2202	瓦器 碗	-	7.0*	-	外：灰白、灰 内：灰白	-	図版 26-32 20080519
図 17-33 02000410	SK2203	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	碗Ⅴ類ｎ	図版 26-33 20080538
図 17-34 02000399	SK2212	瓦器 碗	-	7.3*	-	外：灰、灰白 内：灰白、灰、黒褐	底部ヘラ切	図版 26-34 20080520
図 17-35 07001461	SK5005	瓦器ｎ 碗	-	7.2*	-	にぶい黄橙 にぶい黄褐	-	図版 26-35 20080572
図 17-36 07001459	SK5006	瓦器ｎ 碗	-	7.0*	-	浅黄	-	図版 26-36 20080571
図 17-37 07001460	SK5006	白磁 碗	-	-	-	釉調：淡黄 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-37 20080530
図 17-38 07001454	SK5008	瓦器 碗	-	7.1*	-	外：灰白、灰 内：灰	底部ヘラ切	図版 26-38 20080570
図 17-39 07001452	SK5008	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-39 20080555
図 17-40 07001453	SK5008	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白、白	碗Ⅳ類	図版 26-40 20080556
図 17-41 07001455	SK5010	褐釉陶器 壺	-	-	-	釉調：灰オリーブ、灰白、黒 胎土：灰白	-	図版 26-41 20080559
図 17-42 07001456	SK5010	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版 26-42 20080560
図 17-43 07001458	SK5016	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 26-43 20080558
図 17-44 07001457	SX5002	青磁 碗	-	-	-	釉調：にぶい黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ４類ｎ	図版 26-44 20080557
図 17-45 08000368	SX5002	鉄器 棒	長 5.5+	径 0.5	-	-	-	図版 26-45 20080655
図 17-46 07003012	SX7004	白磁 皿	9.9*	-	-	釉調：淡黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 26-46 20080646
図 17-47 07003014	SX7004	白磁 皿	-	-	2.6	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 26-47 20080648
図 17-48 07003011	SX7004	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 26-48 20080645
図 17-49 07003013	SX7004	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-49 20080647
図 17-50 07003015	SX7004	白磁 碗	-	7.1*	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-50 20080623
図 17-51 07003016	SX7004	白磁 碗	-	7.2*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-51 20080624
図 17-52 07003017	SX7004	白磁 碗	-	5.9	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類ｎ	図版 26-52 20080625
図 18-53 07001440	P1067	土師器 杯	-	-	-	外：灰黄 内：にぶい黄	口縁内面に逆三角形の粘土を貼付	図版 26-53 20080513
図 18-54 07003019	P7018	瓦器 小皿	10.1*	5.6*	1.6	灰白	-	図版 26-54 20080644
図 18-55 07001444	P5010	瓦器 小皿	-	6.4*	-	外：灰黄 内：灰	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 26-55 20080568
図 18-56 07003025	P7065	瓦器 碗	-	7.9*	-	灰白	径不確実	図版 26-56 20080628
図 18-57 07003024	P7060	瓦器 碗	-	7.3*	-	外：灰黄 内：灰白	底部に板状圧痕	図版 26-57 20080627
図 18-58 07001436	P1001	瓦器 碗	-	6.1*	-	外：暗灰 内：灰白	底部に板状圧痕ｎ	図版 26-58 20080514
図 18-59 07001437	P1038	白磁 皿	-	3.3	-	釉調：淡黄 胎土：灰黄	皿Ⅵ類	図版 26-59 20080515
図 18-60 07003022	P7055	白磁 碗	16.9*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 26-60 20080631
図 18-61 07003020	P7032	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-61 20080649
図 18-62 07001443	P5010	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-62 20080552

表３　南地区古代～中世の出土遺物

掲図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 18-63 07001445	P5027	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-63 20080553
図 18-64 07001442	P5003	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：淡黄橙	碗Ⅳ類	図版 26-64 20080551
図 18-65 07003026	P7079	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-65 20080651
図 18-66 07001449	P5064	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-66 20080554
図 18-67 07001446	P5030 P5131	白磁 碗	-	6.9*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-67 20080527
図 18-68 07001450	P5132	白磁 碗	-	6.4*	-	釉調：淡黄 胎土：淡黄	碗Ⅳ類	図版 26-68 20080569
図 18-69 07003018	P7018	白磁 碗	-	7.4*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、高台の一部打欠き	図版 26-69 20080626
図 18-70 07003021	P7055	白磁 碗	15.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ類ヵ	図版 26-70 20080650
図 18-71 07001451	P5085	青磁 碗	-	5.6*	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅰ２類	図版 26-71 20080526
図 18-72 07003027	P7089	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰白	東播諸窯系	図版 26-72 20080652
図 18-73 07001448	P5037	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：灰黄褐 内：灰黄	-	図版 26-73 20080529
図 18-74 07001447	P5017	滑石製品 石鍋加工品	長 7.8	幅 6.0	厚 1.8	-	115.3g	図版 26-74 20080528
図 18-75 02000401	２区包含層	土師器 杯	-	10.2*	-	にぶい黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 26-75 20080563
図 18-76 02000404	２区包含層	土師器 杯	-	-	-	浅黄橙	底部に板状圧痕	図版 26-76 20080566
図 18-77 02000400	２区包含層	土師器 杯	-	-	2.9	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版 26-77 20080562
図 18-78 07003030	７区 G08 区画 検出面	瓦器ヵ 小皿	10.0*	7.1*	1.9	外：灰 内：浅黄	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 26-78 20080630
図 18-79 02000414	２区下段 包含層	白磁ヵ 皿	-	3.4*	-	釉調：浅黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 26-79 20080540
図 18-80 02000415	２区下段 包含層	白磁ヵ 皿	-	2.9*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	白磁皿Ⅵ類ヵ	図版 26-80 20080541
図 18-81 07003029	７区 G08 区画 検出面	白磁 碗	15.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 26-81 20080632
図 18-82 02000407	２区検出面	白磁 碗	15.8*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 26-82 20080535
図 18-83 02000409	２区検出面	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-83 20080537
図 18-84 07001439	１区褐色土	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-84 20080517
図 18-85 02000408	２区下段 包含層	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-85 20080536
図 18-86 07003028	７区 F07 区画 検出面	白磁 碗	-	7.7*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-86 20080629
図 18-87 02000413	２区検出面	白磁 碗	-	6.9	-	釉調：灰 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-87 20080521
図 18-88 02000412	２区表土	白磁 碗	-	7.1*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 26-88 20080539
図 18-89 02000417	２区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱbc 類	図版 26-89 20080542
図 18-90 02000416	２区検出面	青磁 皿	11.9*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	竜泉窯系	図版 26-90 20080533・0534
図 18-91 07003031	７区 I07 区画 検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：緑灰 胎土：灰白	高麗青磁、内面に目跡ヵ、被熱	図版 26-91 20080622
図 18-92 02000405	２区包含層	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰オリーブ	東播諸窯系	図版 27-92 20080567
図 18-93 02000406	２区包含層	土師器 鍋鉢	-	-	-	にぶい橙	-	図版 27-93 20080561
図 18-94 02000403	２区表土	瓦質土器 茶釜	-	-	-	外：黒 内：黒褐	印花	図版 27-94 20080565
図 18-95 02000402	２区	瓦質土器 茶釜	-	-	-	外：にぶい黄橙、灰 内：浅黄橙	煤付着	図版 27-95 20080564
図 18-96 02000424	２区表土	瓦質土器 火鉢	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	印花	図版 27-96 20080522

図19　北地区古代～中世の遺構分布（1/1,500）

図 20　北地区古代～中世の遺構分布詳細１（1/800）

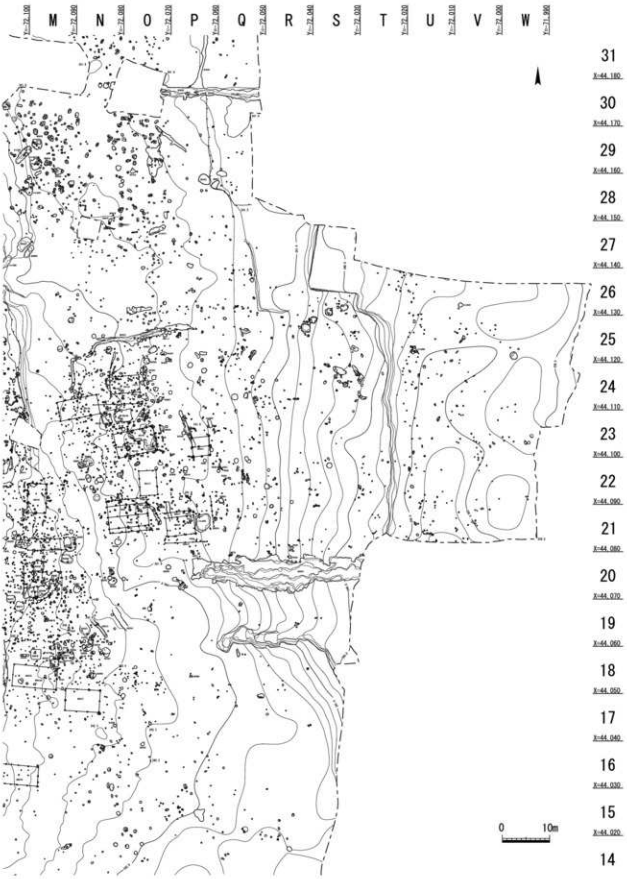


図 21　北地区古代～中世の遺構分布詳細２（1/800）

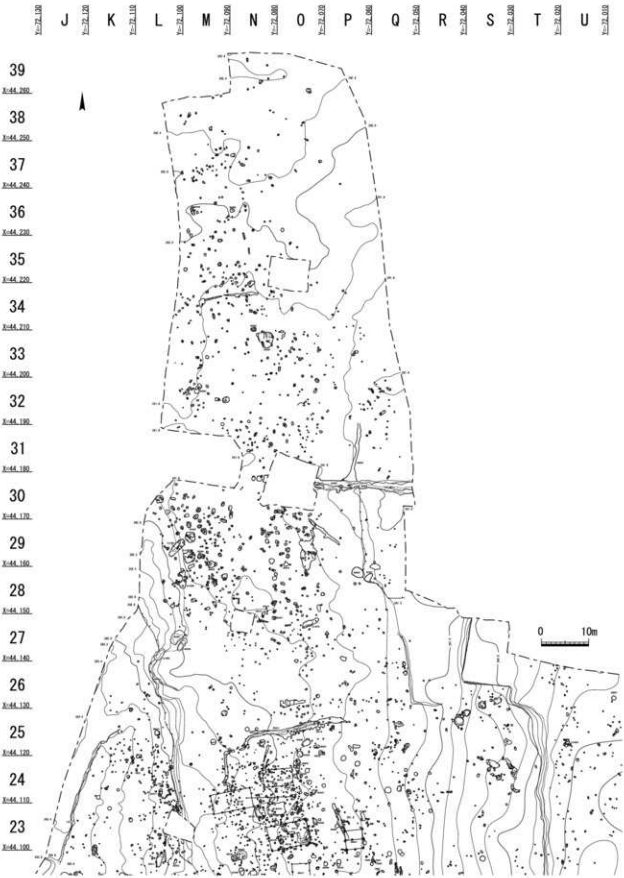


図 22　北地区古代～中世の遺構分布詳細３（1/800）

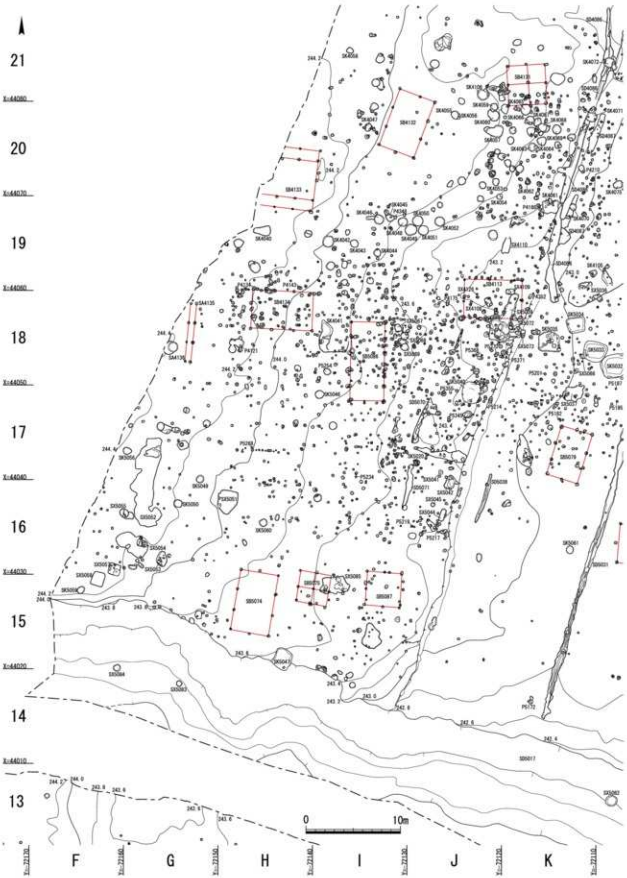


図 23　北地区古代～中世の遺構集中部１（1/400）

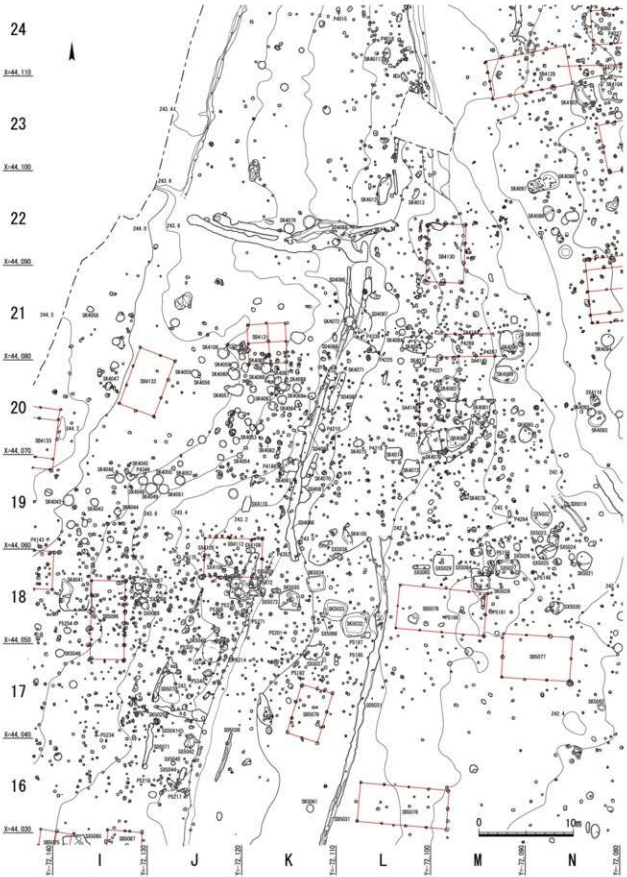


図 24　北地区古代～中世の遺構集中部２（1/400）

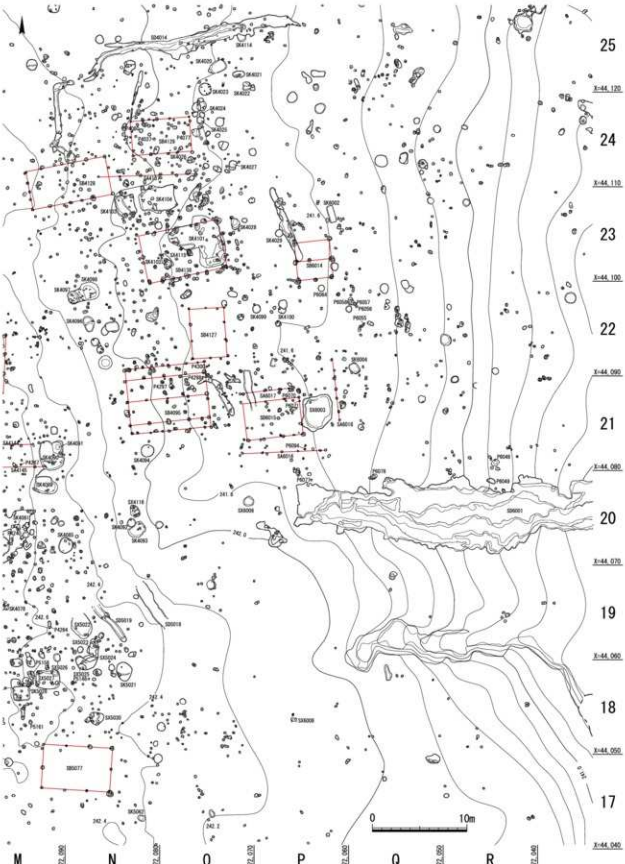


図 25　北地区古代～中世の遺構集中部３（1/400）

２）北地区古代～中世の遺構と遺物

北地区における古代～中世の遺構分布は、中央部から南西部にかけて密であり、北側と東側はやや少なく、南東側は極めて希薄である（図 19）。

掘立柱建物（図 26 ～ 41）

掘立柱建物として報告するのは以下の 21 棟である。このうち５N 区の６棟（SB5074・5075・5076・5077・5078・5079）と４区の２棟（SB4095・4113）については現地調査時に確認していたものであるが、他の 13 棟は整理作業の段階で認定したものである。これらの掘立柱建物は、北地区の中央部からその西側と南側にかけての一帯にいくつかの群を成して分布しており、この辺りが西畑瀬遺跡における中世集落の中心区域であることを示している。

報告に際して各々の掘立柱建物ごとに柱穴に英大文字による番号を北東隅から時計回りに PA、PB、PC…の要領で付けた。柱穴の規模は比較的小さなものが多く、いずれも平面は円形基調である。柱穴が他の主要遺構と重複するものでも確実な新旧関係が把握できた例はないが、周辺の遺構群は中世前期に限られ、なかでも鎌倉時代後期に盛期がある。建物の柱穴から僅かに出土する遺物もこれと矛盾しない。

SB5074（図 26・30）

北地区の南西端に位置する掘立柱建物で、主軸を N10° E にとる南北棟の側柱建物である。東側に主軸が並行する SB5075 が近接して位置する。梁行２間（4.05 m）×桁行３間（6.51 m）で、床面積は 26.37㎡、梁行柱間は 1.98 ～ 2.06 m、桁行柱間は 2.06 ～ 2.24 mである。建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.3 mの円形基調で、径 0.1 ～ 0.15 mの柱痕跡を確認した。遺物は瓦器碗かと思われる破片が出土したが、小片であり図示していない。

SB5075（図 26・30）

北地区の南西端に位置する掘立柱建物で、主軸を N10° E にとる南北棟かと思われる総柱建物である。西側に主軸が並行する SB5074 が近接して位置する。南北棟とみた場合、梁行２間（3.27 m）×桁行２間（3.30 m）で、床面積は 10.79㎡、梁行柱間は 1.55 ～ 1.75 m、桁行柱間は 1.57 ～ 1.71 mである。建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.4 mの円形基調で、径 0.1 ～ 0.15 mの柱痕跡を確認した。遺物は土師器杯ないし小皿が出土したが、小片であり図示していない。

SB5087（図 26・31）

北地区の南西端に位置する掘立柱建物で、主軸を N85° W にとる東西棟かと思われる側柱建物である。東側に SB5075 が近接して位置する。東西棟と見た場合、梁行２間（3.63 m）×桁行２間（3.67 m）で、床面積は 13.32㎡である。梁行柱間は 1.70 ～ 1.93 m、桁行柱間は 1.76 ～ 1.97 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.3 mの円形基調である。遺物は土師器杯か小皿の底部（糸切）が出土したが、小片であり図示していない。

SB5086（図 26・31）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N １° E にとる南北棟の側柱建物である。梁行２間（3.59 m）×桁行５間（8.33 m）で、床面積は 29.90㎡である。梁行柱間は 1.55 ～ 2.03 m、桁行柱間は 1.50 ～ 1.80 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.6 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、東播諸窯系捏鉢、鉄片が出土した。

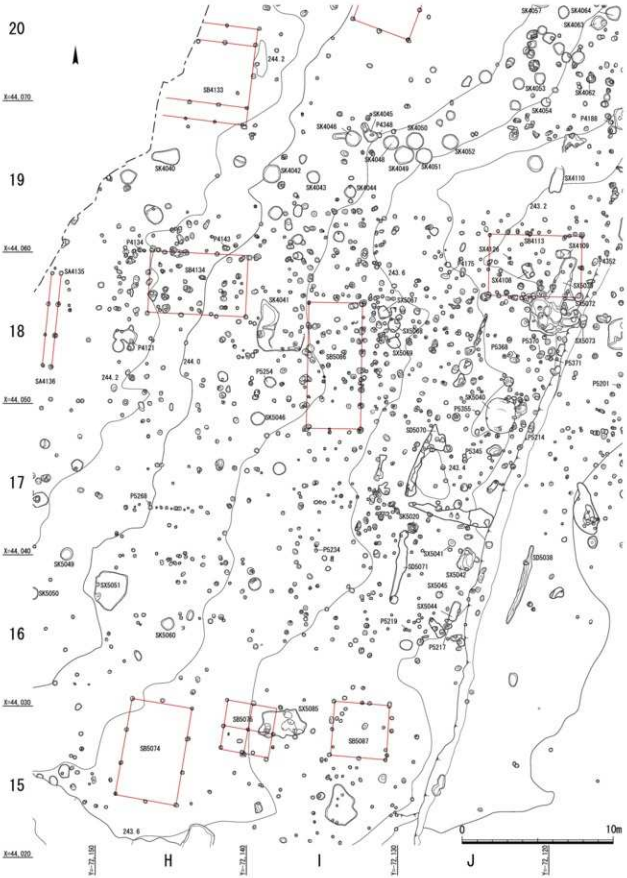
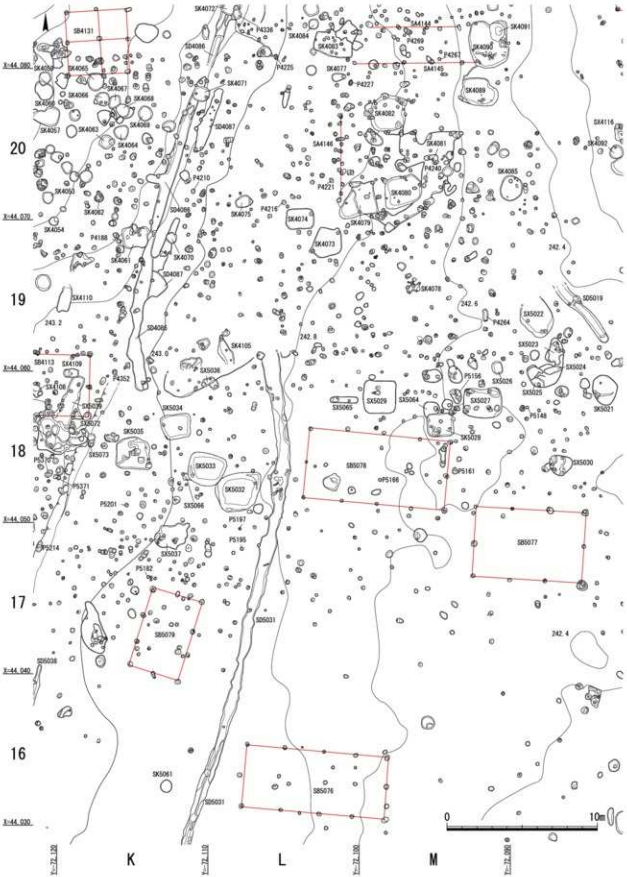


図 26　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部１（1/250）


20
19
18
17
16
K
L
M
0
10m
SB5078
SB5077
SB5079
SB5076
SB5061
SD5031
SD5030
SD5033
SD5032
SD5034
SD5035
SD5036
SD5037
SD5038
SD5039
SD5040
SD5041
SD5042
SD5043
SD5044
SD5045
SD5046
SD5047
SD5048
SD5049
SD5050
SD5051
SD5052
SD5053
SD5054
SD5055
SD5056
SD5057
SD5058
SD5059
SD5060
SD5061
SD5062
SD5063
SD5064
SD5065
SD5066
SD5067
SD5068
SD5069
SD5070
SD5071
SD5072
SD5073

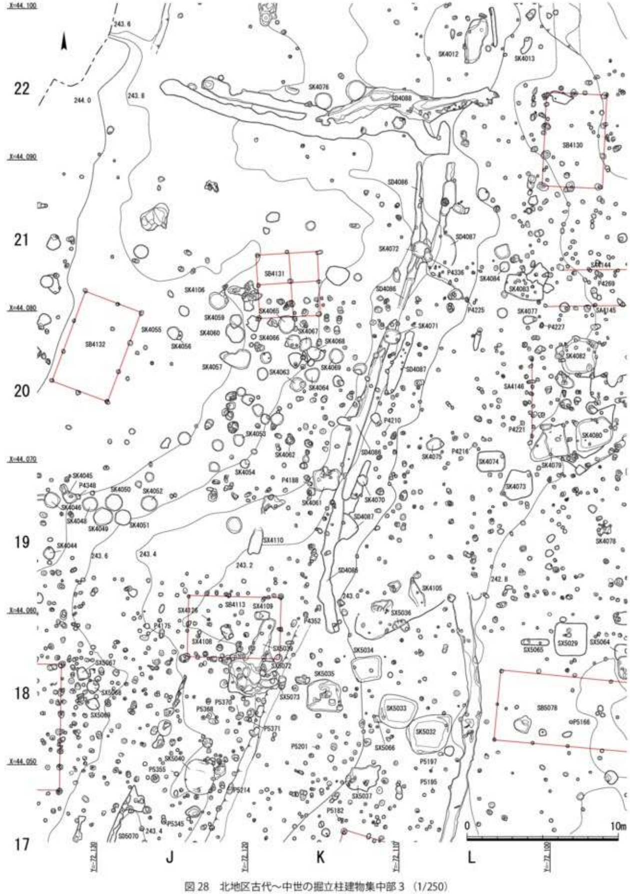


図 28　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部３（1/250）

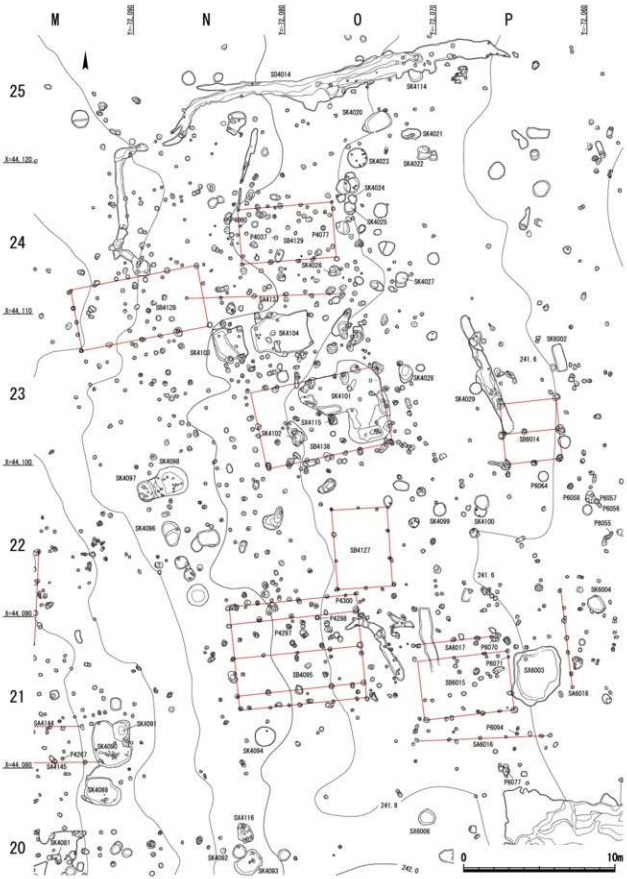
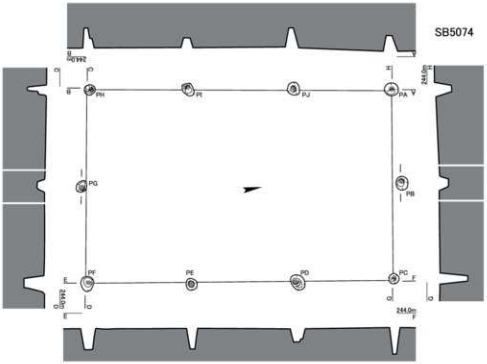


図 29　北地区古代～中世の掘立柱建物集中部４（1/250）



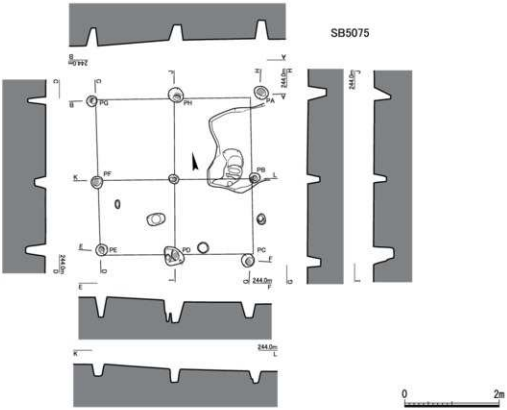
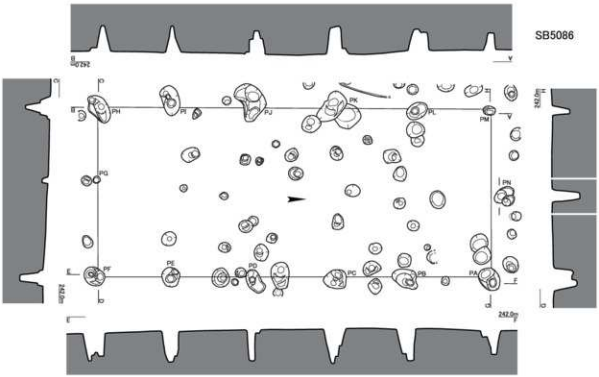
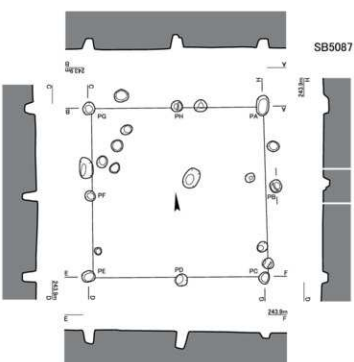


図 30　北地区古代～中世の掘立柱建物１（1/80）





0　　2m

図 31　北地区古代～中世の掘立柱建物 2（1/80）

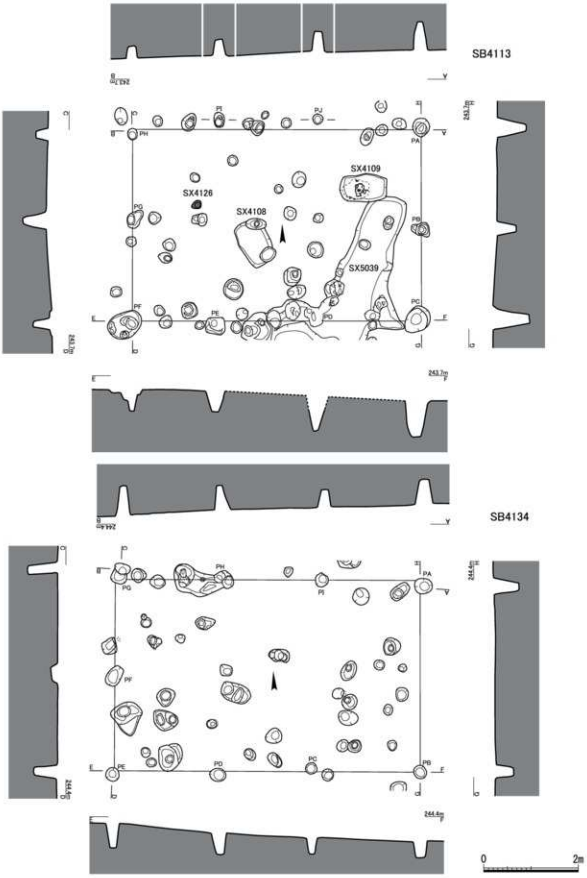


図 32　北地区古代～中世の掘立柱建物３（1/80）

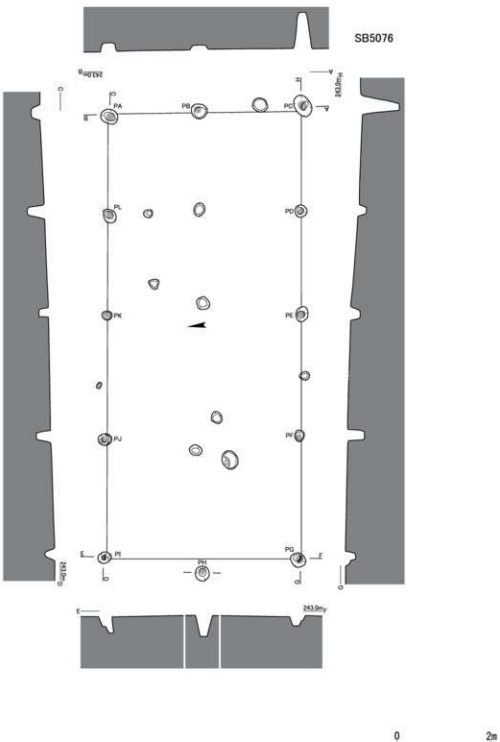


図 33　北地区古代～中世の掘立柱建物４（1/80）

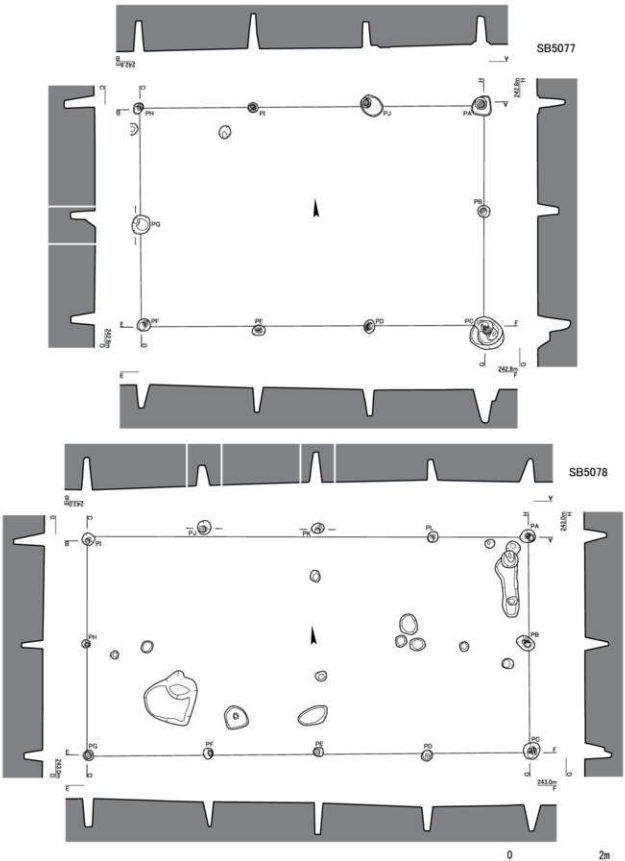
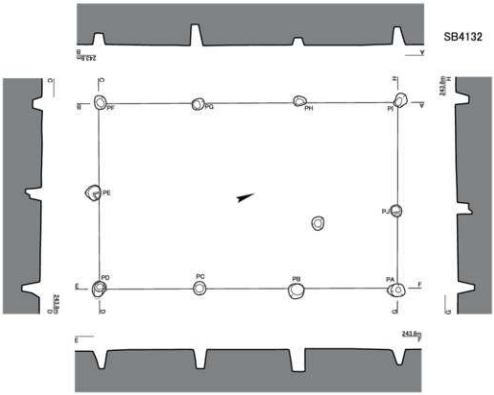


図 34　北地区古代～中世の掘立柱建物５（1/80）



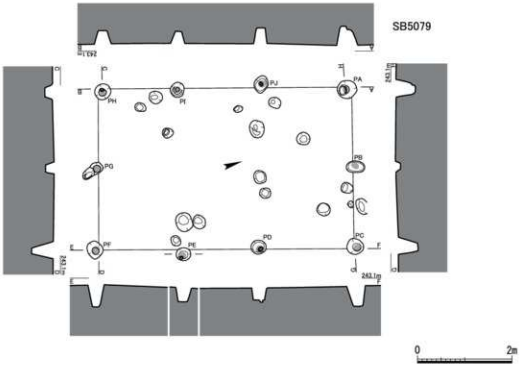


図 35　北地区古代～中世の掘立柱建物６（1/80）

SB5086 出土遺物（図 43）

110・111 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢の口縁部、112 は底部糸切の土師器小皿である。

SB4113（図 26・32）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N89° W にとる東西棟の側柱建物である。PD が性格不明の不整形掘り込み SX5039 の埋土下で検出されており、これに先行する可能性が高い。また、内側に鍛冶関連遺構の SX4108・SX4019・SX4126 が位置するが、SB4113 との関連は不明確である。梁行２間（4.04 m）×桁行３間（6.12 m）で、床面積は 24.72㎡である。梁行柱間は 1.91 ～ 2.15 m、桁行柱間は 1.73 ～ 2.39 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.6 mの円形基調である。遺物は土師器杯（糸切）・小皿が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SB4134（図 26・32）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸を N87° W にとる東西棟の側柱建物である。梁行２間（4.04 m）×桁行３間（6.47 m）で、床面積は 26.14㎡である。梁行柱間は 1.99 ～ 2.27 m、桁行柱間は 1.95 ～ 2.31 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.4 mの円形基調である。遺物は土師器杯、東播諸窯系捏鉢が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SB5076（図 27・33）

北地区の南側中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N85° W にとる東西棟の側柱建物である。北側にやや離れて主軸がほぼ並行する SB5077・5078 が位置する。梁行２間（4.13 m）×桁行４間（9.36 m）で、床面積は 38.66㎡である。梁行柱間は 1.90 ～ 2.20 m、桁行柱間は 2.09 ～ 2.60 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.4 mの円形基調で、径 0.1 ～ 0.2 mの柱痕跡を確認した。遺物は同安窯系青磁皿が出土した。

SB5076 出土遺物（図 43）

107 は同安窯系青磁皿の口縁部破片である。

SB5077（図 27・34）

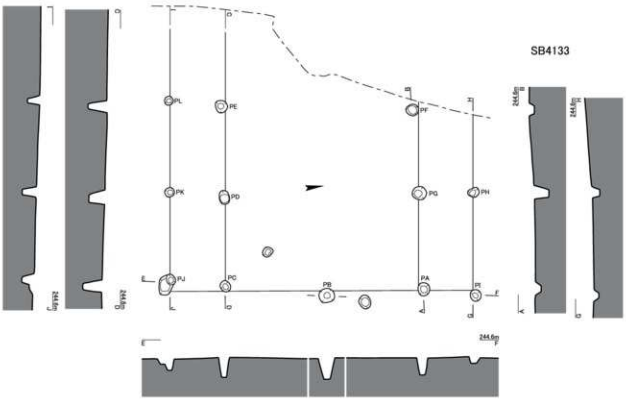
北地区の南側中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N86° W にとる東西棟の側柱建物である。北西側に近接して SB5078 が位置し、南西側にやや離れて SB5076 が位置し、いずれも主軸がほぼ並行する。梁行２間（4.63 m）×桁行３間（7.30 m）で、床面積は 33.80㎡、梁行柱間は 2.15 ～ 2.47 m、桁行柱間は 2.37 ～ 2.50 mである。建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.6 mの円形基調で、径 0.1 ～ 0.2 mの柱痕跡を確認した。遺物は土師器杯（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、鉄滓が出土した。

SB5077 出土遺物（図 43）

108 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類の口縁部破片である。

SB5078（図 27・34）

北地区の南側中央に位置する掘立柱建物で、主軸を N85° W にとる東西棟の側柱建物である。南東側に近接して SB5077 が位置し、南側にやや離れて SB5076 が位置し、いずれも主軸がほぼ並行する。梁行２間（4.60 m）×桁行４間（9.39 m）で、床面積は 43.19㎡、梁行柱間は 2.27 ～ 2.36 m、桁行柱間は 2.07 ～ 2.63 mである。建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.4 mの円形基調で、径 0.1 ～ 0.2 mの柱痕跡を確認した。遺物は土師器杯・小皿・鍋Ⅱ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、鉄滓が出土した。



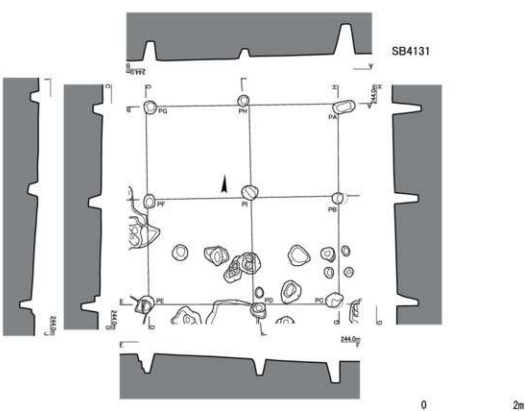
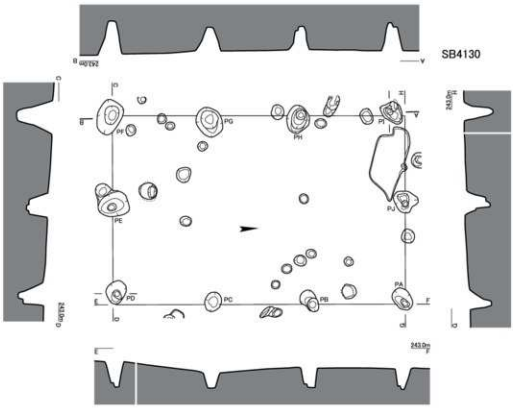


図 36　北地区古代～中世の掘立柱建物７（1/80）



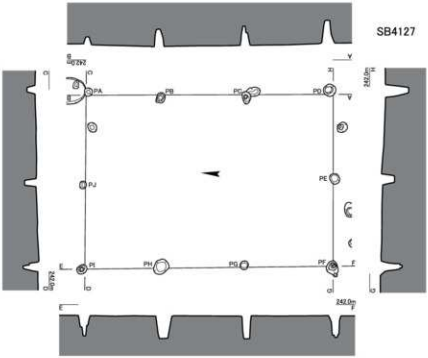


図 37　北地区古代～中世の掘立柱建物８（1/80）

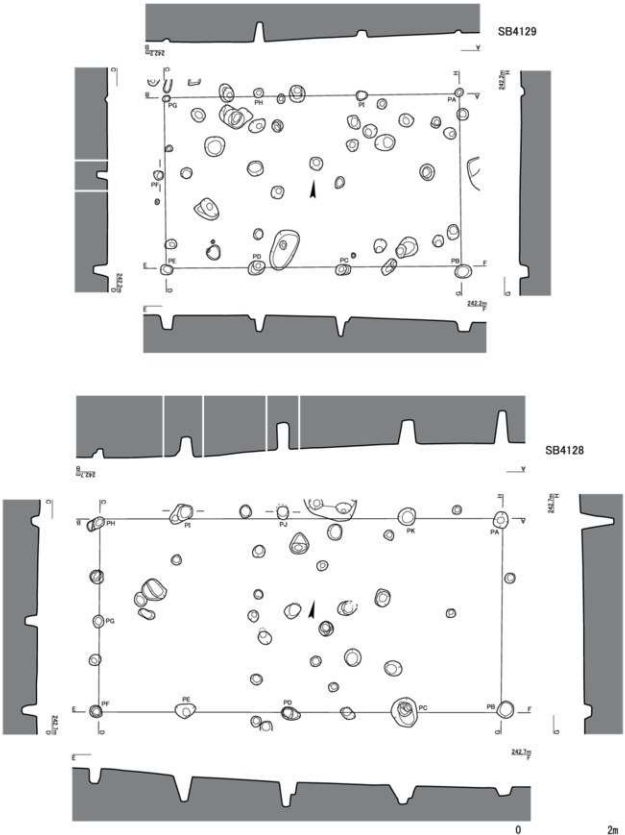


図 38　北地区古代～中世の掘立柱建物９（1/80）

SB5078 出土遺物（図 43）

109 は竜泉窯系青磁碗Ⅱａ類の口縁部破片である。

SB5079（図 27・35）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸をN17°Eにとる南北棟の側柱建物である。梁行２間（3.40 m）×桁行３間（5.41 m）で、床面積は 18.39㎡である。梁行柱間は 1.65 ～ 1.75 m、桁行柱間は 1.66 ～ 2.01 mで、建物を構成する柱穴は径 0.3 ～ 0.4 mの円形基調である。遺物は土師器杯（糸切）・小皿、瓦器碗、鉄滓が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SB4132（図 28・35）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸をN20°Eにとる南北棟の側柱建物である。梁行２間（3.93 m）×桁行３間（6.32 m）で、床面積は 24.84㎡である。梁行柱間は 1.55 ～ 2.38 m、桁行柱間は 2.06 ～ 2.18 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.3 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SB4133（図 26・36）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸をN83°Wにとる東西棟の側柱建物である。梁行２間（4.18 m）×桁行３間（６m）以上で、西側が調査区外に続く。身舎の北と南に庇が付き、庇の幅は 1.13 ～ 1.16 m（おおむね 1/2 間）である。梁行柱間は 2.06 ～ 2.16 m、桁行柱間は 1.77 ～ 2.03 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.4 mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SB4131（図 28・36）

北地区の南西部に位置する掘立柱建物で、主軸をＮ４°Ｗにとる南北棟かと思われる総柱建物である。南北棟とみた場合、梁行２間（4.03 m）×桁行２間（4.22 m）で、床面積は 17.01㎡である。梁行柱間は 1.68 ～ 2.34 m、桁行柱間は 2.01 ～ 2.22 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.3 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SB4130（図 28・37）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をＮ２°Ｅにとる南北棟の側柱建物である。梁行２間（3.98 m）×桁行３間（6.20 m）で、床面積は 24.68㎡である。梁行柱間は 1.92 ～ 2.22 m、桁行柱間は 1.88 ～ 2.10 mで、建物を構成する柱穴は径 0.3 ～ 0.6 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、同安窯系青磁皿、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類が出土した。

SB4130 出土遺物（図 43）

102 は土師器小皿の底部で、糸切。103 は同安窯系青磁皿で、SK4071 と SD4086 から出土した破片と接合した。

SB4127（図 29・37）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をＮ５°Ｗにとる南北棟の側柱建物である。梁行２間（3.66 m）×桁行３間（5.23 m）で、床面積は 19.14㎡である。梁行柱間は 1.77 ～ 1.91 m、桁行柱間は 1.58 ～ 1.87 mで、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.3 mの円形基調である。遺物は土師器小皿（糸切）の底部が出土したが、小片であり図示していない。

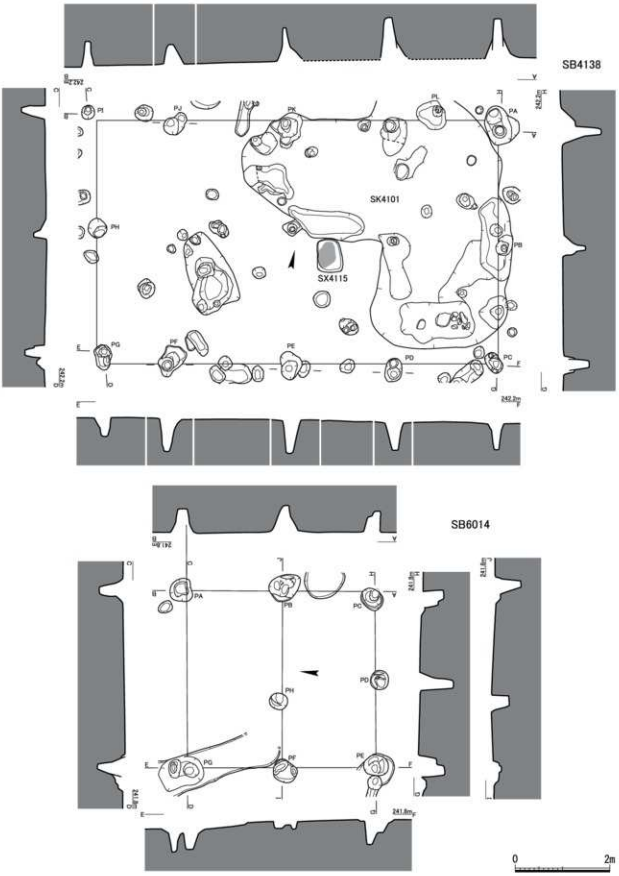


図 39　北地区古代～中世の掘立柱建物 10（1/80）

SB4128（図 29・38）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をN79°Eにとる東西棟の側柱建物である。北東側に近接してSB4129、南東側に近接してSB4138が位置し、SB4138とは主軸がほぼ並行する。また、SA4137と平面的に重複する。梁行２間（4.08 m）×桁行４間（8.55 m）で、床面積は34.88㎡である。梁行柱間は1.90～2.16 m、桁行柱間は1.83～2.64 mで、建物を構成する柱穴は径0.1～0.3 mの円形基調である。遺物は土師器杯（糸切）、竜泉窯系青磁碗Ⅲ類かⅡ類、褐釉陶器壺が出土した。

SB4128 出土遺物（図 43）

100は竜泉窯系青磁碗の口縁部で、Ⅲ類の可能性がある。101は褐釉陶器壺の口縁部である。

SB4129（図 29・38）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をN86°Eにとる東西棟の側柱建物である。梁行２間（3.61 m）×桁行３間（6.25 m）で、床面積は22.56㎡である。梁行柱間は1.65～1.97 m、桁行柱間は1.77～2.53 mで、建物を構成する柱穴は径0.1～0.3 mの円形基調である。遺物は土師器杯の口縁部が出土したが、小片であり図示していない。

SB4138（図 29・39）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をN31°Eにとる南北棟の側柱建物である。SK4101と重複するが、新旧関係は不明である。また、内側に鍛冶関連遺構SX4115が位置するが、SB4138との関連は不明確である。梁行２間（5.15 m）×桁行４間（8.51 m）で、床面積は43.83㎡である。梁行柱間は2.46～2.52 m、桁行柱間は1.33～2.57 mで、建物を構成する柱穴は径0.3～0.6 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類が出土した。

SB4138 出土遺物（図 43）

104・105は底部糸切の土師器小皿、106は竜泉窯系青磁碗Ⅱbc類の口縁部小片である。

SB6014（図 29・39）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をN６°Wにとる南北棟かと思われる側柱建物である。梁行２間（3.76 m）×桁行２間（4.00 m）で、床面積は15.04㎡である。梁行柱間は1.88 m、桁行柱間は2.00 mで、建物を構成する柱穴は径0.4～0.5 mの円形基調である。遺物は土師器杯・小皿、東播諸窯系捏鉢が出土した。

SB6014 出土遺物（図 43）

113は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢口縁部である。

SB4095（図 29・40）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸をN84°Eにとる東西棟の側柱建物である。梁行２間（4.74 m）×桁行４間（8.45 m）の身舎の北と南に庇が付く。現地調査時には２間×３間の両面庇付建物としていたが、整理時に再検討した結果、２間×４間の両面庇付建物と判断した。庇の幅は南側の庇が0.94～1.02 m、北側の庇が1.05～1.16 m（おおむね1/2間）であり、庇を含めた規模は6.87 m×8.45 mになる。床面積は身舎の部分が40.05㎡、庇まで含めると58.05㎡である。梁行柱間は2.28～2.50 m、桁行柱間は2.00～2.30 mで、建物を構成する柱穴は径0.3～0.5 mの円形基調である。主軸の中心に沿ってやや小径の柱穴が並び、束柱と思われる。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅰ類・Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、鉄滓が出土した。このうちPCとPKから出土した土師器小皿が接合している。

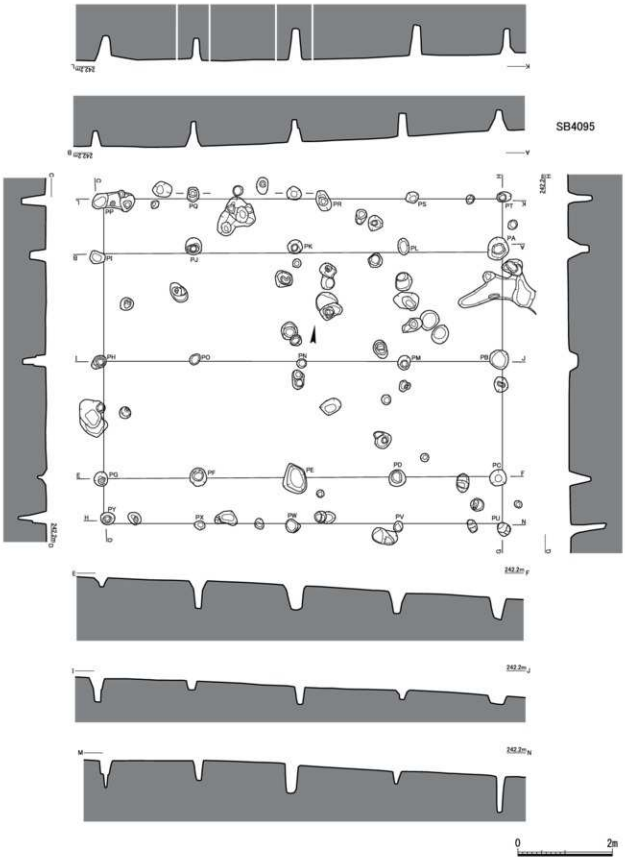


図 40　北地区古代～中世の掘立柱建物 11（1/80）

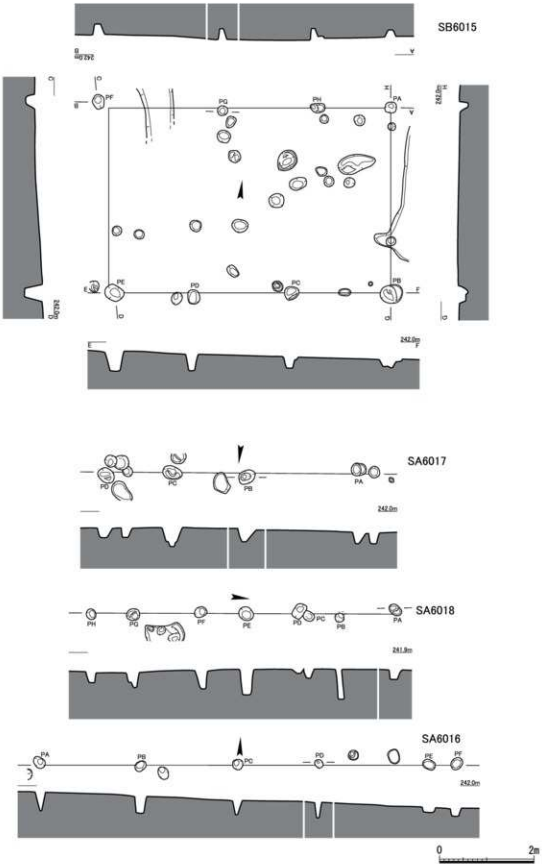


図41　北地区古代～中世の掘立柱建物12・柵列1（1/80）

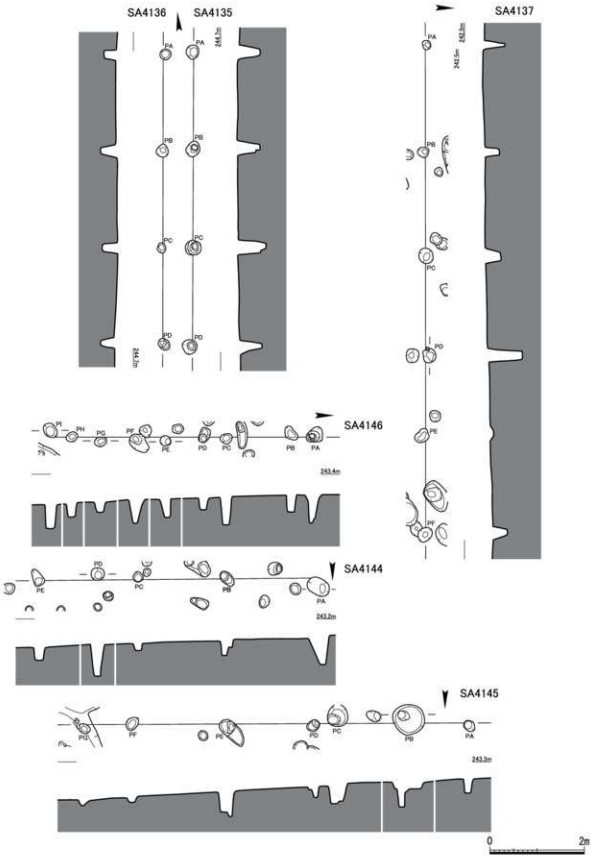


図 42　北地区古代～中世の柵列２（1/80）

SB4095 出土遺物（図 43）

97 は土師器小皿で、底部は不明瞭ながら糸切のようである。98 は白磁皿Ⅸ類の底部、99 は竜泉窯系青磁碗Ⅱa 類である。

SB6015（図 29・41）

北地区の中央部に位置する掘立柱建物で、主軸を N83° E にとる東西棟の側柱建物である。北側に SA6017 が並走し、南側に SA6016、東側に SA6018 が近接して位置する。また、SX6003 と平面で重複するが、新旧関係は不明である。西北に近接して主軸をほぼ同じくする SB4095 が位置する。梁行１間（3.93 m）×桁行３間（5.98 m）で、床面積は 23.50㎡である。梁行柱間は 3.93 m で２間分あり、桁行柱間は 1.66 ～ 2.62 m で、建物を構成する柱穴は径 0.2 ～ 0.5 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

柵列（図 26 ～ 29・41 ～ 42）

柵列として報告するのは以下の９条で、全て整理作業の段階で認定したものである。おおむね掘立柱建物と同様な分布を示すが、個々の関係は不明確である。

SA4135（図 26・42）

北地区の南西部に位置する柵列で、３間分の柱穴が N ６° E の南北方向に 6.21 m の長さで列をなす。柱間は 2.05 ～ 2.09 m、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。西側に 0.64 ～ 0.65 m の間隔で主軸・規格を同じくする SA4136 が並走し、整然とした配置から有機的な関連を持つ遺構群であることは明らかである。掘立柱建物の一部である可能性を検討したが、両者の間隔があまりに狭く、西側の調査区外に延びるとしても直交する位置の柱穴が確認されていないため、柵列として報告しておく。遺物は土師器杯ないし小皿が出土したが、小片であり図示していない。

SA4136（図 26・42）

北地区の南西部に位置する柵列で、３間分の柱穴が N ６° E の南北方向に 6.10 m の長さで列をなす。柱間は 2.01 ～ 2.05 m、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。東側に接して並走する SA4135 と一連の遺構群と考えられる。遺物は出土しなかった。

SA4137（図 29・42）

北地区の中央部に位置する柵列で、５間分の柱穴が N88° E の東西方向に 10.38 m の長さで列をなす。北側に SB4129 が位置し、西側の SB4128 とは平面で重複する。柱間は 1.72 ～ 2.25 m で、柱穴は径 0.2 ～ 0.4 m の円形基調である。遺物は土師器杯（糸切）、瓦器碗が出土したが、小片であり図示していない。

SA4144（図 27・42）

北地区の中央部に位置する柵列で、柱穴が N89° E の東西方向に列をなす。南側に 2.34 ～ 2.36 m の間隔で主軸を同じくする SA4145 が並走する。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.4 m の円形基調である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）・鍋Ⅱ類が出土した。

SA4144 出土遺物（図 43）

114 は土師器小皿で、不明瞭ながら底部糸切のようである。

SA4145（図 27・42）

北地区の中央部に位置する柵列で、柱穴が N89° E の東西方向に列をなす。北側に主軸を同じくする SA4144 が並走する。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.6 m の円形基調である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）が出土したが、小片であり図示していない。

SA4146（図 27・42）

北地区の中央部に位置する柵列で、柱穴が N 1 ° E の南北方向に列をなす。北西側に主軸がほぼ直交する SA4144・SA4145 が位置する。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。遺物は土師器杯ないし小皿が出土したが、小片であり図示していない。

SA6016（図 29・41）

北地区の中央部に位置する柵列で、東端の PF を除き 4 間分の柱穴が N88° E の東西方向に 8.18 m の長さで列をなす。北側に SB6015 がおおむね並行して位置し、北東側に SA6018 がおおむね直交して位置する。柱間は 1.70 ～ 2.36 m で、柱穴は径 0.2 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

SA6017（図 29・41）

北地区の中央部に位置する柵列で、柱穴が N84° E の東西方向に列をなす。南側に SB6015、西側に SB4095 が主軸をほぼ同じくして位置する。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.3 m の円形基調である。遺物は土師器杯、瓦器碗が出土したが、小片であり図示していない。

SA6018（図 29・41）

北地区の中央部に位置する柵列で、柱穴が N 7 ° W の南北方向に列をなす。西側に SX6003 が近接して位置し、更に西側には SB6015・SA6017・SA6016 が位置し、これらとは主軸がおおむね直交する。柱間は不揃いで、柱穴は径 0.2 ～ 0.3 m の円形基調である。遺物は出土しなかった。

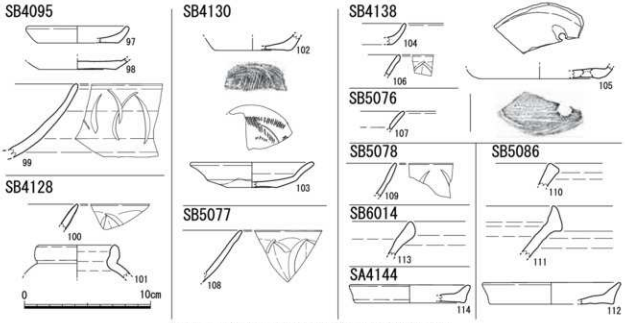


図 43　北地区古代～中世の掘立柱建物・柵列出土遺物（1/3）

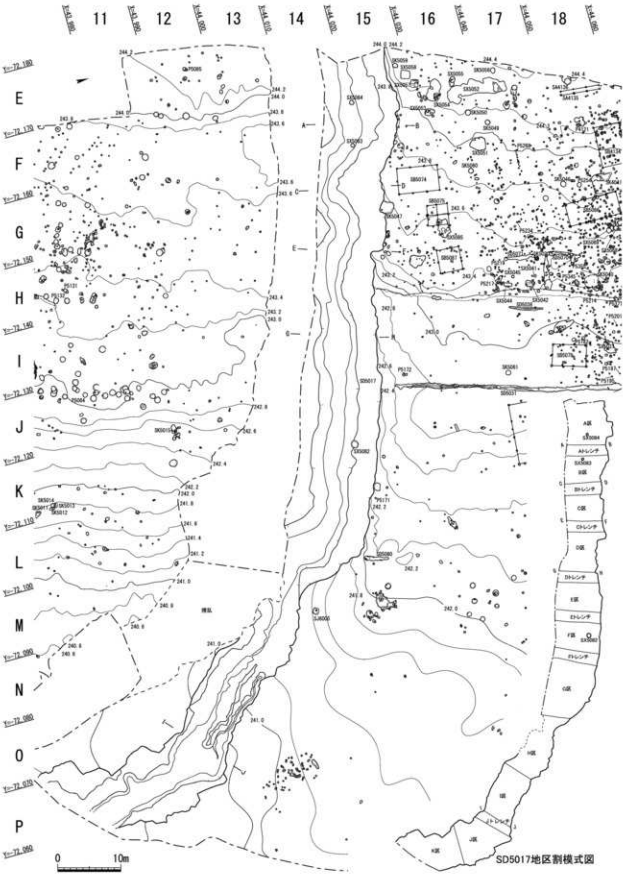


図 44　SD5017（1/600）

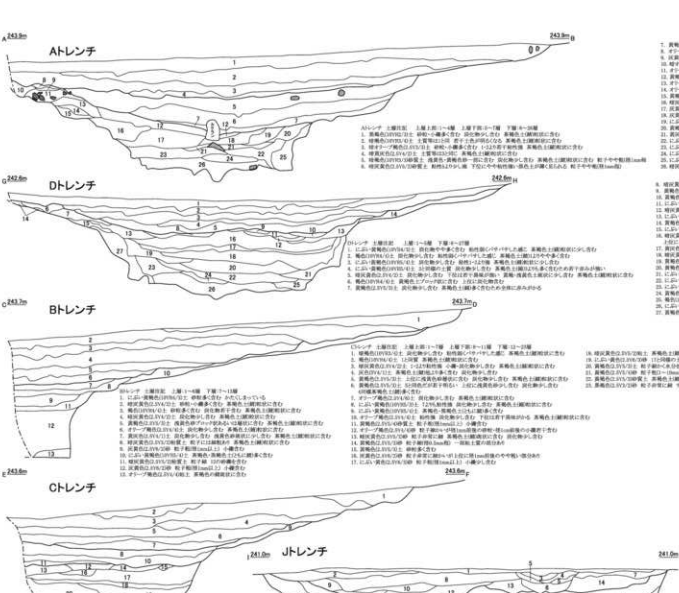


図45 SD5017土層（1/80）

流路（図 44～45・57）

流路としたのは、SD5017 と SD6001 の２条である。集落内の自然流路が用排水路として利用され、部分的に手を加えられたものと思われる。

SD5017（図 44～45）

北地区と南地区を画す水路に重複する形で検出された大規模な流路である。調査区の西側から西北西－東南東方向に 80 m程流れた後、北西一南東方向に折れて 50 数m続き、現況の水路と同じく畑瀬大明神の北側で嘉瀬川に注ぐようである。平成６年度の確認調査では旧国道の西側に設けられた試掘坑において SD5017 の西側延長部と思われる落込みが検出されている。およそ幅 10 m以上の規模であったようで、北側の岸は調査区内で検出できたが、南側の岸は大部分が現況の水路下や攪乱部にあたるため６区の一部で確認できたのみである。５Ｎ区と６区で検出できた範囲を上流側（西側）から順にＡ～Ｋ地区として分割し、各地区の境に土層観察用のトレンチを設定し、トレンチでの土層堆積状況を確認しながら面的な掘り下げを行った。埋土は大きく上層と下層に２分できるが、上流側と下流側でその様相がやや異なっている（図 45）。上流側のＡ～Ｂ地区辺りでは上層が更に上下に大別でき、上層上部を（上層）と上層下部（中層）に区分することができた。下層は礫・砂・砂質シルトが目立ち流水があったようであるが、上層では焼土坑かと思われる遺構（SX5082・SX5083・SX5084）も営まれていて、大きく状況が異なっている。下流側は出土遺物が僅少なうえ、底面や側壁の起伏も顕著で人の手があまり加わっていないが、上流側は出土遺物が多く、側壁も人為的に整えられる等、集落の中心部に近い状況がうかがえる。

古代～中世の土器・陶磁器をはじめ、石鍋・砥石等の石製品、土錘、鉄器、鞴羽口、鉄滓等の遺物が多数出土した他、弥生～古墳時代の土器（前節で報告）や縄文時代の土器・石器（縄文時代編で報告予定）も混在していた。大規模な流路であるために出土遺物の層位的分離を厳然とは行えないが、下層では 12 世紀代までの遺物が主体を占め、上層では 13 紀代の遺物が多く、14 世紀代の遺物は上層に限られている。最終的な埋没年代は 14 世紀後半頃と考えられる。

SD5017 出土遺物（図 46～56）

115 ～ 119 は底部ヘラ切の土師器小皿で、115 ～ 117 は Ａトレンチ下層の砂質土中から共伴して出土した。120 ～ 128 は底部糸切の土師器小皿である。129 ～ 133 は底部ヘラ切の土師器杯、134 ～ 147 は底部糸切の土師器杯である。土師器杯・小皿は 11 世紀後半から 14 世紀前葉と見られるものが主体であるが、９世紀後半～ 10 世紀に遡る資料（129）や 14 世紀中葉～後半に降る資料（144）もある。

148 ～ 149 は瓦器小皿で、いずれも底部糸切である。150 ～ 169 は土器碗である。150 は丸底指向で深みのある杯に高台を付けた土師器で、内面にコテ当て痕が見られること等から土師器碗とした。151 は瓦器・黒色土器と同じ器形・調整手法によるいわゆる研磨土師器碗である。152 は黒色土器Ｂ類碗で、口縁部を欠く。高台内までやや密なヘラミガキを施す点が瓦器碗と異なる。153 ～ 169 は瓦器碗である。

170 ～ 181 は白磁皿である。170 ～ 174 は白磁皿Ⅵ類、175 は内面に刻花文を施す白磁皿Ⅷ類、176 ～ 181 は口禿の白磁皿Ⅸ類である。182 ～ 217 は白磁碗である。182 ～ 186 は白磁碗Ⅱ類、187 ～ 206 は白磁碗Ⅳ類、207 ～ 210 は白磁碗Ⅴ～Ⅶ類、211 ～ 214 は白磁碗Ⅷ類、215 ～ 217 は白磁碗Ⅸ類である。

218 は越州窯系青磁碗Ⅰ類の底部である。高台は低く、畳付の幅が広いが、典型的な蛇の目高台とは異なっており、幅広の輪高台としておく。内底には６箇所の目跡が遺り、全体で 10 箇所程度であったと考えられる。釉の状態も良く器面・破断面共に磨耗した状態は観察されない。

219 ～ 230 は同安窯系青磁皿で、219 ～ 225 は内底に櫛描文を施す。230 は白磁皿Ⅷ類に近い器形であるが、同安窯系青磁皿として報告しておく。231 ～ 235 は同安窯系青磁碗である。

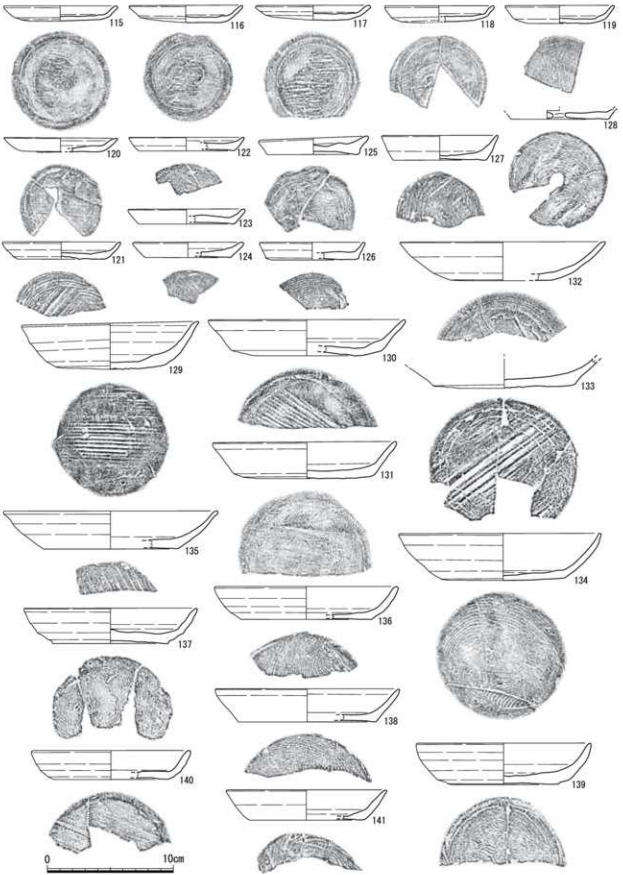


図46　SD5017 出土遺物1 (1/3)

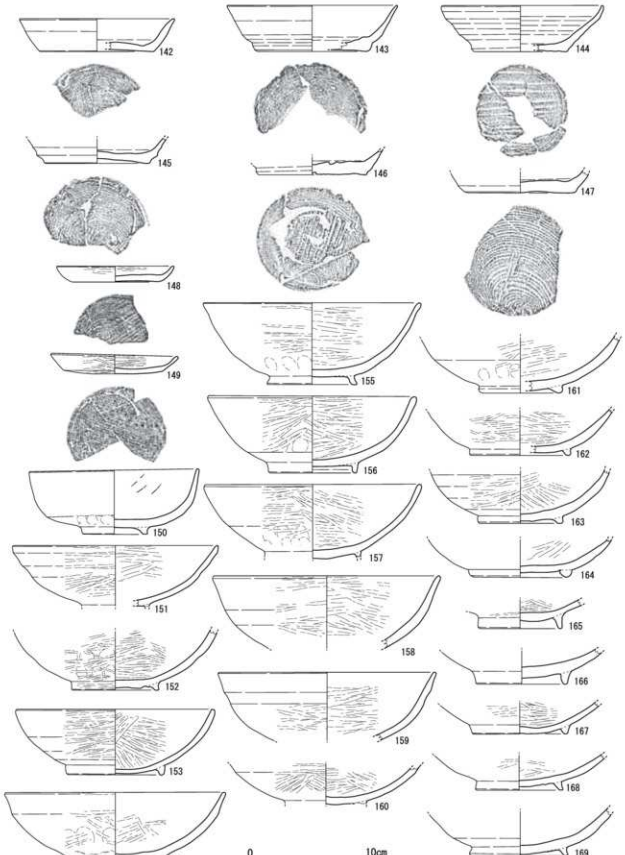


図 47　SD5017 出土遺物２（1/3）

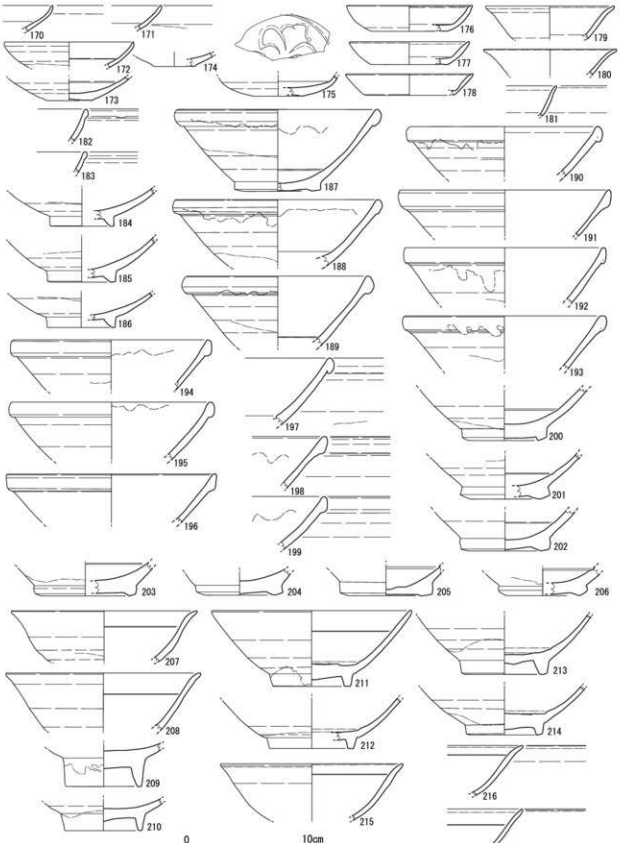


図48　SD5017 出土遺物3（1/3）

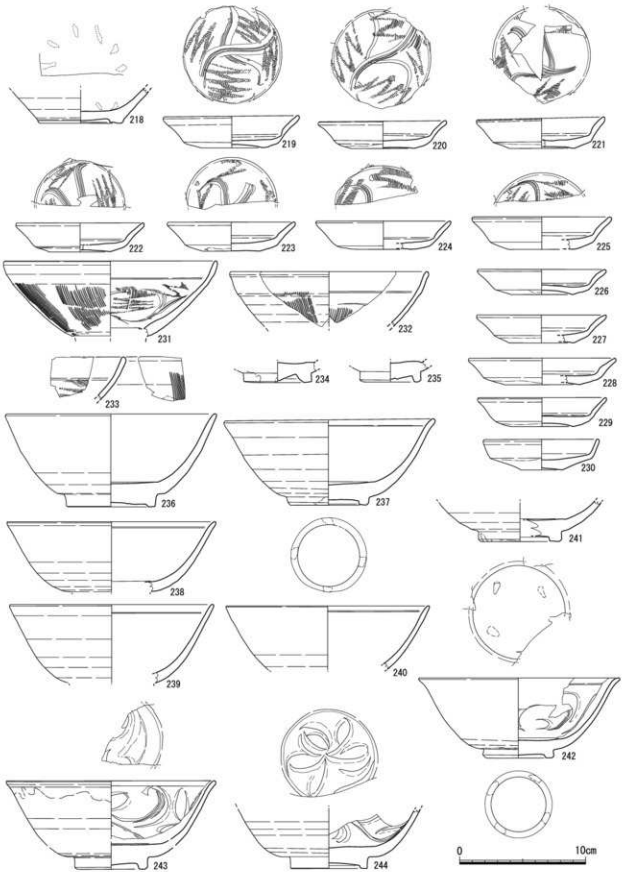


図 49　SD5017 出土遺物４（1/3）

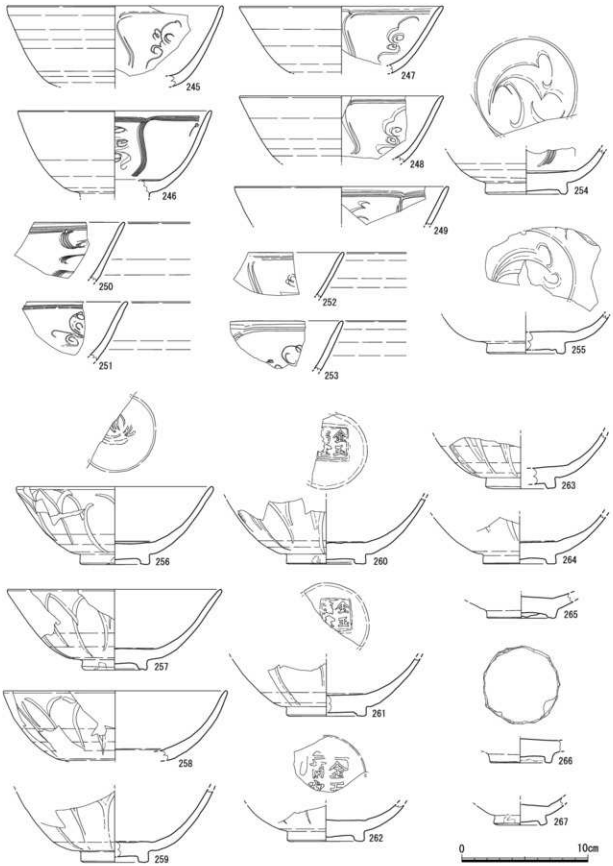


図50　SD5017 出土遺物5（1/3）

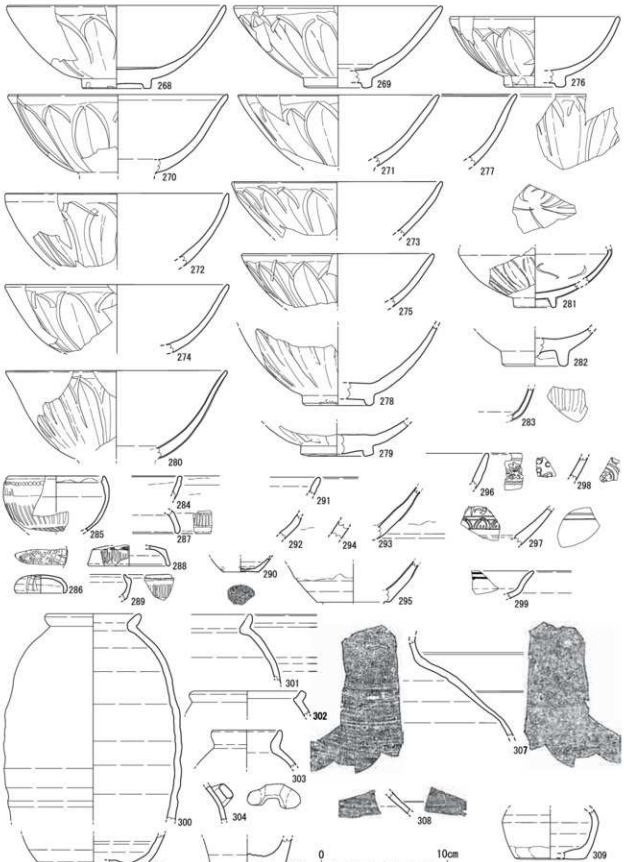


図 51　SD5017 出土遺物６（1/3）

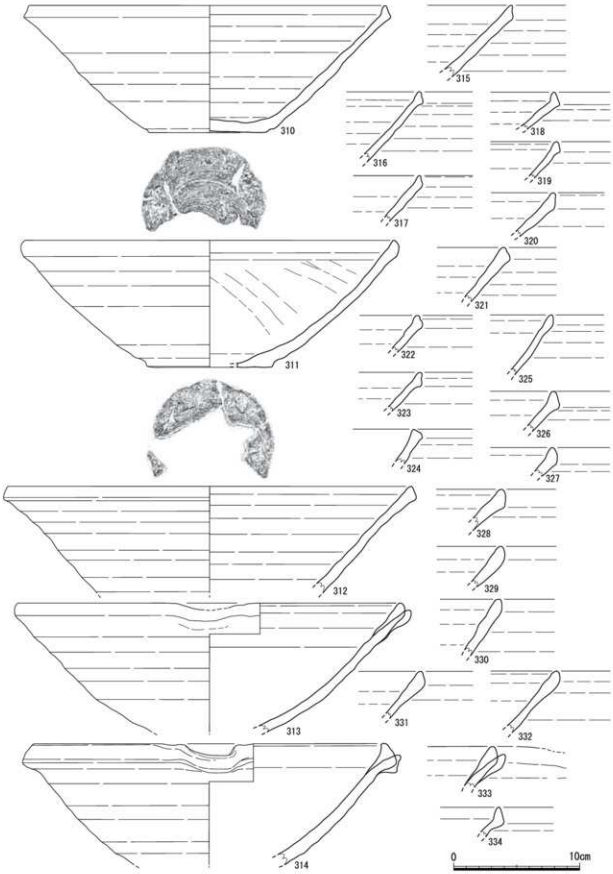


図52　SD5017 出土遺物7 (1/3)

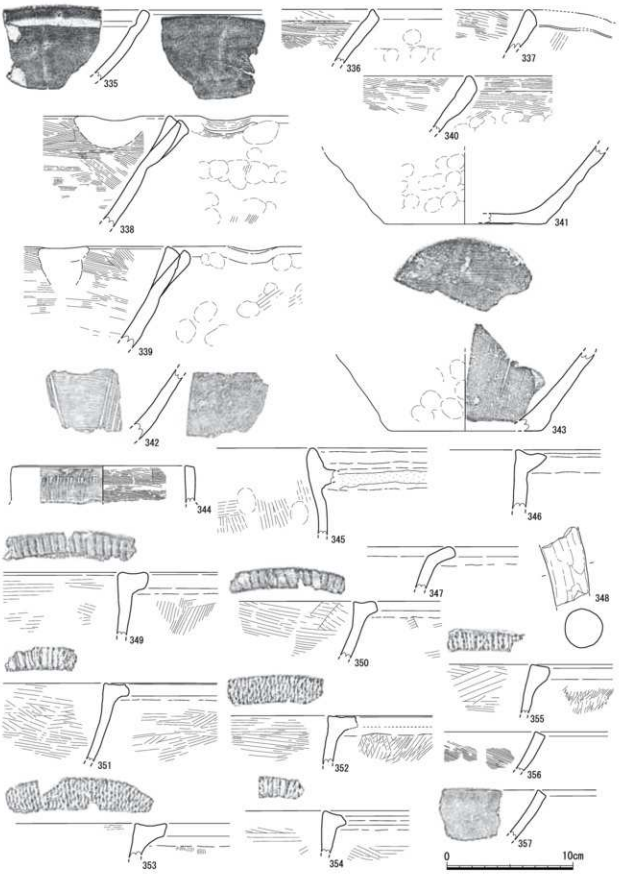


図 53　SD5017 出土遺物８（1/3）

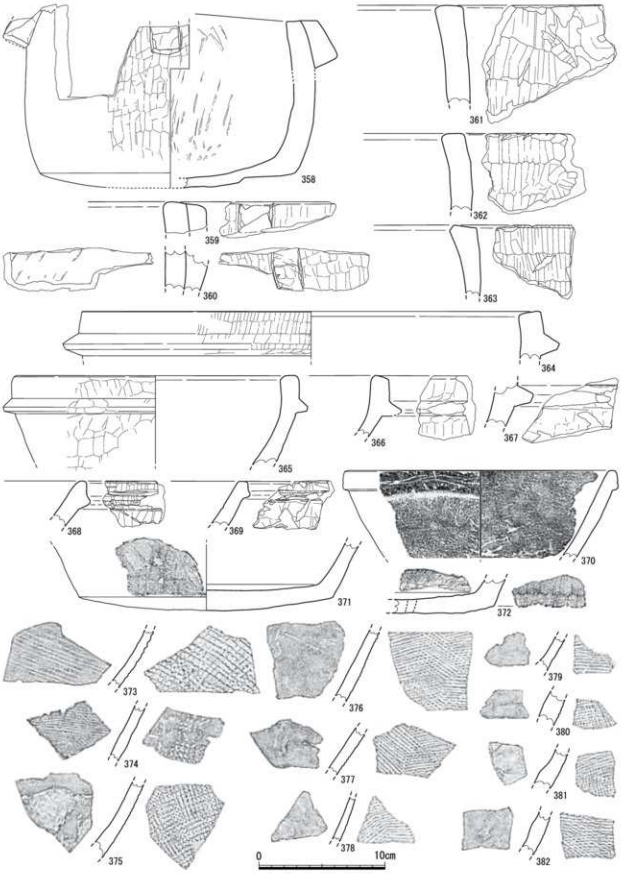


図54　SD5017 出土遺物9（1/3）

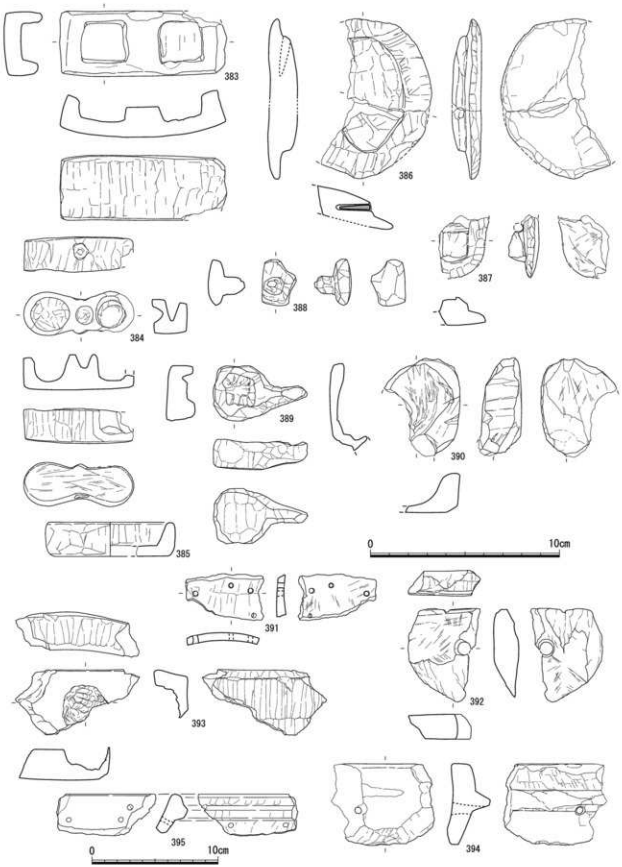


図 55　SD5017 出土遺物 10（383 ～ 390 は 1/2、391 ～ 395 は 1/3）

236 ～ 255 は竜泉窯系青磁碗Ⅰ類である。236 ～ 241 は無文のⅠ１類。242 は内底と畳付に各４箇所の目跡があり、内面に劃花文を施す。243 ～ 244 は見込みと体部内面に劃花蓮華文を施すⅠ２類、245 ～ 255 は内面を区切り、その間に雲文等を施すⅠ４類である。

256 ～ 264 は外面に無鎬蓮弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱａ類である。256 は見込みに不鮮明ながら草花文の印花があり、260 ～ 262 には「金玉満堂」が印刻される。265 ～ 267 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ類と思われる底部破片である。266 は底部からの立ち上がり部分を打ち欠いているが、高台には手を加えていない。267 は小碗と思われる。268 ～ 279 は鎬蓮弁文の竜泉窯系碗Ⅱbc 類である。底部の遺るものでは 268・278・279 がⅡｂ類、269 がⅡｃ類である。276 は一回り小振りの碗で、釉は青みの強い透明感のある発色で、蓮弁の削り出しは立体的である。280 も鎬蓮弁文の竜泉窯系碗で、釉層の厚さは碗Ⅲ類に近いが、発色はやや暗く碗Ⅱbc 類とすべきかもしれない。

281 は竜泉窯系青磁束口碗Ⅲ゛類で、同一個体の体部と底部破片を図上で復元した。282 は竜泉窯系青磁碗の底部で、Ⅳ類ないしそれ以降のものである。

283 は竜泉窯系青磁小型品の体部破片で、小壺かと思われる。外面に立体的な細蓮弁文ないし鎬文を施す。

284 はやや青みを帯びた白磁の口縁部で、徳化窯系の杯の可能性が高い。

285 は型作りの白磁小壺で、口縁部外面に乳状の浮文を廻らせ、外面体部下半には縦方向の沈線文を刻む。

286 ～ 289 は合子で、286 は白磁の蓋、287 は褐釉陶器の蓋である。288 と 289 は共かと思われる白磁の蓋と身である。いずれも型作りで草花文等を配す。

290 は褐釉陶器の小壺（茶入）底部である。底部は糸切で、外面底部付近に目跡と思われる白色の付着物がある。器壁は極めて薄く、内面は無釉で轆轤目を留める。胎土は紫がかったにぶい赤褐色である。

291 ～ 295 は中国産の天目碗と思われる黒釉磁である。291 は内面に段を付ける口縁部破片、292 は体部上位の屈曲部破片、293 は体部から底部近くの破片、294 は体部小片、295 は高台脇を削る底部近くの破片で、化粧土を施し、二重掛けする。

296 ～ 298 は高麗末～朝鮮王朝初期の象嵌青磁である。いずれも小片で全体の文様構成は不明である。296 は角杯の可能性がある杯ないし碗の口縁部で外面に区画線と不鮮明な花文かと思われる白象嵌を施す。297 は碗の底部近くの破片で、外面には二重の圏線、内面には剣先蓮弁文等を白象嵌で施す。298 は碗かと思われる体部破片で、外面に二重円で囲った花文、内面に雲文を白象嵌で施す。

299 はベトナム白磁（白釉陶器）鉄絵皿の口縁部破片である。腰部で強く屈曲し口縁部に向かって緩やかに外反する。口縁部内面に二条の圏線を鉄絵で釉下に施すが、外面は無文である。胎土は灰白色で細かく、釉は透明で貫入がみられる。

300 ～ 306 は褐釉・黒褐釉陶器の壺である。長胴の瓶形のものとややや寸胴のものがあるが、いずれも中小型品である。口縁部の遺存するものは、細部の違いはあるが短く屈曲して開く。底部は上げ底気味の平底である。304 は耳壺の把手部で、横方向に貼り付ける。

307・308 は同一個体の可能性が高い朝鮮産無釉陶器で、307 は頸部から胴部上半の破片で、なで肩の広口壺か複合口縁壺と思われる。タタキ成形で非常に薄手に造り、外面は丁寧なナデ、内面は轆轤目を顕著に留める。また、外面に意図的な装飾かどうかはわからないが細い沈線が廻っている。器表面の色調は須恵器のような灰色だが、胎土内部はにぶい赤褐色・灰褐色である。

309 は小壺と思われる平底の須恵器で、越州窯系青磁碗と共に平安時代前半期に遡る資料である。

310 ～ 334 は東播諸窯とみられる須恵器系陶器捏鉢である。内面の体部下半から底部が遺存するものはいずれも使用による顕著な摩滅痕が観察される。

335・336 は樺番城・亀山窯系かと思われる須恵器系陶器捏鉢の口縁部である。335 はやや瓦質焼成で、僅かに内彎気味に立ち上がり、端部はやや面を成す。口縁部内面に１条の太い沈線を巡らせ、口縁部内外はヨコナデ、内

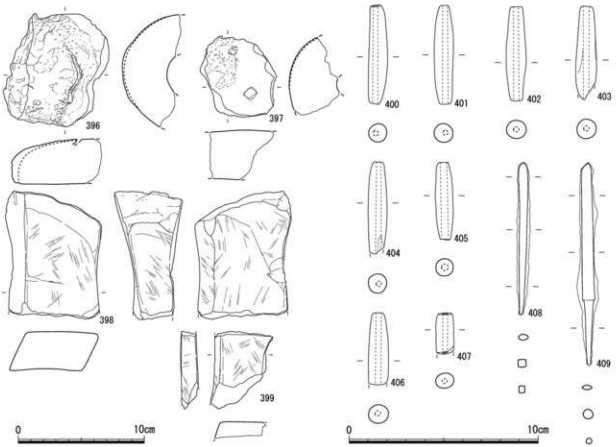


図 56　SD5017 出土遺物 11（396 ～ 399 は 1/3、400 ～ 409 は 1/2）

面は横方向のやや細かいハケメ、外面はナデ調整である。336 は内面のハケメ調整が粗く、口縁部を強く横ナデして内面側がやや凹む。

337 ～ 341 は瓦質土器捏鉢、342 ～ 343 は瓦質土器擂鉢である。344 は土師器茶釜の口縁部と思われ、外面に原体を回転させた印刻文を施す。

345 ～ 357 は土師器の煮炊具である。345 は外面に鍔部を持つ釜形かと思われる資料で、外面には煤が付着していて煮炊具であることがわかるが、胎土や調整手法は中世というより古代後期～末期の甕・鍋に近い印象を受ける。346 は外面を三角形に大きく突出させる口縁部である。内器面の調整はナデで、鍋Ⅰ類からⅡ類の過渡的なものかⅡ類の変異ではないかと考えられる。347 は鍋Ⅰ類かと思われる外反口縁の資料である。348 は足鍋の脚部と思われる破片で、胎土や焼成の特徴から中世後期に当地域に搬入される防長系足鍋のものではなく、在地系土師器鍋Ⅰ類かそれに先行する古代後期の所産と思われる。349 ～ 355 はＬ字状に短く張り出した口縁の上面に文様を施す鍋Ⅱ類で、349 ～ 350 は短沈線状文の鍋Ⅱａ類、352 ～ 355 は縄目文の鍋Ⅱｂ類、351 はⅡａ類とⅡｂ類の文様が同一個体に施された資料である。356 は素口縁で内面に細かいハケメを施す鍋Ⅲｂ類で、357 も煤の付着はないが鍋Ⅲｂ類と思われる。

358 ～ 372 は滑石製石鍋である。図示したものの他にも特徴を捉えにくい破片資料が多く出土している。358 ～ 360 は縦方向の耳状把手を持つもので、把手部はないが 361 ～ 363 も同類であろう。364 ～ 370 は口縁下に鍔が廻る釜形のもので、鍔部と底部の退化傾向から複数の段階の資料を含むことがわかる。370 は口縁部外面に簡素な唐草文風の沈線文を施している。

373 ～ 382 はタタキ調整を施す須恵器系陶器甕の体部破片である。373 ～ 375 は外面に格子タタキを施すもので、内面の最終調整は 373 と 374 が粗いハケメ、375 がナデである。376 ～ 382 は外面に平行タタキ、内面に

ナデを施すもので、376 ～ 378 は東播諸窯系かと思われる。

383 ～ 390 は滑石製品で、痕跡の明瞭でないものも含め石鍋破片の再加工品と思われる。383・384 は複槽容器形の滑石製品で、383 が長方形に方柱状の彫り込みであるのに対し、384 は円柱状の彫り込みで全体も 8 の字状を成し更に中央と一側面にも貫通しない小さな円形の穴を彫っている。386 ～ 387 は円形ないし隅丸方形の板に鉦状の突起が付くバレン形の滑石製品で、いずれも突起部に孔を穿つ。386 は 2 方向から孔を穿つが、どちらも貫通しておらず、一つの孔中に鉄棒が遺存している。突起部上面に煤の付着が顕著である。388 も見かけはバレン形の滑石製品であるが、極端に小さく突起部に穿孔が施されていない等、386・387 と同種のものであるかは疑問がある。

391 ～ 395 は石鍋再加工滑石製品の未製品かと思われる資料である。391 は径 3 mm 程の孔を 4 箇所穿つ。通有の石鍋破片にしては器壁が非常に薄く、表裏から破断面にまで煤が付着すること等から、破断面には加工痕がないものの製品として使用されていたものかもしれない。392 は径 1 cm の孔を穿つ。393 は石鍋の口縁部破片の裏側に窪みを彫ったもので、破断面に加工痕がないこと等から再加工途中に破損して放棄されたものであろう。394・395 は石鍋の口縁部破片を部分的に加工したもので、やはり未製品とみられる。

396・397 は土製の鞴羽口である。398・399 は砥石で、いずれも中砥と考えられる。400 ～ 407 は紡錘形の土錘である。408・409 は錆のために形状が不明瞭であるが、鉄鏃かと思われる鉄製品である。

SD6001（図 57）

北地区の中央部南西寄りに位置する流路で、中央部の遺構集中部のすぐ南から東へ直線的に流れる。延長 35 m 以上、幅 3.5 ～ 7.9 m、深さ 0.1 ～ 0.5 m である。等高線に直交してほぼ真直ぐであるが、両岸とも不整形で、壁面や底面もやや起伏がある。遺物は糸切の土師器杯・小皿、土師器鍋Ⅱ類、瓦器碗、瓦質土器捏鉢、東播諸窯系捏鉢、須恵器系陶器捏鉢・甕、白磁皿Ⅸ類・合子、竜泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、滑石製石鍋、鉄滓が出土した。

SD6001 出土遺物（図 58）

410 は底部糸切の土師器小皿、411 は底部糸切の土師器杯、412 は瓦器碗の口縁部から体部にかけての破片である。413 ～ 420 は口禿の白磁皿Ⅸ類で、420 は高台が付く。421 は内面に劃花文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅰ 2 類の口縁部破片である。422 ～ 437 は角高台で外面に連弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱ類で、422・423 は蓮弁に鎬のないⅡ a 類、424 は鎬蓮弁で内底に草花文を印刻するⅡ c 類、425 ～ 437 は鎬蓮弁のⅡ bc 類である。438 は白磁合子蓋、439 は白磁合子身である。440 は土師器鍋の口縁部破片で、不明瞭ながら鍋Ⅱ b 類かと思われる。

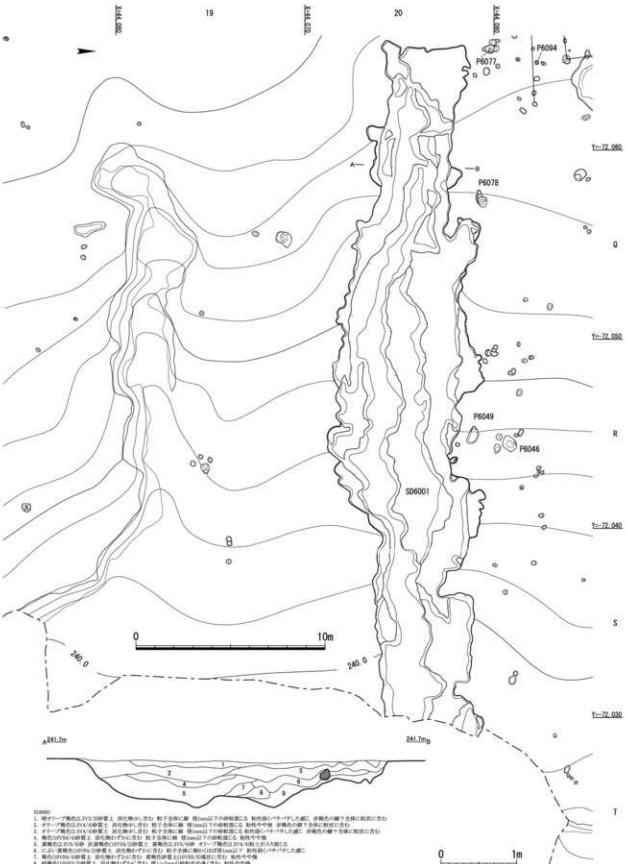
441 ～ 443 は須恵器系陶器甕の体部破片である。441・442 は外面に格子タタキを施し、内面は 441 が粗いハケメ、442 がナデである。443 は底部近くの破片かと思われ、外面は工具による擦痕があるもののタタキ痕は観察できない。内面は粗いハケメである。444 は瓦質土器捏鉢で、外面底部近くはヘラケズリが見られる。445 ～ 452 は東播諸窯と思われる須恵器系陶器捏鉢である。

溝（図 59）

北地区では、以下の溝 8 条を当該期の遺構として報告しておくが、時期の決定できない溝状遺構が他にもある。規模や形状はさまざまであり、性格・機能も異なるものであろう。

SD4014（図 25・59）

北地区の中央部北寄りに位置する溝で、遺構集中部の北端にあたる。東西方向に 21 m程走り、西端でやや南寄りに屈曲した後に途切れ、再び折れて南に 6 m程続く。幅 0.5 ～ 2.2 m、深さ 0.1 ～ 0.4 m である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）・鍋、白磁碗Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類が出土した。



SD6001
1. 明オリーブ褐色(2.5Y5/3)砂質土。炭化物少し含む。粒子全体に細（5mm以下）の砂粒混じる。粘性強くパサパサした感じ。赤褐色の縞？全体に粒状に含む。
2. オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土。炭化物少し含む。粒子全体に細（5mm以下）の砂粒混じる。粘性中や強。赤褐色の縞？全体に粒状に含む。
3. オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂質土。炭化物少し含む。粒子全体に細（5mm以下）の砂粒混じる。粘性強くパサパサした感じ。赤褐色の縞？全体に粒状に含む。
4. 暗色(10YR4/4)砂質土。炭化物少しずつに含む。粒子全体に細（5mm以下）の砂粒混じる。粘性中や強。
5. 黒褐色(2.5Y3/1)砂　炭質褐色(10YR4/2)砂質土。黒褐色(2.5Y3/1)砂　オリーブ褐色(2.5Y4/3)粒土が入り混じる。
6. にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土。炭化物少しずつに含む。粒子全体に細かく(5以下(5mm))？　粘性強くパサパサした感じ。
7. 暗色(10YR4/4)砂質土。炭化物少しずつに含む。黒褐色砂質土(10YR3/1)混じり含む。粘性中や強
8. 暗褐色(10YR3/3)砂質土。炭化物少しずつ含む。粗い～2mm砂粒中や多く含む。粘性中や強
9. 黒褐色(2.5Y3/2)砂　黒褐色(2.5Y3/1)砂が入り混じる。底面に白礫が見られる

図 57　SD6001（1/200）、土層（1/50）

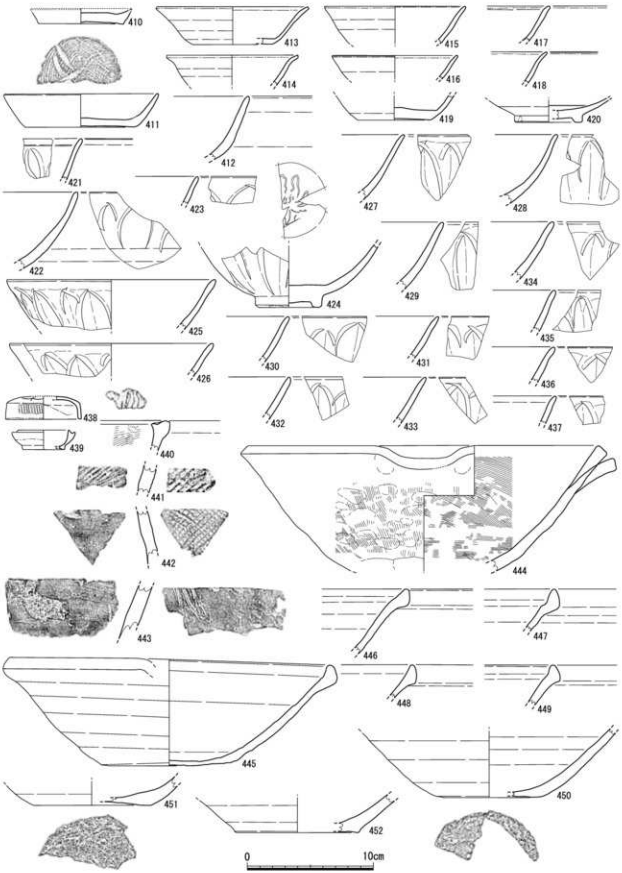


図58　SD6001 出土遺物（1/3）

SD4014 出土遺物（図 64）

453 は土師器鍋Ⅲ a 類の口縁部である。

SD4087（図 24・59）

北地区の中央部北寄りに位置する溝で、北北東－南南西方向に直線的に約 25 m走る。中途で途切れる部分があるが、一連の溝として番号を付けた。幅 0.4 ～ 1.6 m、深さ 0.1 m程で浅い。西側に SD4086 が並走する。遺物は土師器杯（糸切）と須恵器系陶器甕が出土した。

SD4087 出土遺物（図 64）

454・455 は底部糸切の土師器杯である。

SD5018（図 25・59）

北地区の南側中央に位置する溝で、北西－南東方向に直線的に 4.9 m走る。南西に 3.5 m程の間隔をおいて SD5019 が並走する。幅 1.0 ～ 1.3 m、深さ 0.1 mである。遺物は土師器杯ないし小皿、瓦器捏鉢か甕、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、鉄滓が出土した。

SD5018 出土遺物（図 64）

456 は口禿の白磁皿Ⅸ類である。457・458 は鎬蓮弁文の竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類で、458 は内底に印刻草花文を持つⅡ c 類である。

SD5019（図 25・59）

北地区の南側中央に位置する溝で、北西－南東方向に直線的に 4.7 m走る。北東に 3.5 m程の間隔をおいて SD5018 が並走する。幅 0.6 ～ 0.8 m、深さ 0.1 ～ 0.8 mである。遺物は出土しなかった。

SD5031（図 23・59）

北地区の南西部に位置する溝で、北北西－南南東方向に約 7 m走った後、北北東－南南西方向に向きを変えて直線で約 41 m延びる。幅 0.4 ～ 1.2 m、深さ 0.1 ～ 0.2 mである。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、瓦質土器捏鉢、須恵器系陶器か瓦質土器甕、東播諸窯系捏鉢、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、褐釉陶器壺、滑石製石鍋、土錘と多数の鉄滓が出土した。

SD5031 出土遺物（図 64）

459 は底部糸切の土師器杯である。460 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ類の底部である。461・462 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢、463 は須恵器系陶器ないし瓦質土器かと思われる捏鉢の口縁部である。464 は須恵器系陶器ないし瓦質土器の甕の口縁部と思われる。粘土紐を貼り付けて口縁部外面を肥厚させるが、口縁端部からやや下がった位置を厚くする独特の形状を示す。くびれた頸部から短く外反する形態のようである。内面には横方向の粗いハケメを留める。P4143 から出土した 603（図 71）と胎土も含めて極似しており、同一個体と思われる。他地域からの搬入品の可能性が高いが、今のところ産地未詳である。465 は紡錘形の土錘である。

SD5038（図 23・59）

北地区の南西部に位置する小規模な溝で、北北東－南南西方向に 5.5 mの長さで直行し、幅 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.1 ～ 0.2 mである。遺物は糸切の土師器杯と鉄滓が出土したが、小片であり図示していない。

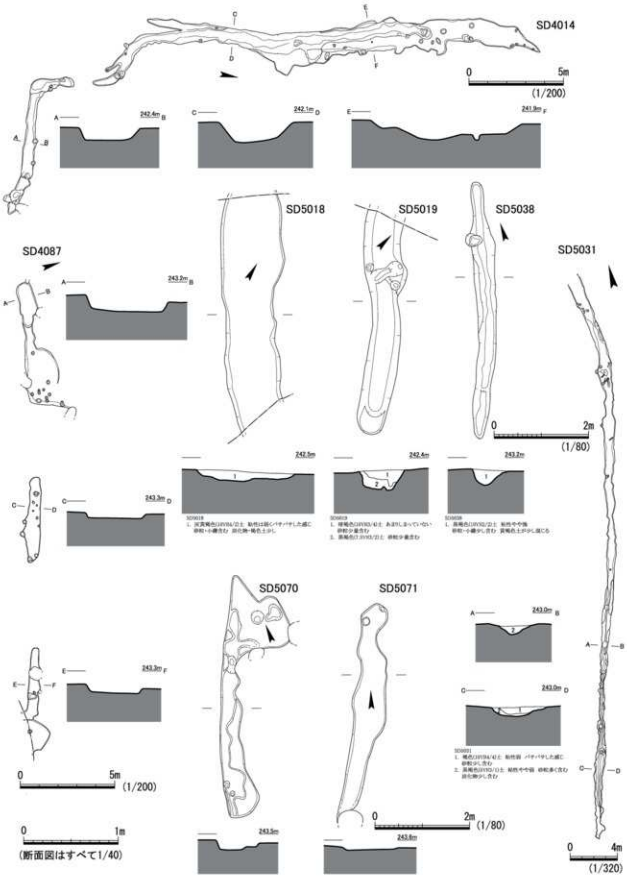


図 59　北地区古代～中世の溝（1/80、1/200、1/320）

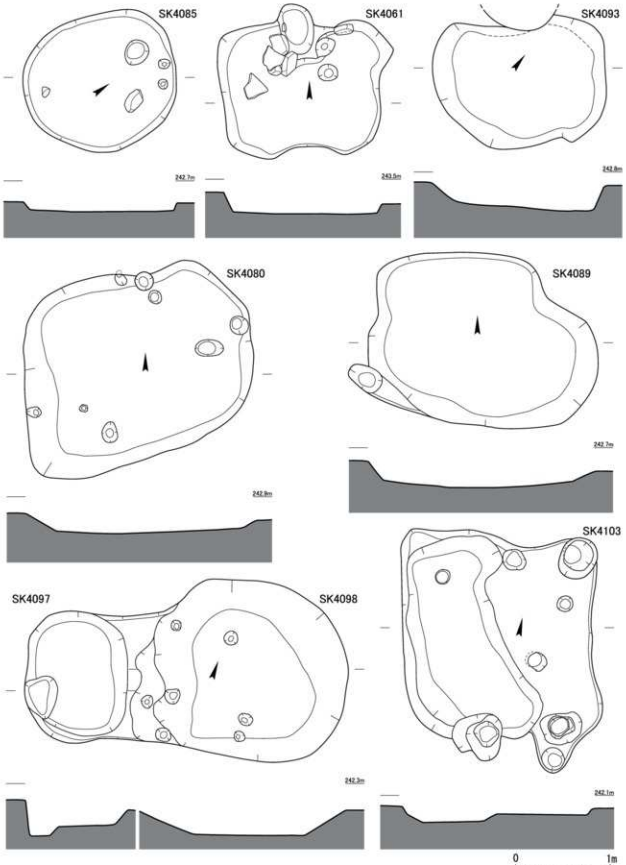


図 60　北地区古代～中世の土坑１（1/40）

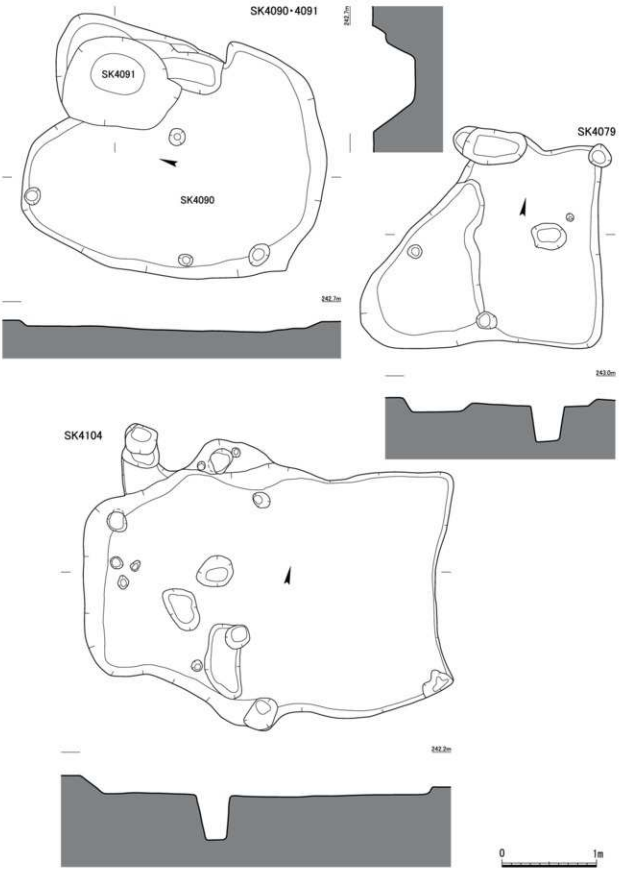


図 61　北地区古代～中世の土坑２（1/40）

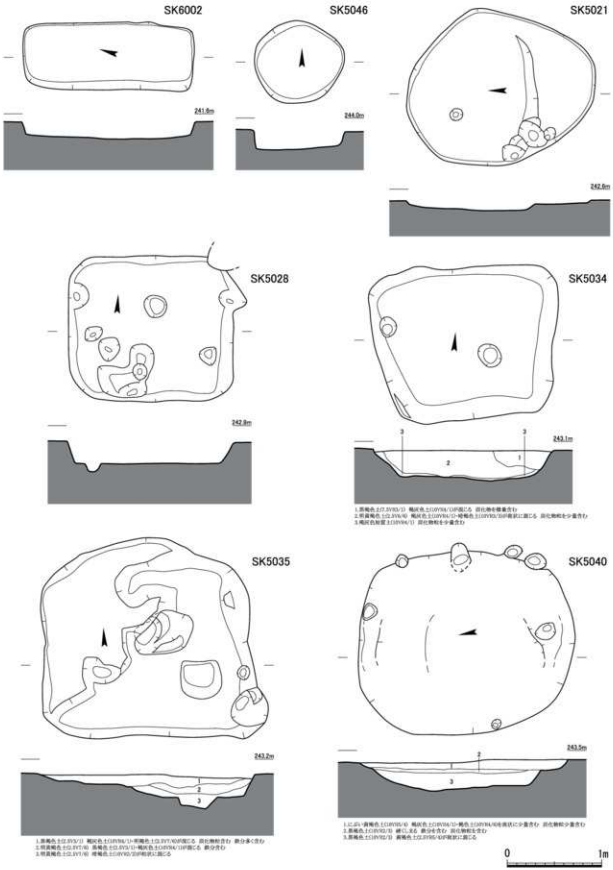


図 62　北地区古代～中世の土坑３（1/40）

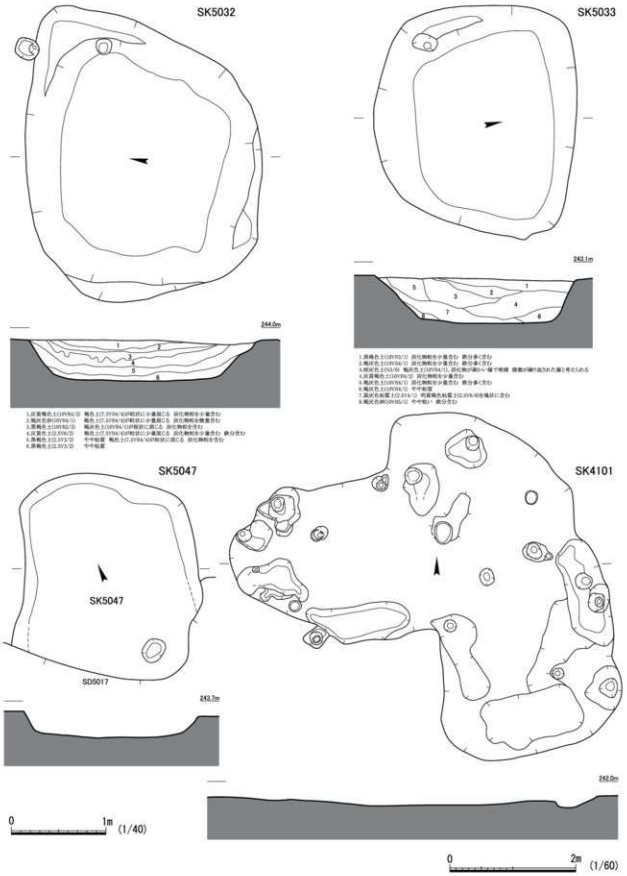


図 63　北地区古代～中世の土坑４（1/40、1/60）

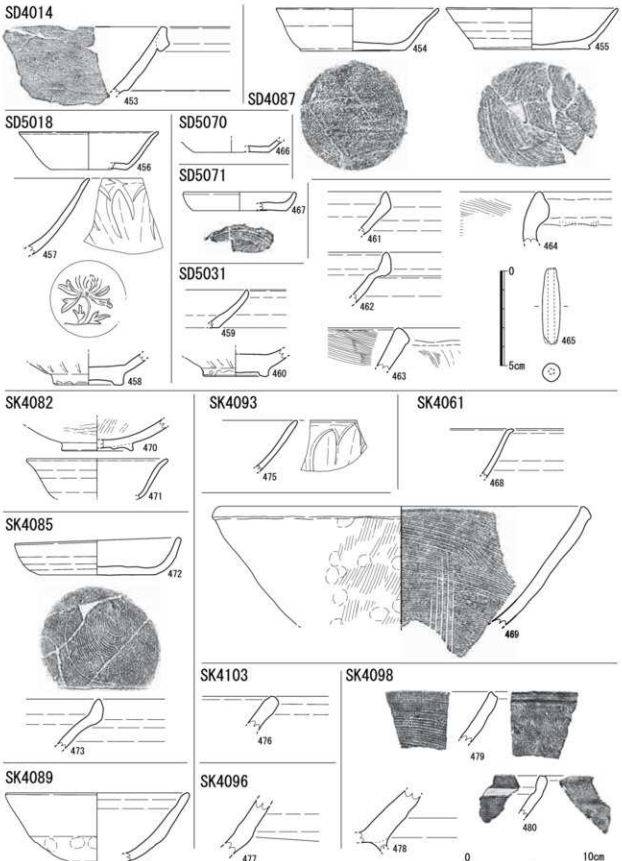


図 64　北地区古代～中世の溝・土坑出土遺物１（1/3、465 は 1/2）

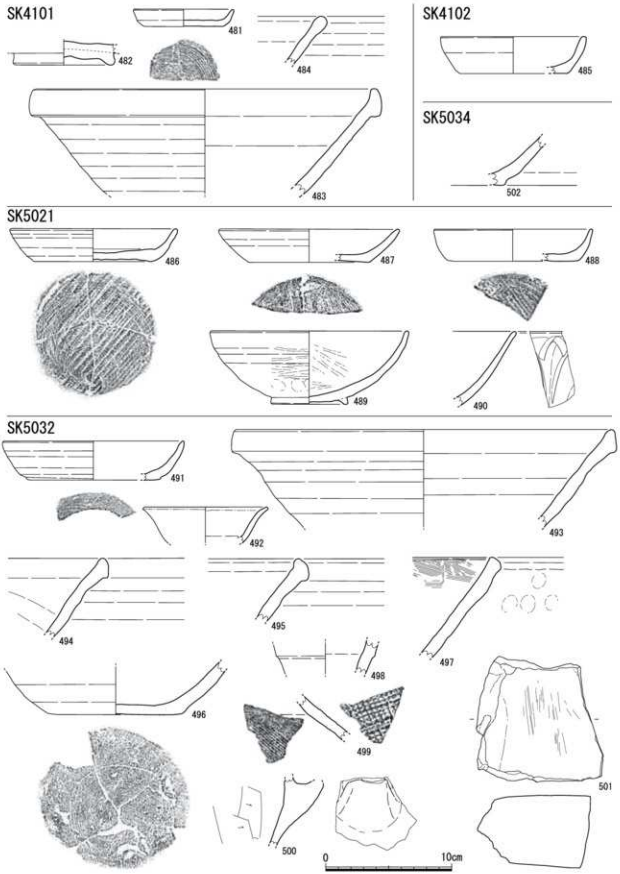


図 65　北地区古代～中世の土坑出土遺物２（1/3）

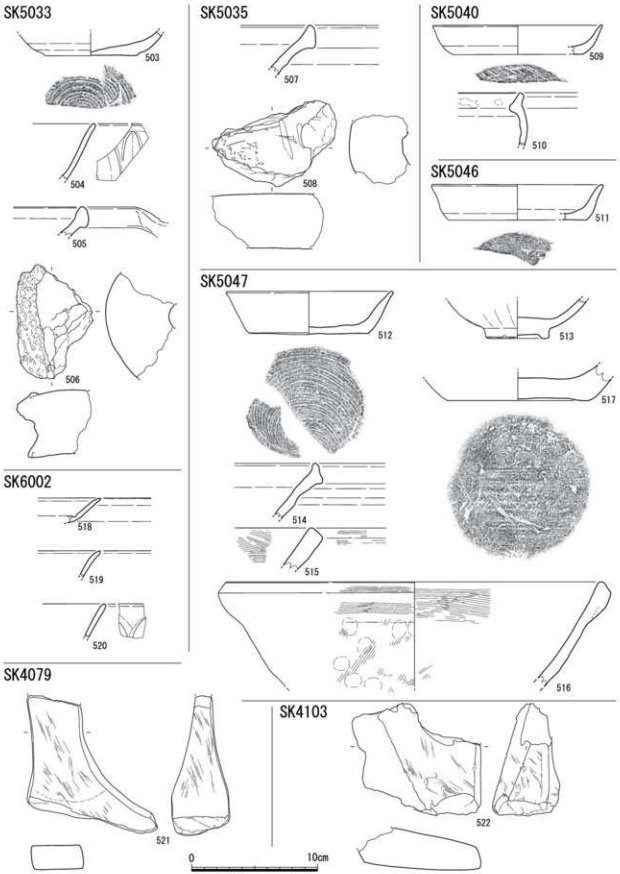


図66　北地区古代～中世の土坑出土遺物３（1/3）

SD5070（図 23・59）

北地区の南西部に位置する浅い溝で、北北東－南南西方向に直線的に 5.1 m走る。南側の延長線上に SD5070 が続き、両者は一連の溝であった可能性がある。幅 0.4 ～ 0.5 m、深さ 0.1 mである。遺物は土師器杯か小皿、東播諸窯系捏鉢、白磁皿Ⅸ類、鉄滓が出土した。

SD5070 出土遺物（図 64）

466 は口禿の白磁皿Ⅸ類の底部である。

SD5071（図 23・59）

北地区の南西部に位置する浅い溝で、北北東－南南西方向に直線的に 4.7 m走る。北側延長線上に SD5071 が続き、一連の溝であった可能性がある。幅 0.4 ～ 0.7 m、深さ 0.1 m未満で浅い。遺物は土師器小皿が出土した。

SD5071 出土遺物（図 64）

467 は底部糸切の土師器小皿である。

土坑（図 60 ～ 63）

北地区では、出土遺物や遺構の状況から以下の 23 基を古代～中世の土坑として報告する。形状や大きさ等はさまざまであるが、他の遺構と同様に中央部から南西部にかけてまとまった分布をみせる。また、埋土中に土器・陶磁器等と共に被熱痕のある拳大から幼児頭大の礫を含むものが目立つ。この他、遺構の状況に不明な点が多いが当該期の遺物が出土した遺構のうち 4 基について出土遺物のみ掲載する。

SK4061（図 28・60）

北地区の南西部に位置し、長軸 1.86 m、短軸 1.44 m、深さ 0.34 mで、平面は不整な隅丸方形である。遺物は土師器小皿、須恵器系陶器捏鉢、瓦質土器擂鉢、須恵器系陶器甕が出土した。

SK4061 出土遺物（図 64）

468 は白磁碗Ⅴ～Ⅷ類の口縁部、469 は瓦質土器擂鉢である。

SK4079（図 28・61）

北地区の中央部に位置し、長軸 3.10 m、短軸 2.31 m、深さ 0.21 mの不整な隅丸台形である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、砥石が出土した。

SK4079 出土遺物（図 66）

521 は砥石で、中砥と思われる。

SK4080（図 28・60）

北地区の中央部に位置し、長軸 2.80 m、短軸 2.12 mm、深さ 0.21 mで、平面は不整な隅丸五角形である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類が出土したが、小片であり図示していない。

SK4085（図 29・60）

北地区の中央部に位置し、長軸 1.58 m、短軸 1.47 m、深さ 0.14 mで、平面は不整な楕円形である。土師器杯（糸切）、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢が出土した。

SK4085 出土遺物（図 64）

472 は底部糸切の土師器杯、473 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。

SK4089（図 60）

北地区の中央部に位置し、長軸 2.44 m、短軸 1.82 m、深さ 0.31 mで平面は不整形である。土師器杯（糸切）、瓦器碗、瓦質土器捏鉢、東播諸窯系捏鉢が出土した。

SK4089 出土遺物（図 64）

474 は瓦器碗の破片で底部を欠く。

SK4090・SK 4091（図 29・61）

北地区の中央部に位置し、重複するが新旧関係は不明である。SK4090 は長軸 3.28 m、短軸 2.73 m、深さ 0.18 mで、平面は不整な卵形である。SK4091 は長軸 1.40 m、短軸 1.13 m、深さ 0.44 mで、平面は不整な楕円形である。遺物は SK4090 から土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁皿Ⅸ類、滑石製石鍋、SK4091 から土師器杯・小皿、瓦器碗、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、鉄滓が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SK4093（図 29・60）

北地区の中央部に位置し、長軸 1.89 m、短軸 1.60 m、深さ 0.15 mで、平面は不整な楕円形である。土師器杯（糸切）、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類が出土した。

SK4093 出土遺物（図 64）

475 は鎬蓮弁の竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類である。

SK4097・SK4098（図 29・60）

北地区の中央部に位置し、部分的に連なって瓢箪形を成す。SK4097 は、長軸 1.40 m、短軸 0.99 m、深さ 0.28 mで、平面は長楕円形である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、白磁皿Ⅸ類が出土した。SK4098 は、長軸 2.41 m、短軸 2.13 m、深さ 0.33 mで、平面はやや不整な楕円形である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、樺番城・亀山窯系捏鉢、東播諸窯系捏鉢、鉄滓が出土した。

SK4098 出土遺物（図 64）

478 は瓷器系陶器捏鉢の底部近くの破片で、SK4103 出土の 476、SK4096 出土の 477 と同一個体かと思われる。貼付高台の接合部付近が遺存し、高台より上に１ないし２段のやや狭いヘラケズリを施す。479 は須恵器系陶器捏鉢の口縁部で、須恵質に良く焼きあがっている。480 は須恵器系陶器捏鉢の口縁部で、内面に太い凹線状の沈線を１条廻らせる。焼成は瓦質で、SD5017 出土の 335 と器形や調整が極似し、同一個体の可能性もある。

SK4101（図 29・63）

北地区の中央部に位置し、長軸 6.68 m、短軸 4.50 m、深さ 0.11 mで、大型で不整形の浅い遺構である SB4138 と重複するが新旧関係は不明である。底面には小穴があるが、どれが本来この遺構に伴うものか判断しがたい。土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、鉄滓が出土した。

SK4101 出土遺物（図 65）

481 は底部糸切の土師器小皿である。482 は土師器碗ないし高台付付きの底部である。483・484 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。

SK4103（図 29・60）

北地区の中央部に位置し、長軸 2.44 m、短軸 2.08 m、深さ 0.19 mで、平面は不整な隅丸長方形で、底面には

段差や小穴がある。土師器杯・小皿（糸切）、白磁碗Ⅸ類、青白磁碗、褐釉陶器壺、東播諸窯系捏鉢、瓷器系陶器捏鉢、砥石、鉄滓が出土した。

SK4103 出土遺物（図 64・66）

476 は瓷器系陶器捏鉢の口縁部で、SK4096 出土の 477、SK4098 出土の 478 と同一個体かと思われる。522 は中砥と思われる砥石である。

SK4104（図 29・61）

北地区の中央部に位置し、長軸 3.95 m、短軸 2.38 m、深さ 0.2 mの不整な長台形の土坑である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、白磁皿Ⅸ類、東播諸窯系捏鉢、鉄滓が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SK5021（図 27・62）

北地区の南側中央に位置し、長軸 2.08 m、短軸 1.65 m、深さ 0.11 mで、平面は不整な楕円形である。土師器杯(糸切)、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、鉄滓が出土した。

SK5021 出土遺物（図 65）

486 ～ 488 は底部糸切の土師器杯、489 は瓦器碗、490 は鎬蓮弁文の竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類である。486 と 489 は底面で近接して出土した。

SK5028（図 27・62）

北地区の南側中央に位置し、長軸 1.75 m、短軸 1.55 m、深さ 0.23 mで、底面は平坦である。平面は隅丸の方形に近い長方形である。土師器杯、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、須恵器系陶器甕、鉄滓が出土したが、いずれも小片であり図示していない。

SK5032（図 27・63）

北地区の南西部に位置し、長軸 3.36 m、短軸 2.67 m、深さ 0.48 mで、平面は不整な楕円形ないし隅丸長方形で、底面は平坦である。土師器杯・小皿（糸切）、白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、瓦質土器捏鉢、東播諸窯系捏鉢、褐釉陶器壺、須恵器系陶器甕、砥石と多数の鉄滓が出土した。

SK5032 出土遺物（図 65）

491 は底部糸切の土師器杯、492 は口禿の白磁皿Ⅸ類である。493 ～ 496 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢で、496 は SK5033 から出土した破片と接合した。497 は瓦質土器捏鉢である。498 は中国の褐釉陶器壺、499 は外面に格子タタキ、内面にハケメを施す須恵器系陶器甕の体部破片である。500 は土師器の甑ないし甕の把手部分で、内面にはヘラケズリを施す。器面はかなり磨耗しており、古代の遺物が混入したものと考えられる。501 は砥石の破片で、破断面の一部が被熱により黒化している。

SK5033（図 27・63）

北地区の南西部に位置し、長軸 2.47 m、短軸 2.15 m、深さ 0.58 mで、平面は隅丸の台形で、底面は平坦である。SX5066 と重複し、これより新である。SK5032・SK5035 出土遺物と接合関係が認められた。土師器杯・小皿（糸切）、竜泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、褐釉陶器壺、鞴羽口、鉄滓が出土した。

SK5033 出土遺物（図 66）

503 は底部糸切の土師器杯、504 は鎬蓮弁文の竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類、505 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢、506 は土製の鞴羽口である。

SK5034（図 27・62）

北地区の南西部に位置し、長軸 2.01 m、短軸 1.67 m、深さ 0.33 mである。平面は台形で、底面は平坦である。土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、須恵器系陶器甕、鉄滓が出土した。

SK5034 出土遺物（図 65）

502 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢底部である。

SK5035（図 27・62）

北地区の南西部に位置し、長軸 2.39 m、短軸 2.09 m、深さ 0.31 mで、平面は不整な台形である。土師器杯・小皿（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢、須恵器系陶器甕、鞴羽口、鉄滓が出土した。

SK5035 出土遺物（図 66）

507 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢、508 は土製の鞴羽口である。

SK5040（図 26・62）

北地区の南西部に位置し、長軸 2.31 m、短軸 1.96 m、深さ 0.41 mである。平面は楕円形で、掘り下げ時に主軸中央の土層観察箇所を除いて掘りすぎてしまった。遺物は土師器杯・小皿（糸切）、褐釉陶器鉢が出土した。

SK5040 出土遺物（図 66）

509 は底部糸切の土師器杯である。510 は褐釉陶器鉢の口縁部で、内面に目跡を留める。SD5031 から出土した破片と接合した。

SK5046（図 26・62）

北地区の南西部に位置し、径 0.87 ～ 0.95 m、深さ 0.21 mで、平面は円形である。遺物は土師器杯・小皿（糸切）が出土した。

SK5046 出土遺物（図 66）

511 は底部糸切の土師器杯である。

SK5047（図 26・63）

北地区の南西端に位置し、南側が SD5017 の北岸と重複しており、SD5017 が埋まってしまった時期よりは古である。長軸 2.11 m以上、短軸 1.90 m、深さ 0.29 mで、平面は不整な長楕円形かと思われ、底面は平坦である。土師器杯（糸切）、瓦器碗、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、瓦質土器捏鉢、東播諸窯系捏鉢が被熱痕のある礫と共に出土した。

SK5047 出土遺物（図 66）

512 は底部糸切の土師器杯、513 は鎬蓮弁文の竜泉窯系青磁碗Ⅱｂ類の底部である。514 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢、515 ～ 516 は瓦質土器捏鉢である。517 は瓦質土器の底部破片で、捏鉢かと思われる。

SK6002（図 29・62）

北地区の中央部に位置し、長軸 1.82 m、短軸 0.72 m、深さ 0.19 mで、主軸を N64° E にとる底面が平坦で細長い長方形の土坑である。形状から土坑墓の可能性を考慮して掘り下げたが、副葬品と考えられる遺物もなく棺の痕跡等といった土層の特殊所見も認められなかった。遺物は白磁皿Ⅸ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類と土師器細片が出土した。

SK6002 出土遺物（図 66）

518・519 は口禿の白磁皿Ⅸ類、520 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ類で無鎬蓮弁文のⅡａ類かと思われる。

北地区その他の土坑出土遺物（図 64 ～ 65）

470・471 は SK4082 から出土した瓦器碗の底部と口禿の白磁皿Ⅸ類、485 は SK4102 から出土した土師器杯である。477 は SK4096 から出土した瓷器系陶器捏鉢で、外面体部下半にヘラケズリを施す。SK4103 から出土した 476、SK4098 から出土した 478 と同一個体と思われる。

鍛冶関連遺構（図 67）

北地区では、鍛冶炉と考えられる炉跡や埋土中に鉄滓等を多く含む廃棄坑かと思われる遺構が 12 基検出された。これらは北地区の中央部で数箇所にまとまって分布しており、周辺の土坑や溝等の遺構でも鉄滓や羽口等の鍛冶関連遺物が出土した。期間等の関係で鉄滓や遺構埋土の整理・分析ができていないため、ここでは各遺構の簡単な記載に留め、鉄滓を初めとする鍛冶関連遺物の報告については改めて行いたい。

SX4126（図 28・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 0.23 m、短軸 0.18 m、深さ 0.03 m の楕円形で、底面から壁面にかけて被熱痕がみられる。遺物は出土しなかったが、近接して鍛冶炉ないし鉄滓廃棄坑と考えられる SX4108・SX 4109 があり、鍛冶炉である可能性が高い。

SX5072（図 28・67）

北地区の南西部に位置する。径 0.38 ～ 0.43 m、深さ 0.07 m の不整な円形で、底面から壁面にかけて焼土とみられる赤褐色土を塊状に含む層があり、その上に炭化物を多く含む層がのる。SX5039 の埋没後に営まれている。遺物は出土しなかったが、近接して鉄滓廃棄坑と思われる SX5073 があり、鍛冶炉である可能性が高い。

SX5041（図 26・67）

北地区の南西部に位置する。径 0.41 ～ 0.46 m、深さ 0.16 m の不整な円形である。底面から壁面にかけて被熱痕のある粘土層があり、その上に炭化物や鉄滓を含む層がのる。鍛冶炉と考えられる。

SX5045（図 26・67）

北地区の南西部に位置する。径 0.44 ～ 0.46 m、深さ 0.10 m の不整な円形である。底面から壁面にかけて焼土が見られるが、顕著な硬化はない。遺物は出土しなかったが、近接して鉄滓廃棄坑と思われる SX5044 があり、鍛冶炉である可能性が高い。

SX4115（図 29・67）

北地区の中央部に位置する。長軸 0.70 m、短軸 0.54 m、深さ 0.10 m の隅丸長方形である。底面の図示した範囲は被熱により赤変・硬化し、その上に多量の炭化物と鉄滓を含む層がのっており、鍛冶炉と考えられる。

SX5026（図 27・67）

北地区の南側中央に位置する。長軸 0.87 m、短軸 0.72 m、深さ 0.09 m の楕円形である。底面から壁面にかけて被熱により赤変・硬化し、その上に多数の鉄滓を含む層があり、鍛冶炉と考えられる。

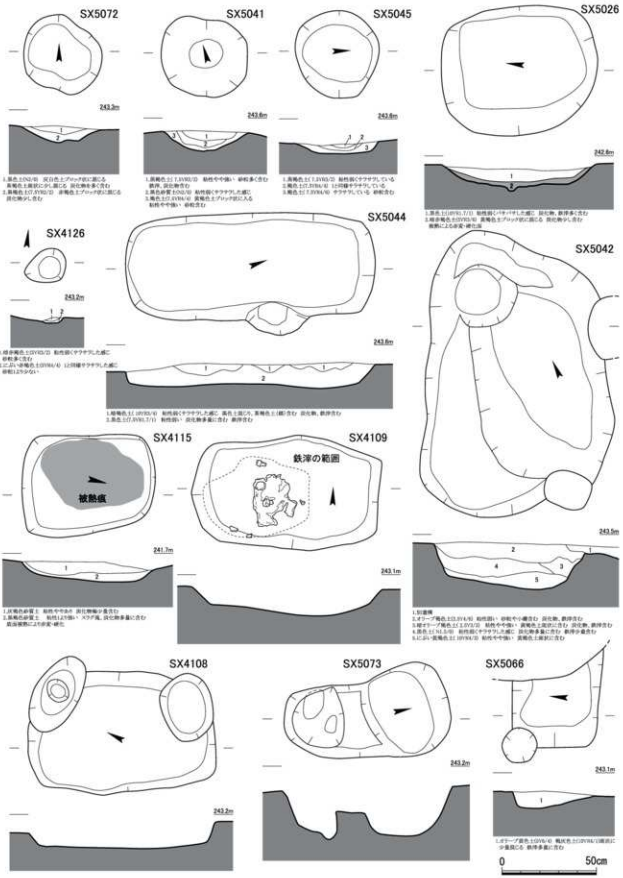


図 67　北地区古代～中世の鍛冶関連遺構（1/20）

SX4108（図 28・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 0.99 m、短軸 0.65 m、深さ 0.14 mの隅丸長方形で、多数の鉄滓が出土した。近接して SX4109・SX 4126 があり、鍛冶に伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。

SX4109（図 28・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 0.99 m、幅 0.60 m、深さ 0.14 mの長方形で、鉄滓が出土した。近接して SX4108・SX 4126 があり、鍛冶に伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。

SX5042（図 26・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 1.52 m、短軸 1.00 m、深さ 0.25 mの不整な長楕円形である。最下層を除き炭化物・鉄滓を含む層が堆積している。近接して鍛冶炉 SX5041 があり、これに伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。多数の鉄滓の他、木炭と底部糸切の土師器杯片が出土した。

SX5044（図 26・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 1.32 m、短軸 0.56 m、深さ 0.14 mの隅丸長方形で、多量の鉄滓が充満していたが、底面や壁面に被熱痕は見られなかった。近接して鍛冶炉の可能性が高い SX5045 があり、これに伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。多量の鉄滓と共に鞴羽口が出土した。

SX5066（図 27・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 0.52 m以上、短軸 4.7 m、深さ 0.10 mの長方形で、埋土中から多数の鉄滓が出土した。東側が SK5033 と重複し、これより古である。鍛冶に伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。

SX5073（図 28・67）

北地区の南西部に位置する。長軸 0.88 m、短軸 0.50 m、深さ 0.26 mの不整な双円形で、埋土中から多数の鉄滓が出土した。近接して鍛冶炉の可能性が高い SX5072 があり、これに伴う鉄滓廃棄坑かと思われる。

その他の遺構（図 68）

SX5082（図 23・68）

SD5017 中央部の上層下部で検出した遺構で、径 1.13 ～ 1.29 m、深さ 0.09 mのやや不整な円形である。埋土には灰と炭化物を多量に含み、壁面や底面の大部分が赤色化した被熱痕を留める焼土坑である。遺物は出土しなかった。

SX5083（図 23・68）

SD5017 西端部の中層上部（Ａトレンチ５層中に対応）で検出した遺構で、径 0.59 ～ 0.62 m、深さ 0.09 mのやや不整な円形である。埋土には炭化物を多量に含む焼土坑で、土師器杯・小皿（糸切）が出土したが、小片であり図示していない。

SX5084（図 23・68）

SD5017 西端部の中層中部（Ａトレンチ６層上面に対応）で検出した遺構で、径 0.73 ～ 0.78 m、深さ 0.09 mのやや不整な円形である。埋土には炭化物を多量に含むが壁面・底面に明確な被熱痕は確認できなかった。また、

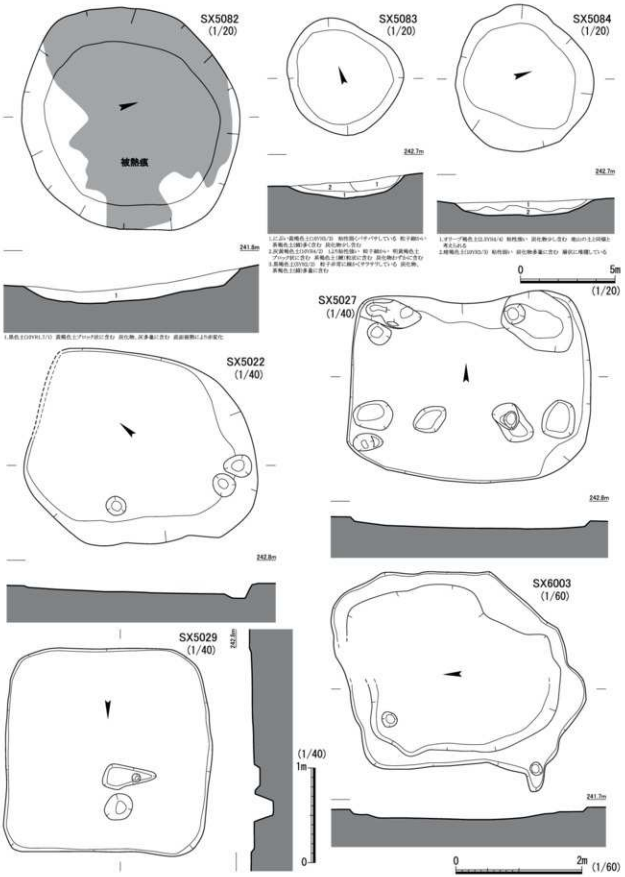


図 68　北地区古代～中世のその他の遺構（1/20、1/40、1/60）

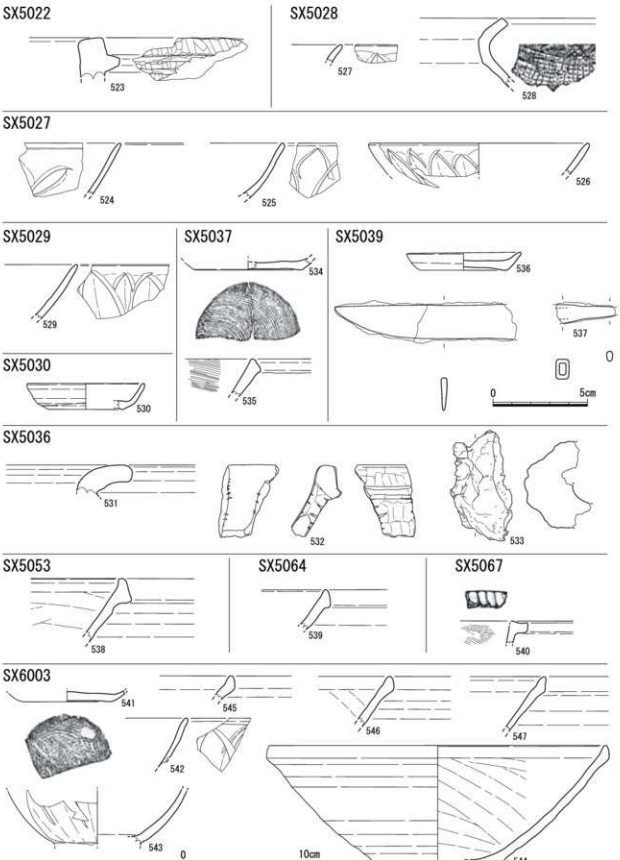


図 69　北地区古代～中世のその他の遺構出土遺物（1/3、537 は 1/2）

遺物は出土しなかった。

SX5022（図 27・68）

北地区の南側中央に位置し、長軸 2.47 m、短軸 2.06 m、深さ 0.08 mの不整な楕円形の遺構である。遺物は土師器杯か小皿の小片、土師器鍋かと思われる小片、滑石製石鍋、鉄滓が出土した。

SX5022 出土遺物（図 69）

523 は滑石製石鍋の口縁部である。

SX5027（図 27・68）

北地区の南側中央に位置し、長軸 2.54 m、短軸 1.98 m、深さ 0.11 mの隅丸長方形の遺構である。遺物は土師器小皿、竜泉窯系青磁碗Ⅰ・Ⅱ類、鉄滓が出土した。

SX5027 出土遺物（図 69）

524 は内面に劃花文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅰ 2 類、525・526 は外面に蓮弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱ類である。

SX5029（図 27・68）

北地区の南側中央に位置し、長軸 2.20 m、短軸 2.18 m、深さ 0.06 mの整った隅丸方形の遺構である。遺物は土師器杯か小皿、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、白磁片が出土した。

SX5029 出土遺物（図 69）

529 は鎬連弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類である。

SX6003（図 29・68）

北地区の中央部に位置し、長軸 4.27 m、短軸 3.35 m、深さ 0.23 mの不整な多角形の遺構である。遺物は土師器小皿（糸切）、鍋Ⅱ類、竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、東播諸窯系捏鉢が出土した。

SX6003 出土遺物（図 69）

541 は底部糸切の土師器小皿、542・543 は連弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱ類、544 ～ 547 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。

その他の不明遺構出土遺物（図 69）

527・528 は SX5028 出土遺物で、527 は鎬連弁文を施す竜泉窯系青磁碗Ⅱ bc 類、528 は瓦質焼成の須恵器系陶器甕である。530 は SX5030 から出土した口禿の白磁皿Ⅴ類である。534・535 は SX5037 出土遺物で、534 は底部糸切の土師器杯、535 は土師器捏鉢かと思われる口縁部破片である。536・537 は SX5039 出土遺物で、536 は土師器小皿、537 は錆のため不明確であるが刀子かと思われる鉄製品である。531 ～ 533 は SX5036 から出土した遺物である。531 は須恵器系陶器甕の口縁部で頸部で強く屈曲して外反する。頸部に僅かにタタキが確認できる。532 は滑石製石鍋の口縁部破片で、破断面に加工痕があり、再加工途中の未製品と思われる。533 は土製の鞴羽口である。538 は SX5053、539 は SX5064 からそれぞれ出土した東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢である。540 は SX5067 から出土した土師器鍋Ⅱ a 類の口縁部である。

北地区の小穴出土遺物（図 70 ～ 71）

図 70 ～ 71 には各小穴から出土した主な遺物を図示した。いずれの小穴から出土したかは図中と表に記載している。

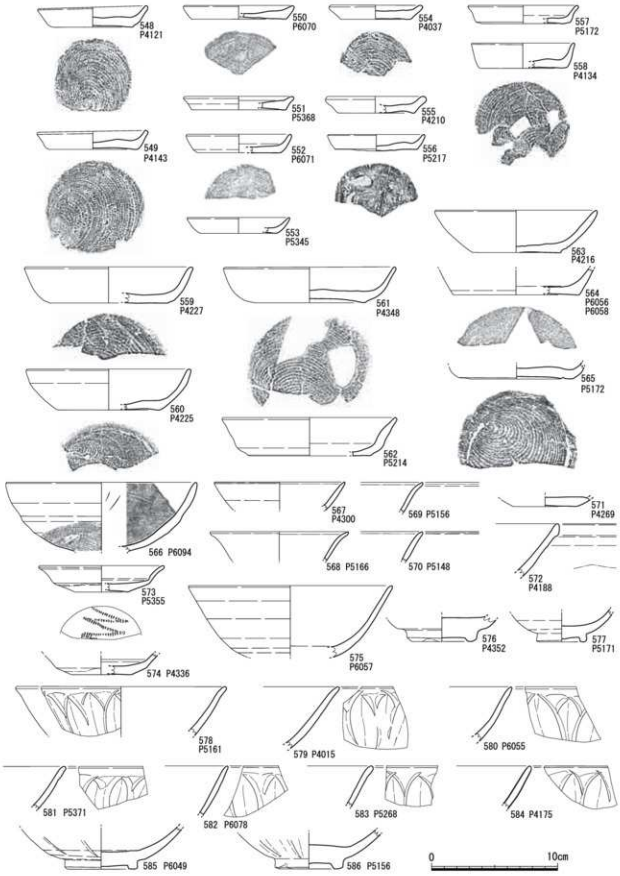


図 70　北地区古代～中世の小穴出土遺物１（1/3）

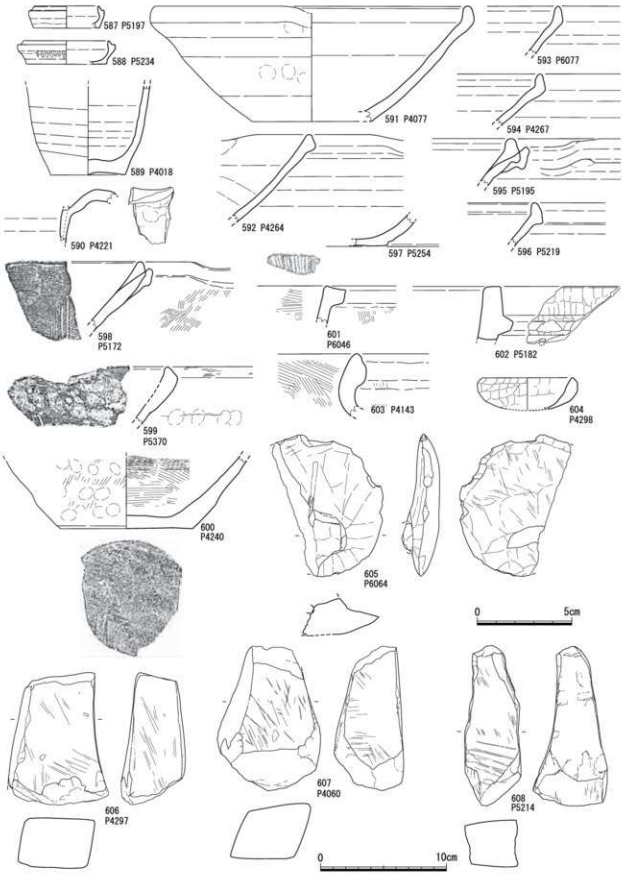


図 71　北地区古代～中世の小穴出土遺物２（1/3、605 は 1/2）

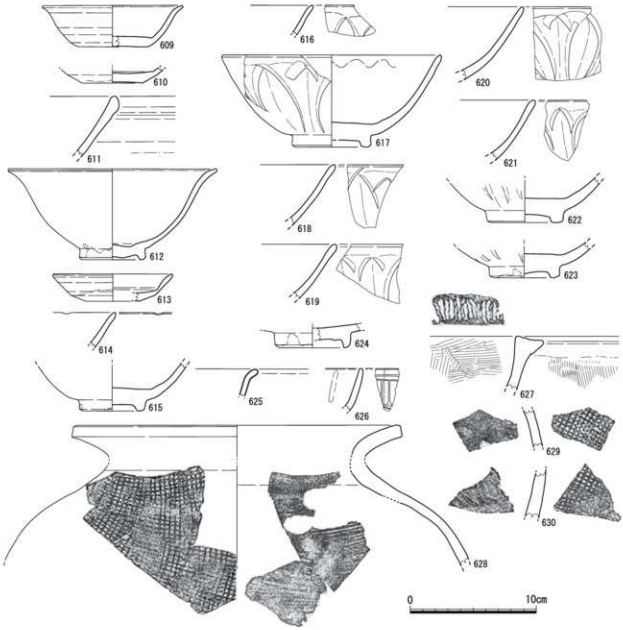


図72　北地区古代～中世の遺物外出土遺物（1/3）

548 ～ 558 は土師器小皿、559 ～ 565 は土師器杯で、確認できるものは全て底部糸切である。

566 は瓦器碗である。内外面のヘラミガキは簡略化が進み、外面体部下半には糸切痕を明瞭に留める。内面に×字状の線彫記号がある。

567 ～ 571 は口禿の白磁皿Ⅸ類、572 は玉縁口縁の白磁碗Ⅳ類、573・574 は同安窯系青磁皿、575 は竜泉窯系青磁碗Ⅰ類、576 は竜泉窯系青磁碗Ⅰ類ないしⅡ類の底部、577 は竜泉窯系青磁小碗の底部で無文のⅠ１類かと思われる。578 ～ 586 は外面に鎬蓮弁文を施す竜泉窯系青磁碗で、碗Ⅲ類の可能性がある 584 を除き碗Ⅱ bc 類である。587 は白磁合子身、588 は青白磁合子身である。589 は褐釉陶器壺、590 は黒褐釉陶器水注の把手部である。

591 ～ 597 は東播諸窯の須恵器系陶器捏鉢、598・599 は瓦質土器擂鉢、600 は瓦質土器捏鉢の底部である。

601 は土師器鍋Ⅱ a 類、602 は滑石製石鍋である。603 は須恵器系陶器ないし瓦質土器の甕と思われる口縁部で、SD5031 から出土した 464 と同一個体と思われる。

604 は滑石製の小型容器で、石鍋の再加工品と思われる。605 は滑石製石鍋再加工品で、鉗状の突起を持つバレン状製品である。

606 ～ 608 は砥石でいずれも中砥と思われる。

北地区の遺構外出土遺物（図 72）

609・610 は口禿の白磁皿Ⅸ類、611 は玉縁口縁の白磁碗Ⅳ類、612 は口禿の白磁碗Ⅸ類である。613 は同安窯系青磁皿、614・615 は竜泉窯系青磁碗Ⅰ類、616 ～ 623 は竜泉窯系青磁碗Ⅱ類である。624 は竜泉窯系Ⅳ類と思われる皿ないし杯の底部、625 は中世後期に降る竜泉窯系青磁碗である。626 は高麗末～朝鮮王朝初期の象嵌青磁角鉢で、外面に白色土による象嵌を施す。627 は土師器鍋Ⅱ b 類である。628 ～ 630 は外面に格子タタキを施す須恵器系陶器甕である。

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 43-97 07001500	SB4095 PD	土師器 小皿	8.3*	6.5*	1.3	褐	底部糸切ハ、径不確実	図版 27-97 20080486
図 43-98 05000318	SB4095 PV	白磁 皿	-	6.1	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	皿Ⅰ類	図版 27-98 20080477
図 43-99 05000310	SB4095 PV	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱａ類	図版 27-99 20080476
図 43-100 07001501	SB4128 PE	青磁 碗	-	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅲ類ｎ	図版 27-100 20080483
図 43-101 05000335	SB4128 PK	瓦質陶器 壺	6.0*	-	-	外：黄灰 内：黄灰	-	図版 27-101 20080478
図 43-102 05000382	SB4130 PC	土師器 小皿	-	6.1*	-	外：浅黄 内：にぶい黄	底部糸切、板状圧痕	図版 27-102 20080480
図 43-103 05000319	SB4130 PE SK4071・SD4086	青磁 皿	9.6*	4.0*	2.0	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	同安窯系皿	図版 27-103 20080475
図 43-104 07001503	SB4138 PK	土師器 小皿	-	-	1.7	暗灰黄	底部糸切、板状圧痕	図版 27-104 20080487
図 43-105 05000349	SB4138 PC	土師器 杯	-	9.4*	-	にぶい黄橙	底部糸切、焼成後穿孔	図版 27-105 20080479
図 43-106 07001502	SB4138 PK	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc 類	図版 27-106 20080484
図 43-107 07001498	SB5076 PI	青磁 皿	-	-	-	釉調：灰 胎土：灰白	同安窯系皿	図版 27-107 20080481
図 43-108 07001499	SB5077 PC	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc 類	図版 27-108 20080482
図 43-109 07001506	SB5078 PB	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱａ類	図版 27-109 20080485
図 43-110 07001509	SB5086 PJ	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系　破損後に被熱	図版 27-110 20080492
図 43-111 07001508	SB5086 PJ	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 27-111 20080491
図 43-112 07001507	SB5086 PA	土師器 小皿	10.9*	9.8*	1.7	灰白	底部糸切	図版 27-112 20080490
図 43-113 07001505	SB6014 PA	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	青灰	東播諸窯系	図版 27-113 20080489
図 43-114 07001504	SA4144 PB	土師器 小皿	9.6*	8.8*	1.4	にぶい黄橙	底部糸切ｎ	図版 27-114 20080488
図 46-115 07002795	SD5017 AT 下層	土師器 小皿	9.0	7.7	1.2	にぶい黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕 116・117 と共伴	図版 27-115 20080001
図 46-116 07002793	SD5017 AT 下層	土師器 小皿	9.0	7.0	1.3	にぶい橙	底部ヘラ切、板状圧痕 115・116 と共伴	図版 27-116 20080007
図 46-117 07002794	SD5017 AT 下層	土師器 小皿	9.1	7.5	1.1	にぶい黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕 115・116 と共伴	図版 27-117 20080008
図 46-118 07002804	SD5017 AT	土師器 小皿	8.7	7.6	1.3	にぶい黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 27-118 20080012
図 46-119 07002798	SD5017 AT 下層	土師器 小皿	8.6*	5.0*	1.4	にぶい黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 27-119 20080003
図 46-120 07002807	SD5017 AT	土師器 小皿	9.0	6.4	1.1	橙	底部糸切、板状圧痕	図版 27-120 20080109
図 46-121 07002802	SD5017 AT 下層	土師器 小皿	9.4*	6.9*	1.4	灰白	底部糸切、板状圧痕	図版 27-121 20080010
図 46-122 07002797	SD5017 B 上層	土師器 小皿	9.2*	7.6*	1.1	にぶい黄橙	底部糸切	図版 27-122 20080002
図 46-123 07002801	SD5017 AT	土師器 小皿	9.3*	7.6*	1.2	浅黄橙	底部糸切	図版 27-123 20080009
図 46-124 07002803	SD5017 B 上層	土師器 小皿	8.8*	6.0*	1.2	浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版 27-124 20080011
図 46-125 07002808	SD5017 C 上層	土師器 小皿	8.7	7.3	1.3	浅黄橙	底部糸切	図版 27-125 20080014
図 46-126 07002799	SD5017 CT	土師器 小皿	8.4*	7.4*	1.4	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版 27-126 20080004
図 46-127 07002800	SD5017 横川面	土師器 小皿	9.2*	7.4*	1.9	浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版 27-127 20080005
図 46-128 07002818	SD5017 BT	土師器 小皿	-	7.8	-	浅黄	底部糸切、板状圧痕 底部中央に径 0.9cm の焼成後穿孔	図版 27-128 20080015
図 46-129 07001026	SD5017 J	土師器 杯	14.1	8.7	3.7	淡黄	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 27-129 20080691
図 46-130 07002810	SD5017 A 上層	土師器 杯	15.7*	12.0*	2.9	外：浅黄橙 内：浅黄橙、橙	底部ヘラ切、板状圧痕	図版 27-130 20080082

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図46-131 07002814	SD5017 AT下層	土師器 杯	14.6*	10.3	2.9	外：淺黄橙、にぶい橙 内：淺黄橙	底部ヘラ切、板状圧痕	図版27-131 20080085
図46-132 07002811	SD5017 BT	土師器 杯	16.3*	8.4*	3.1	灰白	底部ヘラ切、板状圧痕	図版27-132 20080083
図46-133 07001027	SD5017 I 下層	土師器 杯	-	11.3	-	淡黄	底部ヘラ切、板状圧痕	図版27-133 20080114
図46-134 07002817	SD5017 E 下層	土師器 杯	16.5	9.8	3.7	外：淡黄 内：淺黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版27-134 20080688
図46-135 07002789	SD5017 G 上層	土師器 杯	17.0*	10.7*	3.0	灰白、淺黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版27-135 20080006
図46-136 07002792	SD5017 AT	土師器 杯	14.6*	10.4*	2.6	にぶい橙、にぶい褐	底部糸切	図版27-136 20080079
図46-137 07002815	SD5017 A 上層	土師器 杯	13.8*	9.2	2.8	橙	底部糸切、板状圧痕	図版27-137 20080103
図46-138 07002806	SD5017 C 上層	土師器 杯	14.6*	11.0*	2.6	にぶい黄橙	底部糸切	図版27-138 20080080
図46-139 07002813	SD5017 FT	土師器 杯	13.9*	9.0	3.3	淡黄	底部糸切、板状圧痕ｎ	図版27-139 20080084
図46-140 07002812	SD5017 A 上層	土師器 杯	12.6*	9.1*	2.3	灰白、淡黄	底部糸切、板状圧痕	図版27-140 20080689
図46-141 07002805	SD5017 B 上層	土師器 杯	12.8*	9.0*	2.4	淡黄	底部糸切	図版27-141 20080013
図47-142 07002791	SD5017 BT	土師器 杯	12.3*	9.2*	2.6	淡黄	底部糸切	図版27-142 20080078
図47-143 07002809	SD5017 I 層	土師器 杯	13.6*	9.2	3.2	淡黄	底部糸切	図版27-143 20080081
図47-144 07002788	SD5017 A 上層	土師器 杯	12.9*	7.4	3.7	淡黄	底部糸切、板状圧痕	図版27-144 20080690
図47-145 07002790	SD5017 A 上層	土師器 杯	-	8.4*	-	にぶい黄橙	底部糸切	図版27-145 20080077
図47-146 07002787	SD5017 A 上層	土師器 杯	-	8.6	-	淺黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版27-146 20080104
図47-147 07002816	SD5017 A 上層	土師器 杯	-	8.8	-	にぶい橙	底部糸切、板状圧痕ｎ	図版27-147 20080086
図47-148 07002998	SD5017 C 上層	瓦器 小皿	9.3*	6.9*	1.3	外：灰白 内：灰	底部糸切、板状圧痕	図版27-148 20080053
図47-149 07002999	SD5017 A 上層	瓦器 小皿	10.1	7.8	1.6	灰白、灰	底部糸切、板状圧痕	図版28-149 20080107
図47-150 07002796	SD5017 A 上層	土師器 椀	13.5	5.1	5.1	灰白	外面体部下半に糸切痕ｎ 貼付に板状圧痕	図版28-150 20080687
図47-151 07002903	SD5017 C 下層	土師器 椀	16.3*	-	-	外：淺黄橙 内：灰白	磨滅土師器	図版28-151 20080101
図47-152 07002990	SD5017 E 上層	黒色土器B類 椀	-	6.9	-	外：淺黄橙、灰 内：灰黄	高台内もヘラミガキ	図版28-152 20080098
図47-153 07002979	SD5017 A 上層	瓦器 椀	15.8*	7.7*	5.2	外：黒、褐灰 内：黄灰	高台内にヘラ切痕ｎ	図版28-153 20080686
図47-154 07002983	SD5017 A 上層	瓦器 椀	17.5*	6.7	5.7	外：暗灰 内：灰白、灰	-	図版28-154 20080094
図47-155 07002986	SD5017 AT 上層下部、B 上層	瓦器 椀	17.3*	7.1	6.5	外：灰白 内：灰、灰白	貼付に板状圧痕	図版28-155 20080683
図47-156 07002985	SD5017 B 下層	瓦器 椀	16.6	7.0	6.1	外：暗灰 内：灰黄、暗灰	高台内に板状圧痕ｎ	図版28-156 20080682
図47-157 07002981	SD5017 A 上層	瓦器 椀	17.2*	-	-	外：灰白、暗灰 内：灰白、灰	外面体部下半に糸切痕	図版28-157 20080116
図47-158 07002987	SD5017 B 上層、AT	瓦器 椀	18.1*	-	-	灰白、灰	-	図版28-158 20080095
図47-159 07002988	SD5017 AT、B 上層	瓦器 椀	17.4*	-	-	灰白、灰	-	図版28-159 20080096
図47-160 07002992	SD5017 BT	瓦器 椀	-	-	-	外：淺黄橙 内：灰白	-	図版28-160 20080100
図47-161 07002991	SD5017 AT 下層	瓦器 椀	-	6.2*	-	灰	貼付に板状圧痕	図版28-161 20080099
図47-162 07002994	SD5017 AT 下層	瓦器 椀	-	8.0*	-	灰白	-	図版28-162 20080102
図47-163 07002980	SD5017 F 下層	瓦器 椀	-	6.8	-	灰黄、灰	炭素吸着不十分	図版28-163 20080684
図47-164 07002982	SD5017 DT	瓦器 椀	-	7.9	-	外：灰白、灰 内：暗灰	-	図版28-164 20080093

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 47-165 07002995	SD5017 AT	瓦器 椀	-	6.7	-	灰	須恵質焼成，内底重ね焼痕	図版 28-165 20080105
図 47-166 07002997	SD5017 下層	瓦器 椀	-	7.2*	-	灰白	高台内に糸切痕 o	図版 28-166 20080106
図 47-167 07002996	SD5017 AT 下層	瓦器 椀	-	7.6*	-	外：灰白 内：灰	-	図版 28-167 20080052
図 47-168 07002989	SD5017 B 上層	瓦器 椀	-	6.9	-	灰白，灰	-	図版 28-168 20080097
図 47-169 07002984	SD5017 DT	瓦器 椀	-	7.8	-	外：淺黄橙 内：黄灰	-	図版 28-169 20080685
図 48-170 07001137	SD5017 D 上層	白磁 皿	-	-	-	釉調：淡黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 28-170 20080317
図 48-171 07001138	SD5017 D 上層	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 28-171 20080318
図 48-172 07001142	SD5017 C 下層、D 上層	白磁 皿	10.2*	-	-	釉調：淺黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 28-172 20080322
図 48-173 07001028	SD5017	白磁 皿	-	3.6*	-	釉調：淡黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 28-173 20080054
図 48-174 07001141	SD5017	白磁 皿	-	3.2*	-	釉調：灰白、淡黄 胎土：灰白	皿Ⅵ類	図版 28-174 20080321
図 48-175 07001123	SD5017 A 上層	白磁 皿	-	4.0*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅶ 1b 類	図版 28-175 20080304
図 48-176 07001131	SD5017 B 上層	白磁 皿	10.0*	6.0*	2.1	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-176 20080314
図 48-177 07001130	SD5017 B 上層	白磁 皿	9.6*	6.1*	1.8	釉調：明緑灰 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-177 20080313
図 48-178 07001128	SD5017 C 上層、BT	白磁 皿	10.1*	-	1.7	釉調：明緑灰 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-178 20080311
図 48-179 07001133	SD5017 上層	白磁 皿	10.2*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-179 20080316
図 48-180 07001129	SD5017 A 上層	白磁 皿	10.6*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-180 20080312
図 48-181 07001132	SD5017 C 上層	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅸ類	図版 28-181 20080315
図 48-182 07001139	SD5017 畝出面	白磁 椀	-	-	-	釉調：灰白、淺黄 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 28-182 20080319
図 48-183 07001140	SD5017 A 上層	白磁 椀	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 28-183 20080320
図 48-184 07001135	SD5017 C 下層	白磁 椀	-	5.1*	-	釉調：淺黄 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 28-184 20080367
図 48-185 07001134	SD5017 BT	白磁 椀	-	5.4*	-	釉調：淡黄 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 28-185 20080366
図 48-186 07001136	SD5017 AT	白磁 椀	-	5.4*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅱ類	図版 28-186 20080368
図 48-187 07001030	SD5017 G 上層	白磁 椀	16.5*	6.9*	6.5	釉調：淡黄 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-187 20080676
図 48-188 07001031	SD5017 A 下層、E 上・下層	白磁 椀	16.7	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-188 20080677
図 48-189 07001032	SD5017 C 上層	白磁 椀	15.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-189 20080323
図 48-190 07001033	SD5017 B 上層、A 下層	白磁 椀	15.6*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-190 20080324
図 48-191 07001034	SD5017 A 上層	白磁 椀	16.9*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-191 20080325
図 48-192 07001035	SD5017 A 下層、D 下層	白磁 椀	16.1*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-192 20080326
図 48-193 07001036	SD5017 E 下層	白磁 椀	16.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 28-193 20080327
図 48-194 07001037	SD5017 A 上層	白磁 椀	16.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 28-194 20080328
図 48-195 07001038	SD5017 FT	白磁 椀	16.4*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類、径不確実	図版 28-195 20080329
図 48-196 07001040	SD5017 E 上層	白磁 椀	16.7*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-196 20080331
図 48-197 07001039	SD5017 B 上層	白磁 椀	-	-	-	釉調：淺黄 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-197 20080330
図 48-198 07001041	SD5017 B 下層	白磁 椀	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-198 20080332

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 48-199 07001042	SD5017 G 上層、FT	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-199 20080333
図 48-200 07001043	SD5017 E 下層	白磁 碗	-	6.7	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 28-200 20080369
図 48-201 07001047	SD5017 B 上層	白磁 碗	-	7.2*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 29-201 20080373
図 48-202 07001046	SD5017 B 下層	白磁 碗	-	7.1*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 29-202 20080372
図 48-203 07001048	SD5017 ET	白磁 碗	-	8.0*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 29-203 20080374
図 48-204 07001045	SD5017 C 下層	白磁 碗	-	6.8	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 29-204 20080371
図 48-205 07001044	SD5017 下層	白磁 碗	-	7.3	-	釉調：淡黄 胎土：淡黄	碗Ⅳ類	図版 29-205 20080370
図 48-206 07001049	SD5017 A 下層	白磁 碗	-	7.1*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 29-206 20080375
図 48-207 07001120	SD5017 A 上層	白磁 碗	14.8*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ～Ⅶ類	図版 29-207 20080306
図 48-208 07001121	SD5017 BT	白磁 碗	15.5*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ～Ⅶ類	図版 29-208 20080307
図 48-209 07001118	SD5017 A 上層	白磁 碗	-	6.0	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ類	図版 29-209 20080363
図 48-210 07001119	SD5017 D 下層	白磁 碗	-	6.2	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ～Ⅶ類	図版 29-210 20080364
図 48-211 07001114	SD5017 F 下層	白磁 碗	15.9*	6.2	6.0	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	碗Ⅶ類	図版 29-211 20080678
図 48-212 07001117	SD5017 DT	白磁 碗	6.7*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅶ類	図版 29-212 20080305
図 48-213 07001116	SD5017 A 下層	白磁 碗	-	6.8*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅶ類	図版 29-213 20080679
図 48-214 07001115	SD5017 A 上層	白磁 碗	-	6.1	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅶ類	図版 29-214 20080680
図 48-215 07001125	SD5017 A 上層	白磁 碗	14.5*	-	-	釉調：灰白、明緑灰 胎土：灰白	碗Ⅸ類	図版 29-215 20080308
図 48-216 07001126	SD5017 A 上層	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白、明緑灰 胎土：灰白	碗Ⅸ類	図版 29-216 20080309
図 48-217 07001127	SD5017 AT	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白、明緑灰 胎土：灰白	碗Ⅸ類	図版 29-217 20080310
図 49-218 07001068	SD5017 E 下層	青磁 碗	-	6.5	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	越州窯系碗１類 内底に推定 10 個の目跡	図版 29-218 20080383・0384
図 49-219 07001092	SD5017 A・B 上層、BT	青磁 皿	10.8*	4.8	2.6	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-219 20080359
図 49-220 07001093	SD5017 AT、B 上層	青磁 皿	10.2*	5.0	2.2	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-220 20080360
図 49-221 07001096	SD5017 A 上層・下層	青磁 皿	10.2	5.1	2.5	釉調：灰白、浅黄 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-221 20080361
図 49-222 07001088	SD5017 A・C・D 上層	青磁 皿	10.2*	4.8*	2.3	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-222 20080357
図 49-223 07001091	SD5017 AT	青磁 皿	10.2*	4.6*	2.3	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-223 20080358
図 49-224 07001095	SD5017 A 上層	青磁 皿	10.7*	4.1*	2.2	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-224 20080302
図 49-225 07001087	SD5017 A 上層	青磁 皿	11.1*	4.9*	2.6	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-225 20080301
図 49-226 07001089	SD5017 A 上層、AT	青磁 皿	10.2*	4.9	2.0	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-226 20080348
図 49-227 07001090	SD5017 A 上層	青磁 皿	10.3*	5.1*	2.2	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-227 20080350
図 49-228 07001094	SD5017 F 下層	青磁 皿	11.8*	6.0*	2.1	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	同安窯系	図版 29-228 20080349
図 49-229 07001097	SD5017 A・B 上層	青磁 皿	10.2*	5.0	2.3	釉調：明緑灰 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-229 20080351
図 49-230 07001124	SD5017 A 上層	青磁 皿	9.2*	3.2	2.9	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	同安窯系か	図版 29-230 20080365
図 49-231 07001100	SD5017 E 上層	青磁 碗	17.0*	-	-	釉調：浅黄 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-231 20080296
図 49-232 07001099	SD5017 D 上層	青磁 碗	15.8*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-232 20080295

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 49-233 07001098	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-233 20080294
図 49-234 07001101	SD5017 F 上層	青磁 碗	-	5.4	-	釉調：灰 胎土：灰白、灰	同安窯系	図版 29-234 20080352
図 49-235 07001105	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	4.9*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	同安窯系	図版 29-235 20080356
図 49-236 07001147	SD5017 A・B 上層	青磁 碗	16.8*	7.0*	7.4	釉調：灰オリーブ 胎土：淡赤橙、灰	龍泉窯系碗Ⅰ1a 類	図版 29-236 20080671
図 49-237 07001151	SD5017 A 上層	青磁 碗	16.8	6.4	6.8	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ1 類	図版 29-237 20080669
図 49-238 07001154	SD5017 A 上層	青磁 碗	16.6*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ1 類	図版 29-238 20080273
図 49-239 07001150	SD5017 A・B 上層	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ1 類	図版 29-239 20080670
図 49-240 07001155	SD5017 A・B 上層	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ1 類	図版 29-240 20080274
図 49-241 07001143	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	6.6*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白、灰	龍泉窯系碗Ⅰ1 類	図版 30-241 20080334
図 49-242 07001148	SD5017 A・B 上層、A 下層	青磁 碗	16.0*	5.6	6.4	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ2 類? 貫付・内底に各４個の目跡	図版 29-242 20080377・0378
図 49-243 07001162	SD5017 AT、B 上層	青磁 碗	16.6*	5.8*	推定 7.0	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ2 類	図版 30-243 20080337・0338
図 49-244 07001146	SD5017 桃出面	青磁 碗	-	6.1	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ2 類	図版 30-244 20080376
図 50-245 07001156	SD5017 DT	青磁 碗	17.2*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-245 20080278
図 50-246 07001149	SD5017 B 上層	青磁 碗	15.4*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-246 20080275
図 50-247 07001152	SD5017 AT、A 上層	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-247 20080276
図 50-248 07001157	SD5017 DT	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-248 20080279
図 50-249 07001153	SD5017 A 上層	青磁 碗	17.0*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-249 20080277
図 50-250 07001161	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-250 20080283
図 50-251 07001159	SD5017 AT	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-251 20080281
図 50-252 07001160	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-252 20080282
図 50-253 07001158	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-253 20080280
図 50-254 07001145	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	6.5	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-254 20080336
図 50-255 07001144	SD5017 A・B 上層	青磁 碗	-	6.3	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ4 類	図版 30-255 20080335
図 50-256 07001050	SD5017 A 上層	青磁 碗	15.7*	5.6	6.2	釉調：灰オリーブ 胎土：褐灰色	龍泉窯系碗Ⅱa 類	図版 30-256 20080674
図 50-257 07001051	SD5017 桃出面、A 上層	青磁 碗	17.0*	5.2	6.4	釉調：にぶい黄色 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa 類	図版 30-257 20080379
図 50-258 07001065	SD5017 AT、A 上層	青磁 碗	17.8*	-	-	釉調：浅黄 胎土：淡橙	龍泉窯系碗Ⅱa 類	図版 30-258 20080292
図 50-259 07001108	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	5.3*	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa 類	図版 30-259 20080298
図 50-260 07001112	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	6.3*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa 類、「金玉満堂」	図版 30-260 20080303・0708
図 50-261 07001113	SD5017 AT、A 上層	青磁 碗	-	6.3*	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa 類、「金玉満堂」	図版 30-261 20080346・0347
図 50-262 07001107	SD5017 B 上層	青磁 碗	-	6.1*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白、灰黄	龍泉窯系碗Ⅱa 類、「金玉満堂」	図版 30-262 20080344・0345
図 50-263 07001109	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	5.6*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa 類	図版 30-263 20080299
図 50-264 07001106	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	5.8	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ類	図版 30-264 20080362
図 50-265 07001103	SD5017 C 上層	青磁 碗	-	5.5	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ類?	図版 30-265 20080354
図 50-266 07001102	SD5017 A 上層	青磁 碗	-	4.9*	1.0	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ類?、行欠き	図版 30-266 20080353

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図50-267 07001104	SD5017 B上層	青磁 小碗カ	-	4.2*	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白、褐灰	龍泉窯系小碗Ⅱ類か	図版30-267 20080355
図51-268 07001052	SD5017 CT、C上層・下層	青磁 碗	17.4*	5.5	6.6	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版30-268 20080380
図51-269 07001053	SD5017 上層AT、BT	青磁 碗	16.6*	5.4*	6.5	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱc類	図版30-269 20080284
図51-270 07001057	SD5017 A上層、AT	青磁 碗	17.6	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版30-270 20080673
図51-271 07001063	SD5017 B上層、BT	青磁 碗	16.0*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版30-271 20080290
図51-272 07001061	SD5017 AT、A上層	青磁 碗	17.8*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版30-272 20080288
図51-273 07001060	SD5017 AT、A上層	青磁 碗	16.8*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版30-273 20080287
図51-274 07001059	SD5017 A上層	青磁 碗	17.8*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版31-274 20080286
図51-275 07001058	SD5017 A・B上層、AT	青磁 碗	15.3*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版31-275 20080285
図51-276 07001054	SD5017 C・D上層、AT	青磁 碗	13.6	5.0*	5.6	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版31-276 20080672
図51-277 07001062	SD5017 A上層	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版31-277 20080289
図51-278 07001110	SD5017 AT	青磁 碗	-	5.7*	-	釉調：オリーブ灰 胎土：淡黄、灰白	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版31-278 20080297
図51-279 07001111	SD5017 A上層	青磁 碗	-	5.7*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白、灰	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版31-279 20080300
図51-280 07001064	SD5017 A・B上層、AT	青磁 碗	17.6*	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅲ類かⅡbc類	図版31-280 20080291
図51-281 07001055	SD5017 A上層	青磁 碗（東口碗）	-	3.4	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系東口碗Ⅲ　類	図版31-281 20080339 ～ 0342
図51-282 07001056	SD5017 F上層	青磁 碗	-	5.2*	-	釉調：灰 胎土：灰	龍泉窯系碗Ⅳ類か	図版31-282 20080343
図51-283 07001066	SD5017 C上層	青磁 小皿カ	-	-	-	釉調：灰黄 胎土：灰白	龍泉窯系	図版31-283 20080293
図51-284 07001082	SD5017 AT	白磁 杯カ	-	-	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	德化窯か	図版31-284 20080401
図51-285 07001081	SD5017 C上層	白磁 小壺	7.7*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	-	図版31-285 20080385
図51-286 07001086	SD5017 F上層	青白磁 合子蓋	4.0*	-	1.5	釉調：灰白 胎土：灰白	-	図版31-286 20080405
図51-287 07001083	SD5017 C上層	褐釉陶器 合子蓋	-	-	-	釉調：暗オリーブ褐 胎土：灰白	-	図版31-287 20080402
図51-288 07001084	SD5017 AT	白磁 合子蓋	6.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	289と共か	図版31-288 20080403
図51-289 07001085	SD5017 B上層	白磁 合子身	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	288と共か	図版31-289 20080404
図51-290 07001076	SD5017 A上層	褐釉陶器 小壺（茶入）	-	2.9*	-	釉調：黒 胎土：にぶい赤褐	底部糸切	図版31-290 20080395
図51-291 07001072	SD5017 A上層	黒釉磁器 碗	-	-	-	釉調：にぶい赤褐 胎土：灰白	中国、天目	図版31-291 20080386
図51-292 07001073	SD5017 横出面	黒釉磁器 碗	-	-	-	釉調：黒、にぶい橙、にぶい赤褐 胎土：灰白	中国、天目	図版31-292 20080393
図51-293 07001071	SD5017 A上層	黒釉磁器 碗	-	-	-	釉調：赤黒、にぶい赤褐 胎土：灰白	中国、天目	図版31-293 20080392
図51-294 07001074	SD5017 A上層	黒釉磁器 碗	-	-	-	釉調：赤黒 胎土：灰	中国、天目	図版31-294 20080394
図51-295 07001070	SD5017 A上層	黒釉磁器 碗	-	-	-	釉調：赤黒、暗赤褐 胎土：灰白	中国、天目	図版31-295 20080391
図51-296 07001079	SD5017 A上層	青磁 杯カ	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	高麗象嵌青磁	図版31-296 20080396
図51-297 07001029	SD5017	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	高麗象嵌青磁	図版31-297 20080055･0056
図51-298 07001080	SD5017 A上層	青磁 碗カ	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	高麗象嵌青磁	図版31-298 20080397･0398
図51-299 07001075	SD5017 A上層	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	ベトナム、鉄絵	図版31-299 20080387･0388
図51-300 07001482	SD5017 A上層	褐釉陶器 壺	7.6*	-	-	釉調：暗褐 胎土：灰白	-	図版31-300 20080707

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 51-301 07001479	SD5017 A 上層	黒褐釉陶器 壺	-	-	-	釉調：黒褐 胎土：褐灰	-	図版 31-301 20080121
図 51-302 07001478	SD5017 A 上層	褐釉陶器 壺	9.3*	-	-	釉調：暗灰黄 胎土：灰黄	-	図版 31-302 20080120
図 51-303 07001477	SD5017 BT	褐釉陶器 壺	5.6*	-	-	釉調：暗灰黄 胎土：にぶい黄橙	-	図版 31-303 20080119
図 51-304 07001480	SD5017 CT	褐釉陶器 壺	-	-	-	外：にぶい黄 内：褐	-	図版 31-304 20080122
図 51-305 07001483	SD5017 E 上層	陶器 壺	-	7.7*	-	外：褐 内：灰褐	-	図版 31-305 20080124
図 51-306 07001481	SD5017 C 下層	褐釉陶器 壺	-	5.6	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰黄	-	図版 31-306 20080123
図 51-307 07001077	SD5017 E・F 上層、DT、G 下層	無釉陶器 壺	-	-	-	器面：灰 胎土：にぶい赤褐	高麗無釉陶器、308 と同一個体か	図版 31-307 20080381・0382
図 51-308 07001078	SD5017 B 上層	無釉陶器 壺か	-	-	-	器面：灰 胎土：灰褐	高麗無釉陶器、307 と同一個体か	図版 31-308 20080300・0389
図 51-309 07001069	SD5017 A 上層	須恵器 小壺	-	5.6*	-	灰	-	図版 31-309 20080703
図 52-310 07002919	SD5017 A・B 上層、AT	須恵器系陶器 浮台	29.1*	10.3	10.1	外：灰、灰白 内：灰白	東播諸窯系、底部糸切	図版 31-310 20080665
図 52-311 07002920	SD5017 A 上層、AT	須恵器系陶器 浮台	30.0*	9.9*	10.1	外：灰白、灰黄褐 内：灰白、灰	東播諸窯系、底部糸切	図版 31-311 20080664
図 52-312 07002918	SD5017 G 上層	須恵器系陶器 浮台	32.8*	-	-	灰、灰白	東播諸窯系	図版 31-312 20080115
図 52-313 07002921	SD5017 BT 上層下部、C 上層	須恵器系陶器 浮台	31.0*	-	-	灰、灰白	東播諸窯系	図版 31-313 20080117
図 52-314 07001163	SD5017A・C 上層・検出面　SK5047	須恵器系陶器 浮台	28.3*	-	-	外：灰 内：灰白	東播諸窯系	図版 31-314 20080118
図 52-315 07002899	SD5017 C 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-315 20080058
図 52-316 07002903	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰 内：灰	東播諸窯系	図版 32-316 20080062
図 52-317 07002900	SD5017 C 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰、暗灰 内：灰	東播諸窯系	図版 32-317 20080059
図 52-318 07002901	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-318 20080060
図 52-319 07002902	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-319 20080061
図 52-320 07002906	SD5017 検出面	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-320 20080065
図 52-321 07002912	SD5017 G 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰 内：灰、褐灰	東播諸窯系	図版 32-321 20080071
図 52-322 07002911	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：暗灰、灰白 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-322 20080070
図 52-323 07002904	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-323 20080063
図 52-324 07002916	SD5017 B 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-324 20080075
図 52-325 07002905	SD5017 B 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-325 20080064
図 52-326 07002915	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版 32-326 20080074
図 52-327 07002908	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：黒灰 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-327 20080057
図 52-328 07002913	SD5017 検出面	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰黄 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-328 20080072
図 52-329 07002907	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰、灰白 内：灰、褐灰	東播諸窯系	図版 32-329 20080066
図 52-330 07002908	SD5017 BT 上層下部	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰、灰白 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-330 20080067
図 52-331 07002914	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰黄、灰 内：灰黄	東播諸窯系	図版 32-331 20080073
図 52-332 07002909	SD5017 BT	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰白、灰 内：灰白	東播諸窯系	図版 32-332 20080068
図 52-333 07002917	SD5017 C 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	灰白、灰	東播諸窯系	図版 32-333 20080076
図 52-334 07002910	SD5017 A 上層	須恵器系陶器 浮台	-	-	-	外：灰、黒 内：灰	東播諸窯系	図版 32-334 20080069

表 4　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 53-335 07002948	SD5017 A 上層、AT	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	480 と同一個体 n	図版 32-335 20080035-0036
図 53-336 07002941	SD5017 B 上層	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：灰 内：灰白、灰	-	図版 32-336 20080032
図 53-337 07002938	SD5017 A 上層	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：灰 内：灰黄、黄灰	-	図版 32-337 20080031
図 53-338 07002939	SD5017 C 上層、BT	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：灰白、灰 内：灰	-	図版 32-338 20080111
図 53-339 07002937	SD5017 A 上層	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：灰、灰白 内：灰	-	図版 32-339 20080110
図 53-340 07002935	SD5017 C 上層	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：灰 内：灰白	-	図版 32-340 20080091
図 53-341 07002945	SD5017 C 上層	瓦質土器 捏鉢	-	12.9*	-	外：淡橙、にぶい黄橙、灰白 内：灰白、灰	-	図版 32-341 20080113
図 53-342 07002924	SD5017 A 上層	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：褐灰 内：灰	-	図版 32-342 20080017
図 53-343 07002946	SD5017 横出面	土師器カ 甑鉢	-	12.2*	-	外：浅黄橙 内：浅黄橙	-	図版 32-343 20080108
図 53-344 07002947	SD5017 横出面	土師器 茶釜	14.4*	-	-	にぶい黄橙、にぶい褐	出花	図版 32-344 20080034
図 53-345 07002944	SD5017 D 下層	土師器 釜	-	-	-	外：灰黄褐 内：黒褐	-	図版 32-345 20080092
図 53-346 07002940	SD5017 DT	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄橙、灰黄褐 内：灰白、灰黄褐	鍋Ⅱ類 n	図版 32-346 20080112
図 53-347 07002936	SD5017 C 上層	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄橙、灰褐 内：灰黄、灰黄褐	鍋Ⅰ類 n	図版 32-347 20080030
図 53-348 07002956	SD5017 A 上層	土師器 鍋カ	-	-	-	にぶい黄橙、褐灰	脚部 n	図版 32-348 20080051
図 53-349 07002932	SD5017 AT	土師器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙	鍋Ⅱ a 類	図版 32-349 20080087-0088
図 53-350 07002931	SD5017 B 上層、AT	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：灰褐、にぶい黄橙	鍋Ⅱ a 類	図版 32-350 20080710-0715
図 53-351 07002929	SD5017 A 上層	土師器 鍋	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙、褐灰	鍋Ⅱ ab 類	図版 32-351 20080026-0027
図 53-352 07002928	SD5017 A 上層	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい橙 内：橙	鍋Ⅱ b 類	図版 32-352 20080024-0025
図 53-353 07002933	SD5017 B 上層、AT	土師器 鍋	-	-	-	外：灰黄褐、にぶい黄橙 内：にぶい橙、にぶい黄橙	鍋Ⅱ b 類	図版 32-353 20080089-0090
図 53-354 07002934	SD5017 BT	土師器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙	鍋Ⅱ b 類	図版 32-354 20080028-0029
図 53-355 07002930	SD5017 DT	土師器 鍋	-	-	-	外：にぶい黄橙、橙 内：にぶい黄橙	鍋Ⅱ b 類	図版 32-355 20080711-0714
図 53-356 07002943	SD5017 B 上層	土師器 鍋	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい黄橙、灰黄褐	鍋Ⅱ b 類	図版 32-356 20080033
図 53-357 07002923	SD5017 A 上層	土師器 鍋カ	-	-	-	外：灰黄褐 内：にぶい黄橙、灰黄褐	-	図版 32-357 20080016
図 54-358 07003050	SD5017 G 下層	滑石製品 石鍋	20.4*	20.2	14.0	-	煤付着	図版 32-358 20080666
図 54-359 07003046	SD5017 A 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 32-359 20080415
図 54-360 07003049	SD5017 D 下層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 32-360 20080417
図 54-361 07003036	SD5017 E 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 32-361 20080408
図 54-362 07003034	SD5017 ET	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 33-362 20080406
図 54-363 07003035	SD5017 E 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 33-363 20080407
図 54-364 07003040	SD5017 D 上層	滑石製品 石鍋	口径 34.4*	-	-	-	径不確実	図版 33-364 20080419
図 54-365 07003042	SD5017 A 上層	滑石製品 石鍋	口径 22.6*	-	-	-	径不確実	図版 33-365 20080420
図 54-366 07003043	SD5017 E 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 33-366 20080412
図 54-367 07003041	SD5017 B 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版 33-367 20080411
図 54-368 07003037	SD5017 A 上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	底部に穿孔、孔内に銹分付着	図版 33-368 20080409

表４　北地区古代～中世の出土遺物

掲図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図54-369 07003038	SD5017 A上層	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版33-369 20080410
図54-370 07003039	SD5017 A上層	滑石製品 石鍋	21.5*	-	-	-	径不確実、口縁部外面に沈線文	図版33-370 20080418
図54-371 07003048	SD5017 A上層	滑石製品 石鍋	-	20.2*	-	-	径不確実、煤付着	図版33-371 20080421
図54-372 07003047	SD5017 AT	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	-	図版33-372 20080416
図54-373 07002949	SD5017 G上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版33-373 20080037･0038
図54-374 07002925	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：灰 内：灰黄	-	図版33-374 20080018･0019
図54-375 07002926	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：灰 内：灰白	-	図版33-375 20080020･0021
図54-376 07002950	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	東播諸窯系ヵ	図版33-376 20080039･0040
図54-377 07002927	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	黄灰	東播諸窯系	図版33-377 20080022･0023
図54-378 07002954	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	東播諸窯系ヵ	図版33-378 20080047･0048
図54-379 07002955	SD5017 A上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版33-379 20080049･0050
図54-380 07002952	SD5017 D上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版33-380 20080043･0044
図54-381 07002953	SD5017 C上層	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版33-381 20080045･0046
図54-382 07002951	SD5017 AT	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版33-382 20080041･0042
図55-383 07002827	SD5017 BT	滑石製品 複槽容器形	長 8.8	幅 3.5	厚 2.4	-	石鍋再加工品、煤付着 97.0g	図版33-383 20080424
図55-384 07002830	SD5017 C上層	滑石製品 複槽容器形	長 5.8	幅 2.3	厚 1.9	-	29.7g	図版33-384 20080425
図55-385 07002828	SD5017 AT	滑石製品 小型容器	6.6*	6.1*	1.8	-	21.5g	図版33-385 20080441
図55-386 07002837	SD5017 E上層、F下層	滑石製品 バレン形	長 8.5	幅 5.2+	厚 1.6	-	突起部の孔内に鉄棒遺存 煤付着、66.5g	図版33-386 20080432
図55-387 07002836	SD5017 AT	滑石製品 バレン形	長 3.3+	幅 2.5+	厚 1.1	-	11.9g	図版33-387 20080444
図55-388 07002829	SD5017 AT	滑石製品 バレン形	長 2.4	幅 1.8	厚 2.0	-	石鍋再加工品ヵ、煤付着 6.9g	図版33-388 20080442
図55-389 07002832	SD5017 B上層	滑石製品 杓子形	長 5.0	幅 2.9	厚 1.5	-	石鍋再加工品ヵ、煤付着 25.9g	図版33-389 20080443
図55-390 07002835	SD5017 AT	滑石製品 杓子形	長 5.2+	幅 4.0+	厚 2.2	-	34.5g	図版33-390 20080429
図55-391 07002833	SD5017 A上層	滑石製品	長 6.2	幅 3.7	厚 0.7	-	径3mmの孔を4箇所穿つ 石鍋再加工品ヵ、25.0g	図版33-391 20080427
図55-392 07002834	SD5017 C上層	滑石製品	長 7.4	幅 4.8	厚 2.0	-	径10mmの孔を穿つ 石鍋再加工品ヵ、101.9g	図版33-392 20080428
図55-393 07002831	SD5017 A上層	滑石製品	長 9.8	幅 5.1	厚 2.4	-	石鍋再加工未製品ヵ、147.7g	図版33-393 20080426
図55-394 07003045	SD5017 AT	滑石製品	長 8.0	幅 6.5	厚 3.0	-	石鍋再加工未製品ヵ、172g 穿孔、煤付着	図版33-394 20080414
図55-395 07003044	SD5017 B上層	滑石製品	長 7.9	幅 3.3	厚 1.7	-	石鍋再加工未製品、66.4g 穿孔、煤付着	図版33-395 20080413
図56-396 07002840	SD5017 A下層	土製品 輪羽口	長 8.4+	幅 9.9+	厚 3.5+	褐灰、灰	278.5g	図版33-396 20080423
図56-397 07002841	SD5017 B下層	土製品 輪羽口	長 6.1+	幅 6.4+	厚 3.8+	にぶい黄橙、灰白	102.5g	図版33-397 20080431
図56-398 07002839	SD5017 B上層	石製品 砥石	長 9.8	幅 7.5	厚 5.4	-	4面使用、被熱、430.6g	図版33-398 20080422
図56-399 07002838	SD5017 横出面	石製品 砥石	長 6.1+	幅 4.6+	厚 1.4+	-	47.5g	図版33-399 20080430
図56-400 07002824	SD5017 B下層	土製品 土錘	長 5.2	径 1.0	孔径 0.3	浅黄	4.8g	図版33-400 20080438
図56-401 07002819	SD5017 BT	土製品 土錘	長 5.2	径 1.0	孔径 0.3	灰黄、黄灰	5.0g	図版33-401 20080433
図56-402 07002826	SD5017 B下層	土製品 土錘	長 5.0	径 1.1	孔径 0.3	にぶい黄橙	4.9g	図版33-402 20080440

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 56-403 07002822	SD5017 CT	土製品 土錘	長 4.9+	径 1.1	孔径 0.3	灰黄，暗灰黄	5.3g	図版 33-403 20080436
図 56-404 07002820	SD5017 AT	土製品 土錘	長 4.9+	径 1.0	孔径 0.3	灰黄，黄灰	5.3g	図版 33-404 20080434
図 56-405 07002821	SD5017 A 上層	土製品 土錘	長 4.1	径 0.9	孔径 0.3	にぶい橙	2.8g	図版 33-405 20080435
図 56-406 07002825	SD5017 B 下層	土製品 土錘	長 3.9+	径 1.1	孔径 0.3	灰黄	3.9g	図版 33-406 20080439
図 56-407 07002823	SD5017 B 上層	土製品 土錘	長 2.2+	径 1.0	孔径 0.3	黄灰	2.1g	図版 33-407 20080437
図 56-408 08000366	SD5017 D 上層	鉄器 鉄鏃カ	長 8.0	幅 0.6	-	-	-	図版 33-408 20080657
図 56-409 08000365	SD5017 A 上層	鉄器 鉄鏃カ	長 10.7	幅 0.9	-	-	-	図版 33-409 20080656
図 58-410 07002803	SD6001	土師器 小皿	推定 8.0	6.8	推定 1.2	外：灰黄褐 内：にぶい橙	底部糸切，板状圧痕	図版 33-410 20080188
図 58-411 07002804	SD6001	土師器 杯	12.3*	8.9	2.7	灰白，淡黄	底部糸切，板状圧痕	図版 33-411 20080198
図 58-412 07002895	SD6001	瓦器 椀	-	-	-	外：灰，灰白 内：黒，灰白	-	図版 33-412 20080189
図 58-413 07002890	SD6001	白磁 皿	12.2*	6.4*	2.9	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-413 20080185
図 58-414 07002889	SD6001	白磁 皿	10.4	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-414 20080184
図 58-415 07002888	SD6001	白磁 皿	11.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-415 20080183
図 58-416 07002887	SD6001	白磁 皿	10.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-416 20080182
図 58-417 07002886	SD6001	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-417 20080181
図 58-418 07002884	SD6001	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版 33-418 20080180
図 58-419 07002882	SD6001	白磁 皿	-	5.8	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX１類	図版 33-419 20080179
図 58-420 07002881	SD6001	白磁 皿	-	5.4*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX３類	図版 33-420 20080178
図 58-421 07002883	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：淡黄	龍泉窯系碗Ⅰ２類ｈ	図版 33-421 20080176
図 58-422 07002880	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱａ類	図版 33-422 20080177
図 58-423 07002875	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰	龍泉窯系碗Ⅱａ類	図版 33-423 20080171
図 58-424 07002866	SD6001	青磁 碗	-	5.3*	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｃ類	図版 34-424 20080200+0709
図 58-425 07002864	SD6001	青磁 碗	16.6*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-425 20080199
図 58-426 07002865	SD6001	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-426 20080163
図 58-427 07002868	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-427 20080165
図 58-428 07002867	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-428 20080164
図 58-429 07002873	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-429 20080169
図 58-430 07002872	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-430 20080168
図 58-431 07002874	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：淡黄	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-431 20080170
図 58-432 07002876	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-432 20080172
図 58-433 07002871	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-433 20080167
図 58-434 07002870	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-434 20080166
図 58-435 07002877	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-435 20080173
図 58-436 07002878	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱｂｃ類	図版 34-436 20080174

表４　北地区古代～中世の出土遺物

掲図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図58-437 07002879	SD6001	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱbc類	図版34-437 20080175
図58-438 07002891	SD6001	白磁 合子蓋	6.0*	-	推定 1.8	釉調：灰白 胎土：灰白	-	図版34-438 20080186
図58-439 07002892	SD6001	白磁 合子身	4.0*	3.3*	2.0	釉調：明緑灰 胎土：灰白	-	図版34-439 20080187
図58-440 07002897	SD6001	土師器 鍋	-	-	-	外：黒褐、黒 内：灰黄褐	鍋Ⅱb類か	図版34-440 20080190･0191
図58-441 07003010	SD6001	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：にぶい黄橙 内：淡黄	-	図版34-441 20080449･0450
図58-442 07003009	SD6001	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版34-442 20080447･0448
図58-443 07003008	SD6001	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版34-443 20080445･0446
図58-444 07002896	SD6001	瓦質土器 擂鉢	27.8*	-	-	外：黒褐、暗灰黄 内：灰白、黒褐	-	図版34-444 20080796
図58-445 07003000	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	25.4	10.5	8.4	外：にぶい黄橙 内：灰黄	東播諸窯系	図版34-445 20080663
図58-446 07003001	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	浅黄	東播諸窯系	図版34-446 20080451
図58-447 07003002	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版34-447 20080452
図58-448 07003003	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版34-448 20080453
図58-449 07003004	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	外：灰 内：浅黄	東播諸窯系	図版34-449 20080454
図58-450 07003005	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	8.4*	-	外：灰黄 内：灰	東播諸窯系 底部糸切	図版34-450 20080500
図58-451 07003006	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	9.2*	-	灰黄	東播諸窯系 底部糸切	図版34-451 20080455
図58-452 07003007	SD6001	須恵器系陶器 擂鉢	-	9.9*	-	灰白	東播諸窯系 底部糸切	図版34-452 20080456
図64-453 05000330	SD4014	土師器 鍋	-	-	-	褐灰	鍋類ａ類	図版34-453 20080205
図64-454 05000301	SD4087	土師器 杯	13.0*	8.3	3.4	外：にぶい黄橙 内：にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版34-454 20080705
図64-455 05000302	SD4087	土師器 杯	13.6	9.0	3.3	にぶい橙	底部糸切	図版34-455 20080695
図64-456 07001485	SD5018	白磁 皿	11.1*	6.0*	3.0	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版34-456 20080126
図64-457 07001484	SD5018	青磁 碗	-	-	-	釉調：暗オリーブ 胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱbc類	図版34-457 20080125
図64-458 07001486	SD5018	青磁 碗	-	5.6	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竜泉窯系Ⅱｃ類	図版34-458 20080127･0128
図64-459 07001494	SD5031	土師器 杯	-	-	3.0	明黄褐	底部糸切	図版34-459 20080136
図64-460 07001495	SD5031	青磁 碗	-	5.2	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	竜泉窯系碗Ⅱb類	図版34-460 20080137
図64-461 07001490	SD5031	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰白、灰	東播諸窯系	図版34-461 20080132
図64-462 07001489	SD5031	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰、黒	東播諸窯系	図版34-462 20080131
図64-463 07001491	SD5031	須恵器系陶器か 擂鉢	-	-	-	灰	-	図版34-463 20080133
図64-464 07001492	SD5031	須恵器系陶器か 甕	-	-	-	灰白	603と同一個体か	図版34-464 20080134
図64-465 07001497	SD5031	土製品 土錘	長 4.1	径 1.0	孔径 0.3	明黄褐	2.6g	図版34-465 20080138
図64-466 07001487	SD5070	白磁 皿	-	6.1*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版34-466 20080129
図64-467 07001488	SD5071	土師器 小皿	9.0*	7.4*	1.5	橙	底部糸切	図版34-467 20080130
図64-468 05000322	SK4061	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅴ類～碗類	図版34-468 20080247
図64-469 05000333	SK4061	瓦質土器 擂鉢	30.0*	-	-	灰白	-	図版34-469 20080228･0229
図64-470 05000325	SK4082	瓦器 碗	-	5.7*	-	外：灰白 内：黄灰	外面体部下半に糸切・板状圧痕か	図版34-470 20080203

表４　北地区古代～中世の出土遺物

挿図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図64-471 05000321	SK4082	白磁 皿	11.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	龍泉窯系	図版34-471 20080246
図64-472 05000303	SK4085	土師器 杯	13.2	9.1	2.8	にぶい黄橙	底部糸切	図版34-472 20080694
図64-473 05000334	SK4085	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	-	図版34-473 20080207
図64-474 05000324	SK4089	瓦器 椀	14.6*	-	-	黄灰	-	図版34-474 20080202
図64-475 05000312	SK4093	青磁 椀	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系椀Ⅱbc類	図版34-475 20080241
図64-476 08000371	SK4103	瓷器系陶器 捏鉢	-	-	-	褐灰	477・478と同一個体か 矩張型、知多窯か	図版35-476 20080595
図64-477 05000353	SK4096	瓷器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：灰 内：灰白	476・478と同一個体か 矩張型、知多窯か	図版35-477 20080218
図64-478 05000336	SK4098	瓷器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：灰白 内：灰白	476・477と同一個体か 矩張型、知多窯か、縦櫛状に被熱	図版35-478 20080208
図64-479 08000369	SK4098	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	-	図版35-479 20080593
図64-480 08000370	SK4098	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	335と同一個体か	図版35-480 20080594
図65-481 05000304	SK4101	土師器 小皿	7.8*	6.2*	1.4	にぶい黄橙	底部糸切	図版35-481 20080209
図65-482 05000306	SK4101	土師器 椀か高台付杯か	-	8.0	-	にぶい黄橙	-	図版35-482 20080210
図65-483 05000332	SK4101	須恵器系陶器 捏鉢	27.3*	-	-	黄灰	東播諸窯系	図版35-483 20080227
図65-484 05000331	SK4101	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰黄	東播諸窯系	図版35-484 20080206
図65-485 05000328	SK4102	土師器 杯	11.6*	8.6*	3.0	にぶい黄橙	底部糸切、径不確実	図版35-485 20080204
図65-486 07001172	SK5021	土師器 杯	13.4*	9.5	2.6	灰黄褐	底部糸切、板状圧痕	図版35-486 20080693
図65-487 07001173	SK5021	土師器 杯	14.4*	9.6*	2.7	浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版35-487 20080144
図65-488 07001171	SK5021	土師器 杯	12.6*	10.4*	2.6	浅黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版35-488 20080143
図65-489 07001174	SK5021	瓦器 椀	15.8*	6.1*	5.8	外：灰黄 内：灰白、灰	-	図版35-489 20080194
図65-490 07001462	SK5021	青磁 椀	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系椀Ⅱbc類	図版35-490 20080145
図65-491 07001184	SK5032	土師器 杯	14.4*	10.6*	3.1	にぶい橙	底部糸切	図版35-491 20080151
図65-492 07001463	SK5032	白磁 皿	10.0*	-	-	灰白	龍泉窯系	図版35-492 20080160
図65-493 07001175	SK5032	須恵器系陶器 捏鉢	30.2*	-	-	灰	東播諸窯系	図版35-493 20080195
図65-494 07001176	SK5032	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版35-494 20080155
図65-495 07001177	SK5032	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版35-495 20080156
図65-496 07001178	SK5032 SK5033	須恵器系陶器 捏鉢	-	10.6	-	灰	東播諸窯系 底部糸切	図版35-496 20080196
図65-497 07001187	SK5032	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	灰白		図版35-497 20080154
図65-498 07001185	SK5032	褐釉陶器 壺	-	-	-	外：褐灰 内：にぶい赤褐	-	図版35-498 20080152
図65-499 07001190	SK5032	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：黄灰 内：灰白	-	図版35-499 20080157・0162
図65-500 07001186	SK5032	土師器 鍋か甕	-	-	-	外：にぶい橙 内：にぶい黄橙、黒褐	器面・剥離面磨耗	図版35-500 20080153
図65-501 07001188	SK5032	石製品 砥石	長 10.0	幅 10.1	厚 5.8	-	816.8g	図版35-501 20080197
図65-502 07001180	SK5034	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰黄	東播諸窯系 底部糸切	図版35-502 20080147
図66-503 07001181	SK5035 SK5033	土師器 杯	-	7.5*	-	黄橙	底部糸切	図版35-503 20080148
図66-504 07001464	SK5033	青磁 椀	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系椀Ⅱbc類	図版35-504 20080161

表４　北地区古代～中世の出土遺物

図版・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図66-505 07001192	SK5033	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰白	東播諸窯系	図版35-505 20080159
図66-506 07001191	SK5033	土製品 輪羽口	長 6.0+	幅 9.0+	厚 5.0+	浅黄橙，灰白	189.8g	図版35-506 20080158
図66-507 07001182	SK5035	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版35-507 20080149
図66-508 07001183	SK5035	土製品 輪羽口	長 9.7+	幅 5.9+	厚 4.4+	浅黄橙，にぶい橙，灰	193.8g	図版35-508 20080150
図66-509 07001169	SK5040	土師器 杯	13.5*	10.4*	2.3	外：浅黄 内：黄灰	底部板状圧痕	図版35-509 20080141
図66-510 07001493	SK5040 SD5031	瓦器系陶器 鉢	-	-	-	釉調：オリーブ褐 胎土：灰黄	口縁部内面に目跡	図版35-510 20080135
図66-511 07001170	SK5046	土師器 杯	13.6*	11.0*	2.8	外：浅黄橙 内：浅黄橙	底部糸切，径不確実	図版35-511 20080142
図66-512 07001167	SK5047	土師器 杯	13.3*	9.5	3.4	にぶい橙	底部糸切	図版35-512 20080682
図66-513 07001465	SK5047	青磁 碗	-	5.0	-	釉調：暗緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版35-513 20080146
図66-514 07001165	SK5047	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰黄	東播諸窯系	図版35-514 20080139
図66-515 07001166	SK5047	瓦質土器 捏鉢	-	-	-	外：灰白 内：灰	-	図版35-515 20080140
図66-516 07001164	SK5047	瓦質土器 捏鉢	30.0*	-	-	灰白	径不確実 517と胎土が類似	図版35-516 20080192
図66-517 07001168	SK5047	瓦質土器 捏鉢カ	-	11.1	-	外：暗灰黄 内：灰白	底部板状圧痕 516と胎土が類似	図版35-517 20080193
図66-518 07002856	SK6002	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版35-518 20080471
図66-519 07002858	SK6002	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版35-519 20080473
図66-520 07002857	SK6002	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa類か	図版35-520 20080472
図66-521 07003324	SK4079	石製品 砥石	長 11.0	幅 10.3	厚 4.5	-	372.1g，被熱	図版35-521 20080523
図66-522 07003325	SK4103	石製品 砥石	長 9.0	幅 10.2+	厚 5.0	-	373.8g，被熱	図版35-522 20080524
図69-523 07003342	SX5022	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	煤付着	図版36-523 20080581
図69-524 07003327	SX5027	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ2類	図版36-524 20080575
図69-525 07003328	SX5027	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa類	図版36-525 20080577
図69-526 07003326	SX5027	青磁 碗	17.6*	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版36-526 20080576
図69-527 07003329	SX5028	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版36-527 20080578
図69-528 07003330	SX5028	須恵器系陶器 甕	-	-	-	外：暗灰 内：灰白	瓦質焼成	図版36-528 20080608
図69-529 07003337	SX5029	青磁 碗	-	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版36-529 20080579
図69-530 07003338	SX5030	白磁 皿	9.4*	5.9*	2.1	釉調：灰白 胎土：灰白	皿IX類	図版36-530 20080580
図69-531 07003334	SX5036	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版36-531 20080610
図69-532 07003335	SX5036	滑石製品	長 6.3	幅 4.3	厚 2.3	-	石鍋再加工未製品 66.0g	図版36-532 20080573･0574
図69-533 07003336	SX5036	土製品 輪羽口	長 4.9+	幅 8.8+	厚 3.8+	灰黄	136.7g	図版36-533 20080611
図69-534 07003331	SX5037	土師器 杯	-	8.7*	-	にぶい黄橙	底部糸切	図版36-534 20080597
図69-535 07003332	SX5037	土師器 捏鉢カ	-	-	-	にぶい橙	-	図版36-535 20080712
図69-536 07003333	SX5039	土師器 小皿	9.1	6.9	1.4	橙	底部糸切，板状圧痕か	図版36-536 20080609
図69-537 08000367	SX5039	鉄器 刀子カ	長 12.8+	幅 1.9	厚 0.8	-	-	図版36-537 20080658
図69-538 07003339	SX5053	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：灰，灰白 内：灰	東播諸窯系	図版36-538 20080599

表４　北地区古代～中世の出土遺物

掃図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図69-539 07003340	SX5064	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	外：灰、灰白 内：灰白	東播諸窯系	図版36-539 20080600
図69-540 07003341	SX5068	土師器 鍋	-	-	-	外：黒褐 内：灰黄褐	鍋Ⅱa類	図版36-540 200805960598
図69-541 07002853	SX6003	土師器 小皿	-	7.0*	-	にぶい橙	底部糸切、板状圧痕	図版36-541 20080465
図69-542 07002855	SX6003	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱa類	図版36-542 20080470
図69-543 07002854	SX6003	青磁 碗	-	-	-	釉調：明緑灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版36-543 20080469
図69-544 07002849	SX6003	須恵器系陶器 捏鉢	26.8*	9.2*	9.5	灰、黒	東播諸窯系	図版36-544 20080504
図69-545 07002850	SX6003	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版36-545 20080462
図69-546 07002851	SX6003	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系	図版36-546 20080463
図69-547 07002852	SX6003	須恵器系陶器 捏鉢	-	-	-	灰、黒	東播諸窯系	図版36-547 20080464
図70-548 05000345	P4121	土師器 小皿	8.7	6.4	1.6	浅黄橙	底部糸切	図版36-548 20080215
図70-549 05000346	P4143	土師器 小皿	8.8	7.1	1.5	にぶい橙	底部糸切	図版36-549 20080216
図70-550 07002847	P6070	土師器 小皿	8.8*	7.5	1.1	淡黄	底部糸切	図版36-550 20080460
図70-551 07003357	P5368	土師器 小皿	8.8*	7.6*	1.1	灰黄	底部糸切	図版36-551 20080603
図70-552 07002846	P6071	土師器 小皿	8.4*	6.6*	1.5	にぶい橙、淡黄	底部糸切、板状圧痕	図版36-552 20080459
図70-553 07003355	P5345	土師器 小皿	8.2*	6.0*	1.3	橙	底部糸切	図版36-553 20080602
図70-554 05000350	P4037	土師器 小皿	7.4*	5.6*	1.1	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕 径不確実	図版36-554 20080220
図70-555 05000348	P4210	土師器 小皿	8.0*	6.0*	1.3	浅黄橙	底部糸切、径不確実	図版36-555 20080219
図70-556 07003360	P5217	土師器 小皿	7.7*	6.6*	1.3	外：にぶい黄橙 内：灰白	底部糸切、板状圧痕	図版36-556 20080604
図70-557 07003363	P5172	土師器 小皿	8.8*	7.6*	1.5	にぶい黄橙	底部糸切	図版36-557 20080605
図70-558 05000351	P4134	土師器 小皿	8.2*	7.0	2.0	にぶい黄橙	底部糸切	図版36-558 20080217
図70-559 05000342	P4227	土師器 杯	13.4*	9.4*	2.9	にぶい黄橙	底部糸切、板状圧痕	図版36-559 20080213
図70-560 05000343	P4225	土師器 杯	13.1*	8.0*	3.3	外：にぶい黄橙 内：明黄褐	底部糸切	図版36-560 20080214
図70-561 05000352	P4348	土師器 杯	13.7*	8.8	2.8	にぶい橙	底部糸切、板状圧痕	図版36-561 20080225
図70-562 07003365	P5214	土師器 杯	13.9*	9.8*	3.0	にぶい橙	底部糸切、全体にぶつ	図版36-562 20080614
図70-563 05000344	P4216	土師器 杯	12.9*	7.0	3.4	外：にぶい黄褐 内：にぶい黄橙	底部糸切	図版36-563 20080224
図70-564 07002848	P6056 P6058	土師器 杯	-	10.0*	-	淡黄	底部糸切	図版36-564 20080461
図70-565 07003364	P5172	土師器 杯	-	9.1	-	にぶい黄橙	底部糸切	図版36-565 20080613
図70-566 07002859	P6094	瓦器 椀	15.2*	-	-	灰白、黒	外面体部下半に糸切痕 内面に線刻記号「×」	図版36-566 20080503
図70-567 07003316	P4300	白磁 皿	10.4*	-	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版36-567 20080544
図70-568 07003347	P5166	白磁 皿	11.0*	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版36-568 20080586
図70-569 07003344	P5156	白磁 皿	-	-	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版36-569 20080583
図70-570 07003343	P5148	白磁 皿	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版36-570 20080582
図70-571 05000317	P4269	白磁 皿	-	5.0	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版36-571 20080244
図70-572 05000313	P4188	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版36-572 20080242

表４　北地区古代～中世の出土遺物

師図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図70-573 07003352	P5355	青磁 皿	10.0*	4.2*	2.1	釉調：灰 胎土：灰白	同安窯系皿	図版36-573 20080591
図70-574 05000320	P4336	青磁 皿	-	4.8*	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	同安窯系皿	図版36-574 20080245
図70-575 07002842	P6057	青磁 碗	16.2*	-	-	釉調：オリーブ黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ類	図版36-575 20080501
図70-576 05000315	P4352	青磁 碗	-	5.5	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ類かⅡ類	図版37-576 20080243
図70-577 07003348	P5171	青磁 小碗	-	4.0	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	龍泉窯系小碗Ⅰ１類?	図版37-577 20080587
図70-578 07003346	P5161	青磁 碗	16.8*	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-578 20080585
図70-579 05000311	P4015	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-579 20080240
図70-580 07002844	P6055	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ黄，オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-580 20080467
図70-581 07003353	P5371	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-581 20080592
図70-582 07002845	P6078	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-582 20080468
図70-583 07003351	P5268	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱbc類	図版37-583 20080590
図70-584 07003315	P4175	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	龍泉窯系碗ⅡbcかⅢ類	図版37-584 20080543
図70-585 07002843	P6049	青磁 碗	-	5.8	-	釉調：浅黄 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ類	図版37-585 20080502
図70-586 07003345	P5156	青磁 碗	-	5.4	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱb類	図版37-586 20080584
図71-587 07003349	P5197	白磁 合子身	5.2*	5.2*	1.8	釉調：灰白 胎土：白	-	図版37-587 20080588
図71-588 07003350	P5234	青白磁カ 合子身	6.8*	6.4*	1.9	釉調：明緑灰 胎土：灰白	-	図版37-588 20080589
図71-589 05000323	P4018	褐釉陶器 壺	-	6.0	-	釉調：灰白 胎土：灰黄	-	図版37-589 20080248
図71-590 07003317	P4221	黒褐陶器 水注	-	-	-	釉調：黒褐 胎土：灰赤	-	図版37-590 20080545
図71-591 05000337	P4077	須恵器系陶器 擂鉢	25.0*	9.7*	9.2	に示い黄橙	東播諸窯系	図版37-591 20080221
図71-592 05000339	P4264	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	黄灰	東播諸窯系	図版37-592 20080222
図71-593 07002860	P6077	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰白	東播諸窯系	図版37-593 20080466
図71-594 05000338	P4267	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系，被熱?	図版37-594 20080211
図71-595 07003368	P5195	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	外：灰，暗灰 内：灰	東播諸窯系	図版37-595 20080616
図71-596 07003367	P5219	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	外：灰，暗灰 内：灰	東播諸窯系	図版37-596 20080615
図71-597 07003366	P5254	須恵器系陶器 擂鉢	-	-	-	灰	東播諸窯系 底部糸切	図版37-597 20080606
図71-598 07003362	P5172	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	灰白	-	図版37-598 20080601
図71-599 07003361	P5370	瓦質土器 擂鉢	-	-	-	黄灰	-	図版37-599 20080612
図71-600 05000341	P4240	瓦質土器カ 擂鉢	-	10.6*	-	に示い黄橙　暗灰	底部板状圧痕	図版37-600 20080223
図71-601 07002861	P6046	土師器 鍋	-	-	-	外：灰黄褐 内：に示い黄橙	鍋Ⅱa類	図版37-601 20080457・9458
図71-602 07003369	P5182	滑石製品 石鍋	-	-	-	-	鍔部下に穿孔	図版37-602 20080607
図71-603 05000340	P4143	須恵器系陶器カ 壺	-	-	-	灰黄	464と同一個体?	図版37-603 20080212
図71-604 05000375	P4298	滑石製品 小型容器	4.9*	-	推定 1.8	-	石鍋再加工品，煤付着 7.9g	図版37-604 20080713
図71-605 07002863	P6064	滑石製品 バレン形	長 7.5	幅 4.8+	厚 1.8	-	石鍋再加工品? 突起部に孔，69.6g	図版37-605 20080474
図71-606 05000373	P4297	石製品 砥石	長 10.5	幅 8.0	厚 4.8	-	4面使用，被熱，483.8g	図版37-606 20080254

表 4　北地区古代～中世の出土遺物

掲図・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図71-607 05000374	P4060	石製品 礪石	長 11.5	幅 8.2	厚 5.5	-	4 面使用、被熱、498.4g	図版 37-607 20080255
図71-608 07003370	P5214	石製品 礪石	長 12.7	幅 4.5	厚 5.7	-	2 面使用、被熱、297.3g	図版 37-608 20080617
図72-609 05000307	4 区検出面	白磁 皿	11.2*	5.5	3.3	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅳ類	図版 37-609 20080251
図72-610 07002962	6 区 O20 区画 検出面	白磁 皿	-	4.8*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	皿Ⅳ類 n	図版 37-610 20080634
図72-611 05000308	4 区検出面	白磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	碗Ⅳ類	図版 37-611 20080252
図72-612 07002958	6 区 O18 区画 検出面	白磁 碗	16.7*	5.3	7.2	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	碗Ⅳ類 n	図版 37-612 20080675
図72-613 07002961	6 区 O20 区画 検出面	青磁 皿	9.6*	4.3*	2.2	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	同安窯系皿	図版 37-613 20080633
図72-614 07002959	6 区 O20 区画 検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ 1b 類	図版 37-614 20080642
図72-615 07002967	6 区 T23 区画 検出面	青磁 碗	-	5.2	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅰ 1 類 n	図版 37-615 20080621
図72-616 07002960	6 区 O20 区画 検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ a 類 n	図版 37-616 20080643
図72-617 07002957	6 区 O19 区画 検出面	青磁 碗	17.5*	6.2*	7.3	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ b 類	図版 37-617 20080620
図72-618 07003319	4 区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ bc 類	図版 38-618 20080547
図72-619 07003318	4 区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰オリーブ 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ bc 類	図版 38-619 20080546
図72-620 05000309	4 区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰	龍泉窯系碗Ⅱ bc 類	図版 38-620 20080253
図72-621 07003321	4 区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ bc 類	図版 38-621 20080548
図72-622 07002966	6 区 T22 区画 検出面	青磁 碗	-	6.0*	-	釉調：オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅱ b 類	図版 38-622 20080635
図72-623 05000354	4 区検出面	青磁 碗	-	5.6	-	釉調：明緑灰 胎土：灰	龍泉窯系碗Ⅱ b 類	図版 38-623 20080249
図72-624 07003323	4 区検出面	青磁 皿カ	-	5.9*	-	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	龍泉窯系碗Ⅳ類 n	図版 38-624 20080550
図72-625 07003322	4 区検出面	青磁 碗	-	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	龍泉窯系碗上田 D 類	図版 38-625 20080549
図72-626 07001193	4 区南検出面	青磁 角杯	-	-	-	釉調：灰 胎土：灰白	高麗象嵌青磁	図版 38-626 20080399・0400
図72-627 07002963	6 区 O20 区画 検出面	土師器 鍋	-	-	-	にぶい黄橙	鍋Ⅱ b 類	図版 38-627 20080636・0637
図72-628 07002964	6 区 O20・Q20 区画検出面	須恵器系陶器 甕	26.2*	-	-	灰	-	図版 38-628 20080618・0619
図72-629 07002968	6 区 Q23 区画 検出面	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版 38-629 20080638・0639
図72-630 07002969	6 区 R19 区画 検出面	須恵器系陶器 甕	-	-	-	灰	-	図版 38-630 20080640・0641

４　近世の遺物

近世の遺物（図 73）

近世の遺物は２区・３区・４区を中心に出土したが、当該期の遺構は検出されておらず、出土量も多くない。主体を成すのは肥前陶磁を中心とする近世陶磁である。肥前陶器は皿（631・632）・擂鉢（652・653）・甕（656）があり、皿と甕は 16 世紀末～ 17 世紀前葉、擂鉢も 17 世紀代の中におさまる。肥前磁器は 18 世紀後半～ 19 世紀後半頃の波佐見系の粗製品が多い。肥前陶磁以外では、16 ～ 17 世紀代の瓦質土器茶釜、19 世紀代と考えられる軟質施釉陶器の行平鍋とその蓋、寛永通寶（新寛永）が出土した。出土遺物の年代には偏りがあり、17 世紀後半～ 18 世紀前半頃の資料に乏しい。

631 ～ 632 は肥前陶器皿の底部で、透明に近い灰釉を施す。631 は高台内にも施釉し、内底に 4 箇所の砂目を留める。内面の底部と体部の境に段が付く。632 は底部外面を露胎とし、内面の底部と体部の境にやや不明瞭な段が付く。口縁部を欠くが、631 は溝縁皿の可能性が高く、632 もこれと同時期かやや先行するものである。

633 ～ 650 は肥前の染付磁器で、器種は碗や小型の皿といった日常品に限られる。全体をうかがえない破片資料が多いが、633 ～ 635 は体部が半球形を成す丸形碗、636 は大振りの碗、637 ～ 640 は広東形碗、641 ～ 647 は底径が小さい端反形碗や丸形碗、648 は小丸形碗、649 は筒形碗である。650 は内底に五弁花のコンニャク印判がある皿である。633 ～ 639 や 643 ～ 646・650 は粗製で厚手の波佐見系と思われるもので、本遺跡出土資料の過半を占める。

651 は瓦質土器の茶釜で、頸部には細い沈線を廻らせ、肩には印花文を施す。

652・653 は肥前陶器擂鉢の底部である。いずれも糸切の底部破片で、遺存部分には施釉されない。652 は外面の体部と底部の境に焼成時の重ね焼痕がある。

654・655 は軟質施釉陶器の行平鍋とその蓋である。いずれも胎土は橙色系で、透明に近い灰釉を部分的に施している。654 は蓋で、内面と外面の一部に施釉する。欠失しているが摘みのあたりにも施釉するようである。655 と胎土や釉が同質で口径も合致することから共であったと思われる。655 は行平鍋で、口縁部から体部の破片と底部の破片は直接接合せず図上復元である。口縁部は受け口状に作り、露胎とする。外面の口縁下から胴部中位の屈曲部までと内面の口縁部以下のみに施釉する。把手部はないが、片口部が遺存する。外面体部上半に飛カンナによる文様を施す。外面体部下半から底部は露胎で使用による煤の付着が顕著である。

656 は灰釉の中型甕の胴部破片で、外面は格子タタキ、内面は青海波の当て具痕を留める。

657 ～ 658 は 5 N 区の攪乱部や検出面で採集された銭貨である。遺存状態が悪いが、銅銭の寛永通寶で、いずれも新寛永である。

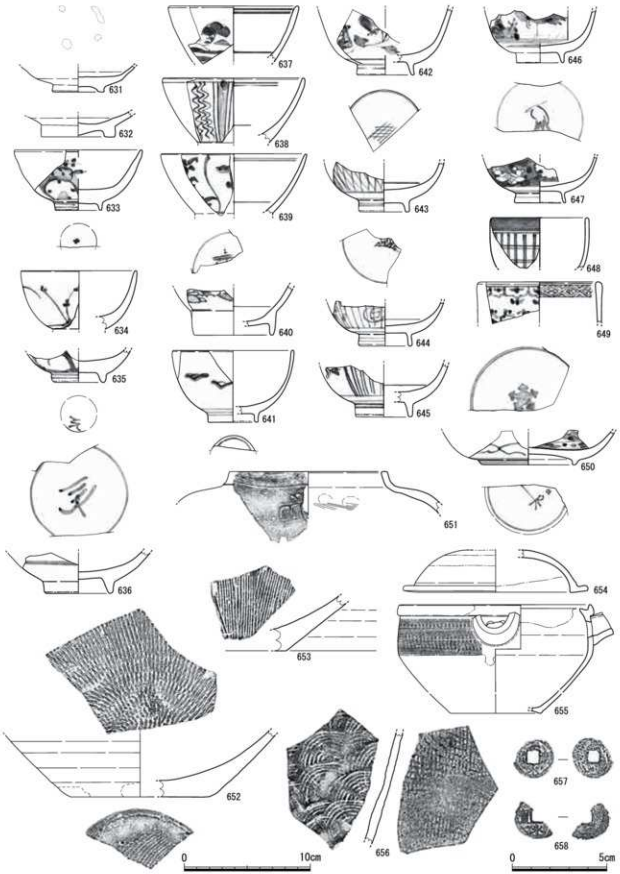


図 73　近世の出土遺物（1/3、657・658は 1/2）

表５　近世の出土遺物

図版・番号 登録番号	出土位置	種別 器種	寸法 cm 口径	底径	器高	色調	備考	写真図版 写真登録番号
図 73-631 02000411	2区下段 包含層	陶器 皿	-	4.1	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前、砂目	図版 38-631 20080531・0532
図 73-632 05000355	4区検出面	陶器 皿	-	5.9	-	釉調：灰白 胎土：灰黄	肥前陶器、灰釉溝縁皿か	図版 38-632 20080250
図 73-633 07001473	3区表採	染付磁器 碗	10.2*	3.7	4.8	釉調：明オリーブ灰 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-633 20080231
図 73-634 05000363	4区検出面	染付磁器 碗	9.2*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-634 20080259
図 73-635 05000360	4区検出面	染付磁器 碗	-	4.3	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-635 20080257
図 73-636 07001467	3区表採	染付磁器 碗	-	5.5	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-636 20080234・0235
図 73-637 05000364	4区検出面	染付磁器 碗	10.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-637 20080260
図 73-638 05000367	4区検出面	染付磁器 碗	11.3*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-638 20080262
図 73-639 05000368	4区検出面	染付磁器 碗	11.6*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-639 20080263
図 73-640 05000370	4区検出面	染付磁器 碗	-	6.3*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-640 20080264
図 73-641 07001472	3区表採	染付磁器 碗	9.7*	4.0*	5.7	釉調：明緑灰 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-641 20080230
図 73-642 05000359	4区検出面	染付磁器 碗	-	4.6*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-642 20080256
図 73-643 05000358	4区検出面	染付磁器 碗	-	4.1*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-643 20080265・0266
図 73-644 05000361	4区検出面	染付磁器 碗	-	4.3*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-644 20080267・0268
図 73-645 05000362	4区検出面	染付磁器 碗	-	4.5*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-645 20080258
図 73-646 07001468	3区表採	染付磁器 碗	-	3.8	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-646 20080681
図 73-647 07001474	3区表採	染付磁器 碗	-	4.0*	-	釉調：白、灰白 胎土：白	肥前磁器	図版 38-647 20080238・0239
図 73-648 05000365	4区検出面	染付磁器 碗	7.8*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-648 20080261
図 73-649 05000366	4区検出面	染付磁器 碗	10.0*	-	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-649 20080269・0270
図 73-650 05000369	4区検出面	染付磁器 皿	-	7.5*	-	釉調：灰白 胎土：灰白	肥前磁器	図版 38-650 20080271・0272
図 73-651 07001470	3区表採	瓦質土器 茶釜	12.6*	-	-	外：黒褐、暗灰黄 内：銅灰	印花	図版 38-651 20080201
図 73-652 07001469	3区表採	陶器 擂鉢	-	11.0*	-	外：にぶい赤褐 内：明赤褐、灰褐	肥前陶器、底部糸切	図版 38-652 20080226
図 73-653 02000423	2区検出面	陶器 擂鉢	-	-	-	にぶい橙	肥前陶器、底部糸切	図版 38-653 20080525
図 73-654 07001476	3区表採	陶器 行平鍋蓋	14.7*	-	-	外：にぶい赤褐、明赤褐 内：赤褐、橙	関西系軟質施釉陶器 産地未詳、655 と共	図版 38-654 20080233
図 73-655 07001475	3区表採	陶器 行平鍋	15.6*	7.0*	推定 8.6	外：にぶい赤褐、にぶい橙 内：明赤褐、橙	関西系軟質施釉陶器 産地未詳、654 と共、煤付着	図版 38-655 20080232
図 73-656 07001471	3区表採	陶器 甕	-	-	-	外：暗オリーブ 内：暗オリーブ、浅黄	肥前陶器、灰釉	図版 38-656 20080236・0237
図 73-657 08000363	5区撹乱	銭貨 (銅銭)	-	径 1.2	-	-	寛永通寶（新寛永）、1.4g	図版 38-657 20080654
図 73-658 08000364	5区 N13 区画 検出面	銭貨 (銅銭)	-	-	-	-	寛永通寶（新寛永）、0.9g	図版 38-658 20080653

5　まとめ

西畑瀬遺跡１～７区上層では、弥生～古墳時代の遺構・遺物、古代～中世の遺構・遺物、近世の遺物を検出した。このうち、弥生時代から古墳時代の様相と古代から中世の様相に関して簡単にまとめておきたい。

1）弥生時代から古墳時代における西畑瀬遺跡

西畑瀬遺跡の位置する脊振山間部では弥生時代から古墳時代の遺跡が非常に少なく、佐賀平野や唐津平野など多数の遺跡が分布する平野部・沿岸部とは際立った違いをみせる。遺跡の内容もこれまでほとんど知られておらず、佐賀市富士町の相尾遺跡、佐賀市三瀬村の天塘遺跡、唐津市厳木町の清音寺遺跡、唐津市七山の祈祷地遺跡などで数点の遺物が散見される程度であった。しかし、嘉瀬川ダム建設事業に伴う文化財発掘調査により、本書で報告した西畑瀬遺跡をはじめ、東畑瀬遺跡１区で弥生時代前期の竪穴住居らしき遺構や土坑、大野遺跡３区で古墳時代の土坑など、数は少ないが弥生時代～古墳時代の遺構が確認されるようになり、新たな手掛りが得られつつある。
西畑瀬遺跡では、弥生時代の遺構３基と古墳時代の遺構１基が検出され、遺構に伴わないものも含めて 30 数点の遺物が出土した。平野部と比較すると決して多い数ではないが、当地域における弥生時代から古墳時代の様相を探るうえで重要な資料である。

弥生時代の遺構は、中期の土器埋納遺構２基（SX2001・SX2002）と後期の甕棺墓１基（SJ6005）である。SX2001 は中期中頃の甕を倒置状態で埋納したもので、その状況から小型甕棺墓とは考えにくいため土器埋納遺構とした。これに近接する SX2002 からも中期前葉の甕が１個体分出土しており、出土状況は不明であるが同種の遺構であろう。SJ6005 は後期前半の小型甕棺墓で、今のところ脊振山間部では他に弥生時代の墓と思われる遺構が確認されていないため当地域の墓制にまで言及するのは難しいが、甕棺墓については日常土器を転用できる小児用の小型甕棺墓のみが採用された可能性がある（注１）。

弥生時代の遺物は、前期から後期に及ぶ弥生土器と石包丁がある（注２）。西畑瀬遺跡から出土した弥生土器を時代順に概観すると、まず前期中頃の板付Ⅱａ式並行期と思われる壺（７）と甕（８～ 10）がある。壺の胴部形態は佐賀平野の例に近似するが、口縁部外面を肥厚させるのは玄界灘沿岸部に多い特徴である。甕は如意形口縁の板付系甕で、口縁端部に刻目を施さない点はやや異質であるが、口縁がやや外傾しつつまっすぐに立ち上がり、緩やかに外反して端部を面取りするなど、佐賀平野のものより唐津平野の例に近い印象を受ける。11 ～ 13 は弥生時代前期末から中期初頭と思われる甕である。中期の甕としては、SX2002 出土品（１）と 14 が中期前葉、SX2001 出土品（２）と 15 が中期中頃に比定できる。この他、甕底部（16 ～ 19）と壺底部（20）が、前期から中期前半にかけてのものと思われる。後期に比定される土器は、SJ6005 棺体に用いられた後期前半の甕（３）があるが、これに続く後期中頃～後半の資料は出土していない。土器以外の弥生時代遺物は菫青石ホルンフェルス製の石包丁（28）がある。この石材は、石包丁の素材として佐賀平野をはじめとする北部九州で広く用いられるが、特に唐津平野や福岡平野では大部分を占め、未製品は壱岐を含む玄界灘沿岸部に集中し、原石産地も対馬である可能性が高いとされている（能登原・中野・小山内 2007）。

古墳時代の遺構は、土師器の甕（６）と高杯杯部２個体（４・５）を小穴に埋納した遺構で、何らかの儀礼的行為に伴うものと考えられる。出土した土師器甕・高杯は、小松編年（小松 2002・2003）の２Ｂ期～３期（梅白２式～牛原前田式）に相当する古墳時代中期のものである（注３）。鳥栖市幸津遺跡でも古墳時代前期～中期の土器埋納遺構３基が検出されていて（佐賀県教委 2007a）、西畑瀬遺跡例と違って甕は用いていないが、高杯の杯部を２～３枚重ね小穴に埋納する作法は共通しており、具体的には不明であるが同じ性格の遺構と推測される。

この他、遺構には伴わないが、古墳時代初頭の在地系甕（21）や古墳時代前期の布留型甕（26・27）があり、22 ～ 25 も古墳時代前期と思われる土師器である。

以上のように、西畑瀬遺跡は脊振山間部の調査例としては遺構・遺物が比較的多く、時期も弥生時代前期から古墳時代中期にかけてと幅広い。また、遺跡内での遺構・遺物の分布は南端部に集中しており、同じ場所が長期間にわたって繰り返し利用されていたことが明らかになった。ただ、土地利用のありかたが断続的であり、一時期あたりの遺物が少なく竪穴住居も検出されていないことから定住的な集落とは考えにくく、食料や物資の獲得を目的として平野部の集落から出向いた臨時的な野営地、あるいは平野間を結ぶ交通経路上の中継地等といった位置づけを想定しておきたい。

２）古代から中世における西畑瀬遺跡

西畑瀬遺跡における古代～中世の集落は、遺構の集中する区域が南地区と北地区とに二分され、南地区は平安時代末期の 12 世紀代、北地区は鎌倉時代から南北朝時代の 13 世紀～ 14 世紀代を主体とする。

南地区の遺構は、通路ないし区画かと思われる並走溝、屋敷地内の耕作痕の可能性がある並走・密集する小溝群、土坑等があるが、掘立柱建物などの施設は確認できず当該期の実態は不明瞭である。

南地区から出土した遺物は、総量が少ない上に破片資料がほとんどであるため傾向の指摘に留まるが、平安時代末期の 12 世紀代、特に 12 世紀前半代を盛期とするようで、部分的に重複するものの、総じて北地区に先行する時期が中心である。

北地区では多くの掘立柱建物をはじめ、柵列、土坑、流路、溝、鍛冶関連遺構等が検出された。掘立柱建物は、北地区の中央部とその西側から南側にかけて分布するが、主軸方位や位置関係からいくつかの群に分けられる。中央部の建物群は東西棟を主体とし、柱穴や周辺遺構の出土遺物から鎌倉時代の 13 世紀～ 14 世紀前葉と考えられる。南側中央の建物群も東西棟を主体とし、時期は中央部建物群と同じである。南西部の建物群と南端部の建物群は、周辺の遺構も含めて出土遺物から時期を限定することが難しいが、中央部と南側中央の建物群と同時期ないし一段階先行する可能性を考えておく。鍛冶関連遺構からは時期を明示する遺物がほとんど出土していないが、周辺の遺構から 13 世紀～ 14 世紀前葉の土器・陶磁器と共に鉄滓や鞴羽口が出土していることから、この時期と考えられる。鉄滓等の分析が未着手であるため、鍛冶関連資料については改めて報告したい。

北地区から出土した遺物は 12 世紀後半～ 14 世紀前葉を中心とするが、南地区との境を成す流路 SD5017 では、下層から平安時代後期の 11 ～ 12 世紀、上層から鎌倉時代の 13 ～ 14 世紀前葉を主とする遺物が出土している。SD5017 は北地区と南地区を画す位置にあるため遺跡全体の実態を反映している可能性が高いが、９世紀後半～ 10 世紀代に遡る資料や 14 世紀後半に降る資料が僅かながら認められ、遺跡の形成が古代後期から中世後期初めまでの長期間に及ぶことが判る。

北地区出土遺物のうち、いくつかの特徴的な資料について触れておく。476 ～ 478 は同一個体と思われる尾張型（注４）の瓷器系陶器捏鉢で、断片的な資料で不確実であるが知多（常滑）窯の製品ではないかと考えている（注５）。290 は、茶入として用いられた可能性がある中国福建産の薄胎施釉陶器（田中 2001）の小壺で、天目碗と考えられる黒釉磁器も小片ながら数個体分（291 ～ 295）があり、西畑瀬遺跡における喫茶の受容を示唆するものかもしれない。307・308 は朝鮮産無釉陶器で、12 世紀代とみられる（注６）高麗期の無釉陶器である。299 はベトナム白磁鉄絵（あるいは白釉陶器とすべきか）の口縁部破片で、口縁部が外側に屈曲して開く小型の皿（注７）である。小片で底部を欠くため時期比定が難しいが、SD5017 出土遺物では検出面や最上層から出土した 14 世紀後半代の資料がもっとも新しく、本例は最上部よりはやや下層の上層上部から出土していることから、下限を 14 世紀後半代に置くことができよう。佐賀県内におけるベトナム陶磁の出土例は、唐津市佐志中通遺跡の白磁鉄絵唐草文壺・白磁稜花盤（徳永 1998）と伊万里市川内野遺跡の白磁鉄絵皿（伊万里市教委 1990）が知られるのみであったが、近年、西畑瀬遺跡例、吉野ヶ里遺跡妙法寺跡の白磁揺座鉢（佐賀県教委 2007c）、小城市千葉城跡の青花皿（注８）が新たに確認された。いずれも日本から出土したベトナム陶磁の時期区分（森本 2000）で第１期（14 世

紀中葉～15 世紀中葉）に比定されるが、この段階のベトナム陶磁は、倭寇あるいは壱岐・対馬の商人の活動によってもたらされたと指摘されている。

今回の調査によって、西畑瀬遺跡の古代～中世集落が平安時代前半期の９世紀後半～ 10 世紀代まで遡ることが明らかになったが、先行する古墳時代後期から奈良時代までの遺構・遺物は周辺も含めて全く確認されておらず、平安時代に至って新たに開発がはじまったものと考えられる。その後、集落の形成は平安時代末期の 11 世紀後半～ 12 世紀前半代に南地区を中心に活発化するが、12 世紀後半～ 13 世紀前葉には北地区への移行という大きな構造変化を遂げる。13 世紀前葉から 14 世紀前葉にかけて北地区の集落が最盛期を迎えるものの、14 世紀後半には実態がやや不明瞭となり、15 世紀には廃絶したか調査区外に移動したと考えられる。当該期の畑瀬地区は肥前安富荘に含まれていたとみなされるので（宮武 1991）、西畑瀬遺跡における古代～中世集落跡の様相は、安富荘の領有形態の変遷やその経緯、あるいは前身となる国衙領の成立や開発の実態を投影しているものと思われ、東畑瀬遺跡をはじめとする周辺の遺跡と併せて検討していく必要がある。

注

1）東松浦半島のいわゆる上場台地上に位置する唐津市押川遺跡（佐賀県教委 1981）や湊中野遺跡（唐津市教委 1985）では、複数棟の竪穴住居があって一定の居住が認められるものの、これに伴う墓は小型甕棺墓のみで、成人棺と思われる大型甕棺や埋葬専用土器はなく、大型甕棺墓が盛行する平野部とは大きく異なっている。立地条件がやや異なるため単純な比較はできないが、脊振山間部においても同様の状況が想定される。

2）弥生土器に関して森田孝志・小松譲・沿谷格の各氏から、石包丁に関して渡部芳久氏から御教示をいただいた。

3）古墳時代の土師器に関して小松譲氏から御教示をいただいた。

4）柴垣勇夫氏の御教示による。

5）知多（常滑）窯とすれば中野編年（中野 1994）の６a 型式に比定されるが、６a 型式の年代観は 13 世紀第３四半期で、北地区の最盛期と重なる。佐賀県内では、神埼市神埼町尾崎和田遺跡と佐賀市久保田町上恒安遺跡で出土例があるが、いずれも５～６a 型式の資料で知多（常滑）窯の畿の流通量が最大となる時期にあたる（徳永 1996）。

6）赤司善彦氏と山本信夫氏のご教示による。朝鮮産無釉陶器の出土例は、佐賀県内では小城市三日月町社遺跡（三日月町教委 1999）とみやき町平林遺跡（北茂安町教委 1999）にあり、前者が 12 世紀代、後者が 13 世紀代の資料に伴っている。

7）森本朝子氏の御教示による。

8）小城市教育委員会の確認調査で千葉城跡主郭部から出土した資料で、調査・整理担当者である吉住秀樹・前田耕輔氏の御厚意により実見・確認した。詳細については報告を俟ちたいが、14 世紀後半～ 15 世紀初頭とみられる青花皿の底部破片で、内底に草花文を描き、高台内は鉄釉を塗る。

第３章　参考・引用文献

赤司善彦（1991）「朝鮮製無釉陶器の流入―高麗期を中心として―」『九州歴史資料館研究論集』16

伊万里市教育委員会（1990）「川内野遺跡・平山遺跡」伊万里市文化財調査報告書第 31 集

片山まび（2002）「高麗から朝鮮時代～十四・十五世紀の諸相―」東洋陶磁史　東洋陶磁学会

蒲原宏行（1991）「古墳時代初頭前後の土器編年　－佐賀平野の場合－」「佐賀県立博物館・美術館調査研究書」第 16 集

蒲原宏行（2003）「佐賀平野における弥生後期の土器編年」「佐賀県立博物館・美術館調査研究書」第 27 集

唐津市教育委員会（1985）「湊中野遺跡」唐津市文化財調査報告書第 14 集

唐津市教育委員会（1997）「佐志中通遺跡」唐津市文化財調査報告書第 78 集

北茂安町教育委員会（1999）「平林遺跡１区」北茂安町文化財調査報告書第８集

巌本町教育委員会（1979）「清音寺遺跡」巌本町文化財調査報告書第１集

巌本町史編さん委員会（1971）「巌本町史」　巌本町教育委員会

草場誠司・美浦雅二（2004）「唐津地域における板付Ⅰ式土器の再検討」「板付Ⅰ式期の再検討」　埋蔵文化財研究会

小松　譲（2002）「肥前地域における古墳時代中・後期土師器の編年」「古墳時代中・後期の土師器―その編年と地域性―」　第５回九州前方後円墳研究会資料集

小松　譲（2003）「梅白遺跡出土土師器群の編年的位置づけ　－梅白式の提唱　－」「梅白遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 154 集　佐賀県教育委員会

佐賀県教育委員会（1981）「押川遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 60 集

佐賀県教育委員会（2003）「梅白遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 154 集

佐賀県教育委員会（2006）「大江前遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 167 集

佐賀県教育委員会（2007a）「幸津遺跡」佐賀県文化財調査報告書第 169 集

佐賀県教育委員会（2007b）「東畑瀬遺跡１・大野遺跡１」佐賀県文化財調査報告書第 170 集

佐賀県教育委員会（2007c）「吉野ヶ里遺跡―国営吉野ヶ里歴史公園整備に伴う埋蔵文化財調査報告書２―」佐賀県文化財調査報告書第 173 集

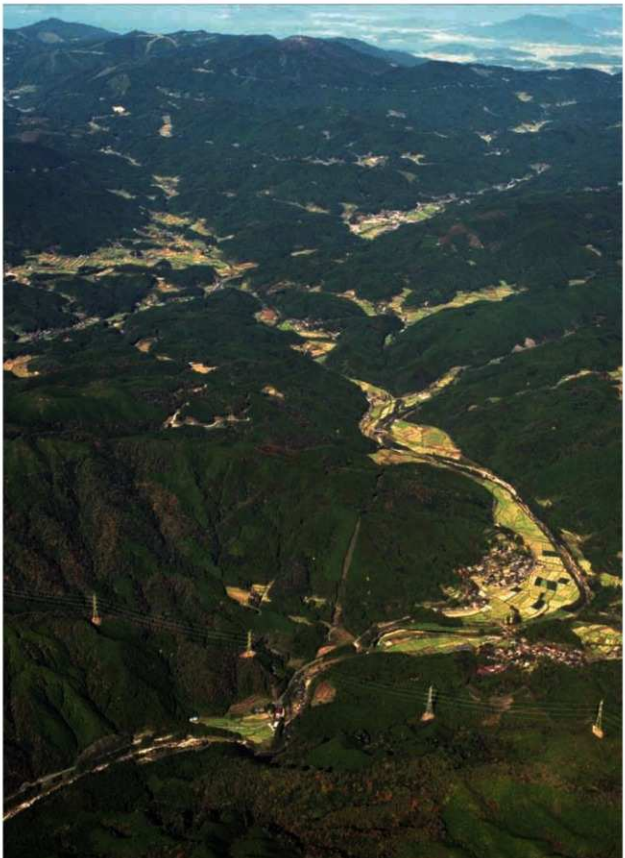
佐賀県教育委員会（2002）「平尾二本杉遺跡Ⅰ・Ⅱ」佐賀県文化財調査報告書第 131・132 集

脊振村史編さん委員会（1994）「脊振村史」　脊振村

田中克子（2001）「博多遺跡群出土陶磁に見る福建古陶磁（その一）博多出土の薄胎無釉陶器（茶入）」「博多研究会誌」第９号　博多研究会

太宰府市教育委員会（2000）『太宰府条坊跡ＸＶ―陶磁器分類編―』太宰府市の文化財第 49 集
千代田町教育委員会（1983）『武田西分貝塚』千代田町文化財調査報告書第２集
徳永貞紀（1996）「九州における古瀬戸の流通」『博多研究会誌』第４号　博多研究会
徳永貞紀（1998）「肥前神崎荘・松浦荘域の中世港湾と貿易陶磁」『貿易陶磁研究』No.18　日本貿易陶磁研究会
中野晴久（1994）「生産地における編年について」『「全国シンポジウム中世窯業焼を おって」資料集』　日本福祉大学知多半島総合研究所
中野　充（2004）「佐賀平野の弥生早・前期土器編年」『板付Ⅰ式期の再検討』　埋蔵文化財研究会
七山村史編さん委員会（1975）『七山村史』　七山村
西村昌也・西野範子（2005）「ヴェトナム施釉陶器の技術・形態の視点からの分類と編年―10 世紀から 20 世紀の碗皿資料を中心に―」『上智アジア学』第 23 号
能登原孝道・中野伸彦・小山内康人（2007）「いわゆる「真岩質砂岩」の原産地について」『九州考古学』第 82 号　九州考古学会
富士町教育委員会（2003）『富士町内遺跡発掘調査報告書　平成７年度～ 13 年度』富士町文化財調査報告書第２集
富士町史編さん委員会（2000）『富士町史』上巻　富士町
三日月町教育委員会（1999）『社遺跡』三日月町文化財調査報告書第 11 集
三瀬村史編さん委員会（1977）『三瀬村誌』　三瀬村公民館
美濃口雅朗（2007）「樽藤城窯（熊本県）」「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編」　全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会
三根町教育委員会（1989）『天建寺南島遺跡』三根町文化財調査報告書第６集
宮武正登編（1991）「肥前國安富荘関係史料集」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集　佐賀県教育委員会
宮武正登（1991）「本村遺跡をめぐる中世世界―安富荘内村落としての位置付け―」『本村遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 102 集　佐賀県教育委員会
森本朝子（2000）「日本出土の東南アジア産陶磁の様相」『貿易陶磁研究』No.20　日本貿易陶磁研究会
柳沢一男（1989）「土師器出土古墳編年試案の概要―九州―」「古墳時代前半期の古墳出土土器の検討」　第 25 回埋蔵文化財研究集会
山本信夫（1990）「統計上の土器―歴史時代土師器の編年研究によせて―」「九州上代文化論集」　乙益重隆先生古稀記念論文集刊行会
山本信夫・山村信榮（1997）「中世食器の地域性 10 九州・南西諸島」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 71 集

写真図版



嘉瀬川ダム予定地中心部（南東から）（平成 4 年 10 月撮影　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

西畑瀬遺跡遠景（南東から）（平成 4 年 10 月撮影　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

西畑瀬遺跡遠景（南から）（平成 4 年 10 月撮影　嘉瀬川ダム工事事務所提供）

SX2001（南西から）

SX2002（北から）

SJ6005　裏棺出土状況（西から）

SX1006（南から）

SX1006（北から）

SX7004 土師器甕出土状況

1区全景（北東から）

2区全景（南西から）

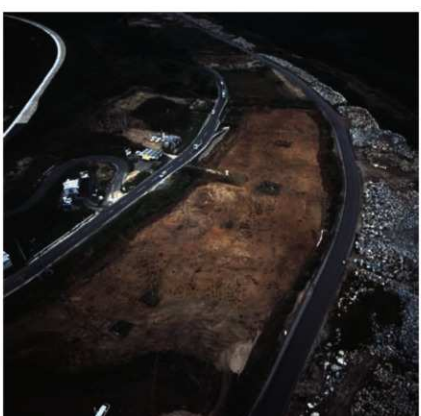
5S区全景 （上が南西）

7区全景（上が南西）

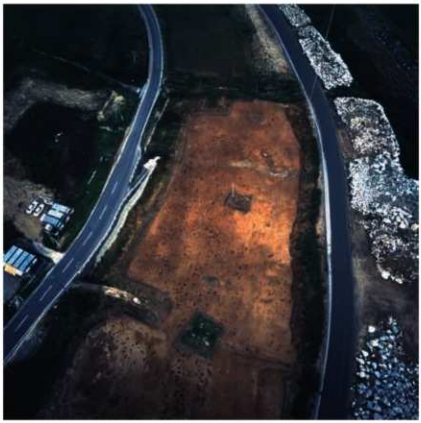
SK1004（南西から）

SX5002（西から）

4区北側遠景（南東から）



4区北側遠景（南東から）



4 区北側北半（上が北西）

4 区北側南半（上が西）

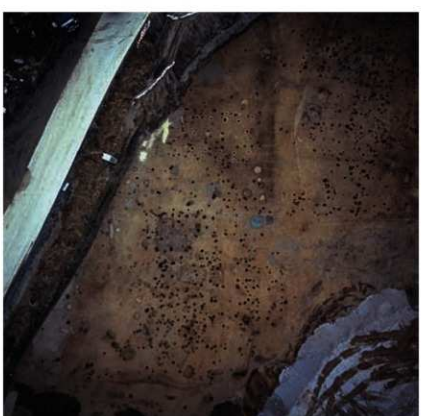
4 区北側拡大（上が西）

4 区北側拡大（上が西）

4区南側遠景（北から）

4区南側遠景（南西から）

4区南側全景（上が南）

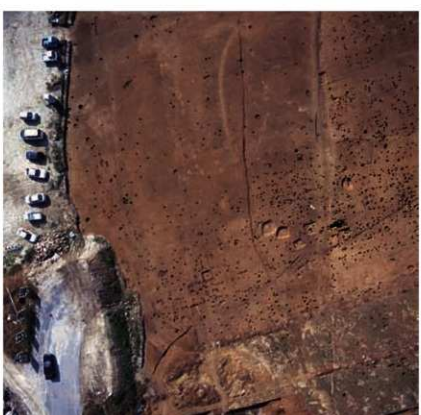


4区南側拡大（上が南）

５Ｎ・５Ｓ区遠景（北から）

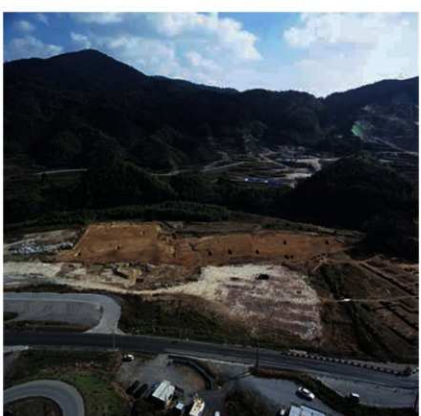
５Ｎ区全景（上が南西）

5 N区拡大（上が南西）



5 N区拡大（上が南西）

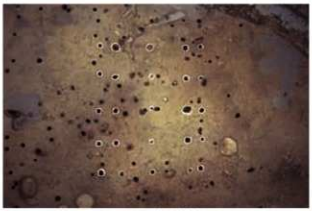
6区遠景（南から）



6区遠景（西から）

6区北側（上が北）

6区中央（上が北東）



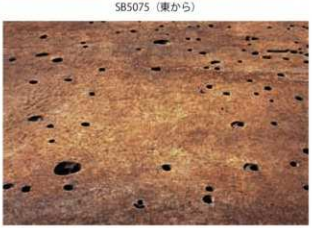
SB4092（上が東）

SB4113（東から）

SB5074（北から）

SB5075（東から）

SB5076（西から）



SB5077（東から）

SB5078（東から）

SB5079（北から）

5 N区 SD5017（西から）

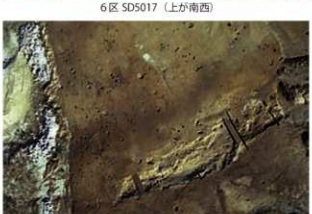
5 N区 SD5017（東から）

5 N区 SD5017　A土層（東から）

5 N区 SD5017　B土層（東から）

6区 SD5017（上が南西）

6区 SD5017　J土層（南東から）



SD6001（上が北東）

SD6001 土層（東から）

SK4061（東から）

SK4079（東から）

SK4080（東から）

SK4089（西から）

SK4090・SK4091（西から）

SK4097（南から）

SK4098（南から）

SK4103（南から）

SK4104（南から）

SK5021（東から）

SK5028（南から）

SK5032 遺物出土状況（西から）

SK5033（南から）

SK5034（西から）

SK5035（北から）

SK5047 遺物出土状況（東から）

SX4126（北から）

SX5041 半掘状況（南から）

SX5045 検出状況（西から）

SX5045 半掘状況（東から）

SX5072 検出状況（東から）

SX5072 半掘状況（南から）

SX5026 検出状況（西から）

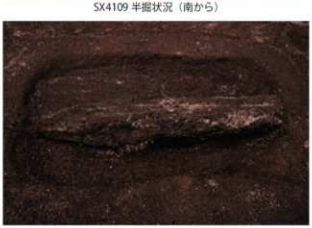
SX5026 半掘状況（西から）

SX4108 半掘状況（東から）

SX4108（東から）

SX4109 半掘状況（南から）

SX4109（南から）


SX4115 半掘状況（東から）

SX4115（東から）

SX5042 半掘状況（南から）

SX5042（西から）

SX5044 検出状況（東から）

SX5044 半掘状況（東から）

SX5044 遺物出土状況（東から）

SX5044（西から）

SX5066 検出状況（北から）

SX5066（西から）

SX5073 半掘状況（東から）

SX5073（東から）

SX5082 半掘状況（東から）

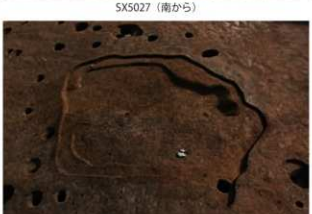
SX5083 半掘状況（南から）

SX5084 半掘状況（東から）

SX5022（東から）

SX5027（南から）

SX5029（西から）



SX6003（西から）

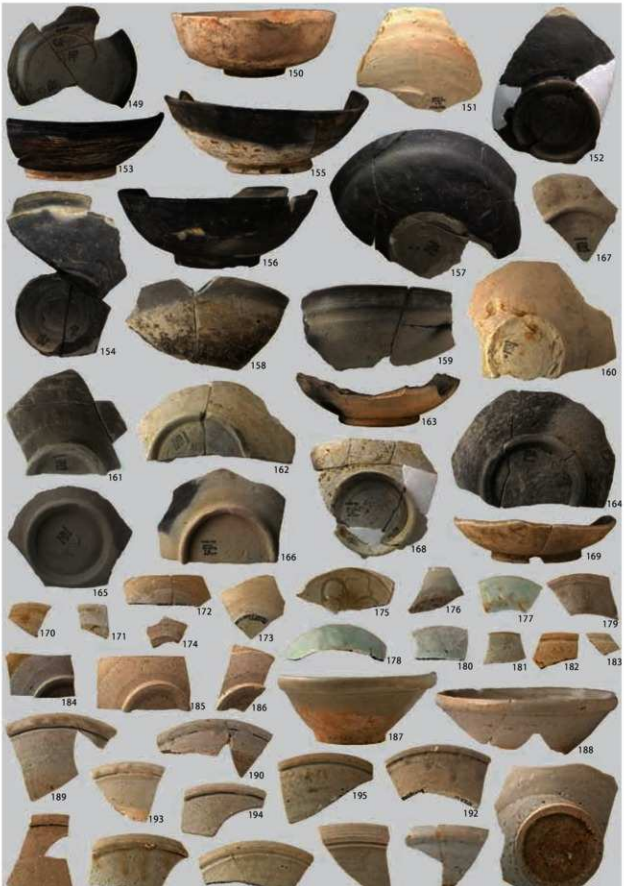
SX6003 遺物出土状況

1
2
3
4
7a
8
9
10
11
12
5
7b
13
6
7c
14
15
16
17
19
18
20
23
24
25
21a
22
21b
28
26
27

弥生〜古墳時代の遺物

南地区古代～中世の遺物 1

南地区古代～中世の遺物 2 、北地区古代～中世の遺物 1



北地区古代～中世の遺物 2

北地区古代～中世の遺物 3

北地区古代～中世の遺物 4

北地区古代～中世の遺物 5

北地区古代～中世の遺物 6

北地区古代〜中世の遺物 7

北地区古代〜中世の遺物 8

北地区古代～中世の遺物 9

北地区古代〜中世の遺物 10

北地区古代〜中世の遺物 11

北地区古代〜中世の遺物 12、近世の遺物

報告書抄録

ふりがな	にしはたせいせき1
書名	西畑瀬遺跡1
副書名	嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	2
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第176集
編著者名	徳永貞紀・濱田美紀
発行機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840-8570　佐賀市城内一丁目1番59号
発行年月日	平成20（西暦2008）年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″		㎡	
にしはたせいせき 西畑瀬遺跡	さがけんさがしさがしたまちだいじょうあざにしはたせ 佐賀市富士町大字畑瀬	412045	-	33°23′41″ (世界測地系) 33°23′53″	130°13′30″ (世界測地系) 130°13′21″	2～7区 20000605 ～ 20060328 1区 19980216 ～ 19980324	2～7区 47,500 1区 400	嘉瀬川ダム建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西畑瀬遺跡	集落・墓 集落	弥生 古墳	甕棺墓1 土器埋納遺構2 土器埋納遺構1	弥生土器 石包丁（磨製穂摘具） 土師器	脊振山間部の弥生～古墳時代集落
	集落	古代～中世	掘立柱建物21 柵列9 流路2 溝10 土坑35以上 鍛冶関連遺構12	在地系土器 須恵器系陶器 瓷器系陶器 中国陶磁 朝鮮陶磁 ベトナム陶磁 土製品・石製品 鉄製品 鍛冶関連遺物	安富荘関連の集落か
	集落	近世	-	在地系土器 肥前陶磁 軟質施釉陶器 銭貨	-

佐賀県文化財調査報告書第 176 集

西畑瀬遺跡 1

－嘉瀬川ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２－

平成 20 年（2008）年３月 31 日

発行　佐賀県教育委員会

〒 840-8570　佐賀県佐賀市城内１丁目１番 59 号

印刷　日之出印刷株式会社

〒 849-0921　佐賀県佐賀市高木瀬西６丁目 11 番５号